

- 一、常ニ衛生ニ注意シ、非常ニ處スルノ用意アルベシ。
- 二、自治的ノ習慣ヲ養フベシ。
- 三、野卑ナル言語舉動ナカラシムベシ。
- 四、幼兒ノ家庭ノ事情ヲ通ズベシ。
- 五、小學校ニ入りタル兒童ニ注意シ、彼此互ニ聯絡スベシ。

本校教育改善ニ關スル意見書 [例]

太田尋常高等小學校訓導

大内清

科目	改善項目	説明
教授細目	別冊ノ通り	主要教材ノ終リニ餘白ヲ入レテ教材ノ解説教授ノ反省ヲ加ヘテ活用シタイ
教材研究	尙一層ノ内容研究必要	教授ノ徹底ハ教材ノ研究ニヨル時間ヲツクリテ十分ニ研究ノ必要ガアル
教具	設備ハ別表、活用、整理ニ改善ノ必要アリ	使用後ノ始末ニ無責任ナルコトアリ、タメニ破損不潔亂雜ナリ
教授案	實質本位ノモノ必要	形式的見セルタメノモノハ不必要
教授週録	必要ヲ認メナイ、廢止	實際教授ニ何等ノ効ヲ與ヘナイ
教授時間	多少改善ノ要アリ	思考、記憶ヲ主トスル學科ヲ始ニ技能科ヲ終ニス、休憩時間ヲ十五分トスルコト
教授填補	同學年受持ノ者ガ填補教科主任ノ填補	兒童ノ自習ニ任セオクハ不可

善 ス キ 事 項

學級編制	男女別ノ編成 優劣ニヨル編成	男女別ヲ本則トシ、希望者アルトキハ優劣組ヲツクル
學級擔任	多少改善ノ要アリ	人格者ナラバ持上リガヨイ、其ノ他ハ持上リヲ加味スルコト異年又ハ異年ハ持上リガヨイ
教科主任	各學年指導	指導、教授ノ批評、教授力調査
成績考查	毎月一回、選題ヲ適當ナラシメルコト	教授反省、眞劍ナ學習
教授力調査	毎學期二回位ニスル	歴史、地理、理科、修身ヲ追加サセタイ
復習	教師ノ輔導ガ必要	兒童ノ自由ニ任セオクコトハ無理デアアル
豫習	全前	全上
優等兒指導	課題、宿題、參考書、進度	課外讀本、補充問題
劣等兒指導	正課内、正課外	個別的取扱、放課後指導
特別教授	特殊兒童、子守、小僧、病氣欠席、轉入兒童	
特別進級	低學年ニ於テ行フ	
學習訓練	低學年ノ學習作法 自學自習ノ指導檢閲	家庭トノ聯絡、校訓、訓練要目
各教科教授	各教科要旨	

善 事 キ ベ ス													
學級訓話	自治	役員	當番	役員會	學友團	少年團	兒童所	兒童所	一般所	作法	教授係	家庭係	社會係
從來ノ通り		中學年以上ノ選舉法	學年ノ進ムニツレテ凡テヲ兒童ニ任セル	學級役員會、學年全上學校全体全上、(毎月一回)	登校退校、遠足、運動		快活、勤勉、執着力不足	輕卒、後始末惡シ	言葉遣丁寧ニスルコト	學習態度ヲツクル	父兄トノ相談ヲヨリ多クシ	父兄トノ相談ヲヨリ多クシ	兒童ノ環境調査
朝禮訓話、合同訓話ノ敷衍、記錄		自習ノ監督指導	規律、責任、余リ干涉セヌコト	決議事項ヲ少クシテ實行スルコト		記錄ヲ備ヘタイ		落着キガナイ			父兄參觀ヲ多クシタイ		活動寫真觀覽ノ禁止

訓 練 上 改										如 何		
合同訓話	朝禮訓話	朝禮	兒童心得	個人訓練	級訓	訓練要目	校訓	主義方針	運動會	其他ノ施設	學用品	上
一ヶ月一回	時局問題ヲ多クシタイ			綿密ナ調査	必要ヲ認メナイ		尊皇、崇祖ノ項ヲ加ヘタイ		全校	學級、學年、全校	各學級一定シタイ 共同購入、給與、貸與	
一ヶ月一回位訓練スベキ主要ナコトヲ全体ノ兒童ニ徹底サセタイ	朝禮ノ体操ヲ多少増加變更シタイ 教師ノ体操			個性視察、家庭トノ聯絡 學校長ノ訓話	校訓アリ、訓練要目アリ、コレ以上ノ必要ヲ認メナイ		一層注意ヲシテ徹底ヲ計リタイ				學年始以前ニ各主任ガ適當ノモノヲ見立テ之ヲ買ハセルヤウニスル	

管 理 上 改 善 ス ベ										事 項 如 何										
學年主任會	學年會	訓練研究會	教授研究會	內容改善委員會	教科書會	研究發表會	職員會	早起會	劍道	水泳	遠足	校醫								
必要ヲ認めナイ	一層有効ニ開キタイ	毎月一ケ學年ニ就キ行フ	人員増加、批評眞劍	實行カ大切	従來通り	自信アル發表	協議事項豫告	回数増加カ、廢止カ	専任教師		各學期一回位シタイ	改善ノ必要アリ								
必要ノ場合ハ全職員集ツテ徹底サセル			毎月一回二人宛トシ批評ハモツト眞劍ニシタイ	多クヲ議スルヨリモ決定事項ノ實行ヲ計リタイ		回数ヲ減ジテモ實質アルモノニシタイ	揭示ハ前日又ハ前々日ニシタイ	日、二回デハ早起ノ習慣ハツケラレルカ、回数ヲ増スカ全廢カ、二回頃ハドウダラウカ		學校ノ事業トスレバモツト徹底シテヤリタイ然ラザレバ全然離レテ他ニ任セタイ		少クトモ月二三回、出勤シテ健康状態ヲ見ルヤウニシタイ、齒科醫、眼科醫モ囑托シタイ								

養 護 上 改 善 ス ベ キ										如 何										
身體検査	疾病	清潔法	運動遊戯	服裝	學用品	校具	教室	其他ノ施設	操行査定	個性調査	罰	賞								
一學期一回	校醫ノ出張診察	一週一回、各校舎毎ニ職員行フ	兒童ト共ニ運動シ指導スル	輕快ニ	小刀等ノ危險物取扱注意	修理	清潔、裝飾、整理			家庭トノ聯絡	公平	多クスル								
發育旺盛ノ兒童ノ保健上ヨリ見テ年一回而カモ形式的ノモノデハ物足りナイ			書体放課後、兒童ト共ニ遊ビ、庭球、野球、フットボール等ノ指導ヲスル	殊ニ女兒ノ服裝ハモツト輕快ナモノニシタイ		腐破損シテ居ルモノヲ修理シタイ	現在ハ水ノ供給不十分ノ爲メ餘リ清潔トハヒナイ		全前	學校ニ居ルトキバカリテナク家庭ノ様子ヲ知ルコト										

ニ 設 備 上 改 善 ス ベ キ 事 項												
普通教室	特別教室	御影奉安所	校長室	職員室	醫務室	使丁室	機械標本室	便所	物置	井戸	運動場	學校園
棚、臺ノ設備、兒童用黑板		石造又ハ鐵筋コンクリート	從來ヨリモ廣クシタイ	改善ヲ要ス			擴張ヲ要ス		整頓	増設、電力利用	擴張ヲ要ス	區域分擔法
裁縫用具、運動用具ノ置場ヲ設ケル		校舍ト離レタ安全ナ場所ニ	重要書類圖書類等ヲ供ヘタイ	光線ノ十分ナ兒童監護ニ適當ナ所ニシタイ	寢臺、毛布、救急藥品等ノ設備	職員室、宿直室ノ近クニシタイ	整然タラシメル戸棚ノ設備			ニケ所又ハ三ケ所ニ設ケ電力装置ニシタイ	此運動場ヲ更ニ擴張シテ休日ニハ解放シテ社會体育ニ資シタイ	モット理科教材ノ栽培ヲシタイ

キ 事 項 如 何 特												
二葉會	事務分掌	當直勤務	監護當番	學友團監督	職員集合	体操實習會	少年團監督	校友會	同窓會	使丁給仕	校地	校舍
遠足、運動	各係打合會ヲ開イテ整理ス	引繼法、責任	週番トスルコト	團員名簿整理	必要ノ場合ノミ集合	多少改善ノ要アリ	組織改正	遊戲用具ノ備付	中等學校在學生會合	自轉車購入		合圖ニ大ベル装置
春秋各一回遠足、運動ハモット盛ニシタイ	分担ヲ平均スルコト		教師ノ監護ヲ一層勵行シタイ	學年末ニ於テ各團毎ニ整理スルコト	無意味ノ集合ヲ廢シタイ	娛樂ヲ加味シタイ	團旗、マークヲ作りタイ			自轉車ニ乘リ得ルモノヲ入レテ機敏ニ仕事ヲサセタイ、兒童ニ親切ニサセル		一ケ所又ハ二三ケ所ニ装置シテ報時ヲ正確ニシタイ

如何	如 何	
	講 堂	宿 直 室
大鏡、大塗板、掃除用大ブラ ツシ、如露ヲ備ヘタイ	寢臺椅子テーブル式	室内ノ設備ヲ早クシテ雨中体操場ノ實ヲ表 シタイ
他ノ其		

教授ニ關スル改善案

教具ノ設備

設備ノ方法上

- 1、已設修理補充ヲ要スルモノ
- 2、教員ノ工夫製作ニ依ルモノ
- 3、教員ノ採取蒐集ニ依ルモノ
- 4、新ニ購入スルモノ

設備年度

- 1、大正十二年度内設備スルモノ

品 目

- 2、大正十三年度内
- 3、校舍増築竣成後
- 1、器具機械類
- 2、標本類（實物模型）
- 3、掛圖類
- 4、地圖類
- 5、寫真繪畫繪葉書類
- 6、印刷物統計書類

- 7、實驗用藥品
- 8、植物栽植
- 9、動物飼育
- 10、其ノ他ノ設備
- 11、參考用圖書（教師用、兒童用共用）

調査要項

- 1、各教科主任調査ニ任ズルコト
- 2、價格其ノ他ノ費用ハ見積リ難キ場合ノ外成ルベク實際ニ調査スルコト

教具設備

調査主任

教科目	品 目 件 名	数 量	價 格 費 用		設備年度	備 考
			單 價	合 計		

五、佐竹村教育改善案

久慈郡 佐竹村

第一 本村教育改善案要項

A 作成方針

小學校、補習學校、青年會、處女會、教育會、村農會等ニ於テ其趣旨ニ基キ教養指導ニ當タルハ勿論御影ヲ真髓トシテ教育勅語、戊申詔書、國民精神作與ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等ヲ奉体シ且村ノ過去現在ノ實況ニ立脚シテ改善方針ヲ確立シ實力アル而モ質實剛健ニシテ勤勞ヲ尙ブ優良ナル國民ヲ養成シ農村ノ振興ヲ圖ラントス。

B 構成

甲、骨子

第一 村ノ狀況

緒言、村圖、村ノ沿革、疆土、住民、行政、兵事、財政、産業、交通通信及警備、神社寺院、衛生、慈善救濟、現今ニ於ケル列國教育施設ノ概況、我方國家ガ現在最モ重視セル教育、本村ニ立脚シタル農村教育ノ改善、本村教育改善案要項

第二 小學校

緒言、御影並教育勅語戊申詔書 教育ニ關スル御沙汰書御令旨等奉、教育主義方針、教育者ノ改善、校長教員)

職員ノ研究修養(他校視察、研究教授、模範教授、講演、講習會、教科分擔研究、技能、教科研究、修養會規程)

教員ノ職務及服務

職務(學長執務規程、教員ノ執務規程、職員會規程、事務分擔規程、宿直規程、非常警備規程)

服務(職員ノ服務心得)

沿革

設備(校地、校舍、佐竹村三小學校ノ併合、納屋肥料倉、教員住宅、運動場、雨天体操場、通

學通路改修、器具、器械)

就學狀況 就學出席督勵、就學及出席歩合、過去十ヶ年間ノ狀況

編制狀況 過去十ヶ年間ノ編制狀況、併合後ニ於ケル編制見込)

教授(教授ノ主義方針、修身科、國語科、算術科、歴史科、地理科、理科、圖書、唱歌科、體操

科、家事科、裁縫科、手工科、農業科、教授細目及教案、教授上ノ特別施設「研究教授

校外教授、豫習、複習、修學旅行、學藝會、教授力調査、購置」簡易圖書館、教育參

考館)

訓

練(訓練主義方針、訓練ノ機會〔校訓、合同訓話、記念合同訓話、諸秩序、儀式、作業〕訓練

ノ手段〔示範、命令禁止、訓諭、懲罰、褒賞〕訓練ノ特別施設〔校外取締、自治的施設〕

檢閲、性行査定、國民精神作興ニ關スル詔書奉体

養護上ノ施設(養護上主義方針、養護上ノ消極的方面、養護上ノ積極的方面、養護上ノ特別施設、

身體檢査及檢査成績活用、体育運動、急救治療、清潔法、傳染病豫防、トラホーム

豫防及治療、季節病豫防、夏季衛生、近視眼豫防、口腔衛生、特殊兒童ノ保護、急救

用設備

家庭トノ連絡(卒業生同窓會トノ連絡、青年會處女會トノ連絡、補習學校トノ連絡)

模範學校(學校、學級、教室、教員室、運動場、教師ノ要スベキ資格)

結論

第三 補習學校

緒言、御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、教育主義方針、教育者改善(校長、教員、待遇、職員ノ修養研究、讀書會、教材研究發表會、講演、講習會、參觀及視察、研究教授、模範教授、各科分擔研究、修養會規程)

教員ノ職務及服務

職務(學校長執務規程、教員執務規程、職員會規程、事務分掌規程)

服務(職員服務心得、職員ノ覺悟)

商議員及督屬員、沿革、學則(過去、現在、改善)通年、季節、兩制採用

設置及設備(教員控室、生徒控室、生徒集合場、普通教室、探光探暖、實習地)

經費、諸帳簿、教科編制、教科及時間數、教科書、細目、教授期間及休業日、教授期間外施設

教授(男女子部教授主義方針、教材研究、教授ノ準備、教授ノ方法、修身公民科、國語科、數

學科、筆算、球算)理科、體操科、家事科、裁縫科、農業科、授業時間表並督屬委員出勤

分擔表、農業實習ニ關スル施設、入學及出席督屬、個人獎勵、團體獎勵、過去十ヶ年

間ノ就學及出席歩合、教授ニ關スル特別施設、研究教授、學藝會、品評會、展覽會、見

學ニ關スル施設、講演、講習會、教授力調査、簡易圖書館、教育參考館)

訓練(男女子部訓練主義方針、訓練要項、訓練法、社會公共ニ對スル奉仕事業、体育ニ關ス

ル施設、娛樂ニ關スル施設、卒業生指導、小學校ト連絡、青年會處女會トノ連絡、家

庭トノ連絡、農會トノ連絡)

結論

第四 青年會

緒言、御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、內務文部兩大臣訓令遵守、指導主義方針

指導者ノ改善(指導者ノ修養改善スベキ要件、幹部及中堅青年會員、指導者ノ覺悟、青年指導援

助者)

沿革 (會則、過去、現在及改善) 組織經營ノ實際、設備

修 (補習教育ノ振興、農業實習、就學及出席督勵、講演、講習會、一夜講習會、雄辯會、簡易圖書館、教育參考館、會報、通信教授、揭示教育)

訓練 (訓練主義方針、訓練要項、訓練法、社會公共ニ對スル奉仕、勤勞ニ對スル實際的施設、共同生産事業、御影ヲ真髓トシテ教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、御令旨等奉体ニ關スル施設、自治ノ訓練、團體的訓練、實行的訓練、中堅青年養成、會員相互ノ共同誘掖、個別的訓練、機先ヲ制セヨ、役員及會員ノ表彰)

體育ノ方針並施設、娛樂ニ關スル方針並施設、小學校トノ連絡、家庭トノ連絡、補習學校トノ連絡、處女會トノ連絡、軍人分會及消防組トノ連絡、農會トノ連絡、産業組合トノ連絡

結論

第五 處女會

緒言、御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、內務文部兩大臣訓令遵守、指導主義方針

指導者改善 (指導者ノ修養、改善スベキ要件、幹部及中堅處女養成、指導者ノ覺悟)

修 (補習教育ノ振興、農業實習、就學及出席ノ督勵、講演、講習會、通信教授、揭示教育、簡易圖書館、教育參考館)

訓練 (訓練主義方針、訓練要項、訓練法、奉仕事業、共同生産事業、其他)

體育方針並施設、娛樂ニ關スル方針、並ニ施設、小學校トノ連絡、補習學校トノ連絡、青年會トノ連絡、農會トノ連絡

結論

第六 教育會

緒言、御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、內務文部兩大臣訓令ノ遵守、主義方針

幹部ノ改善、沿革、會則、組織、經營一覽表

事業 (講演會、講習會、父兄弟姉妹會、展覽會、品評會、會報、視察、表彰、貧困兒童保護、敬老會、簡易圖書館、教育參考館、生活改善ノ勵行、娛樂並體育ニ關スル施設、各種團體トノ連絡)

結論

第七 村農會

緒言、御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、主義方針、幹部ノ改善、沿革、會則、組織經營、施設事業及改善、小學校トノ連絡、補習學校トノ連絡、青年會、處女會トノ連絡、産業組合トノ連絡、郡農會トノ連絡、其他ノ團體トノ連絡

結論

乙、實行上ノ有力ナル点

御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等奉体、農村教育ノ改善、小學校統一並校舍新築改築（義務教育延長ヲ豫想シテ）運動場擴張、學校通學通路ノ改修、教育ノ内容改善補習教育ノ振興（校舍ヲ新築設備ノ完成ヲ圖リ通年季節兩制採用シテ）、青年會ノ振興、處女會ノ振興、村教育會ノ振興、社會教育ノ改善、教員住宅、簡易圖書館、教育參考館、雨天体操場、公會堂等ノ設備利用

C 結論

教育ノ改善ヲ圖ルニハ教育者及指導者ニ熱誠ナル其人ヲ得、且村理事者及有力者各種團體等ノ深厚ナル盡力アリ而シテ舉村一致以テ奮勵セシムルコト緊切ナリ

第二 小學校ノ設備（摘録）

(一) 校地

A 過去現在ノ狀況

1 佐竹尋常高等小學校

佐竹村谷河原ノ東北作ノ堂ト稱スル所ニアリ位置高クシテ宜シケレトモアマリ人家ニ接近シ校地反別三反五畝從ツテ運動場モ狹隘ニシテ且ツ粘土ナルヲ以テ殊ニ冬季ノ如キハ兒童教養上甚ダ不適當ナリ

2 天神林尋常小學校

佐竹村大字天神林ノ約中央ニアリ高燥ニシテ眺望ヨロシク校地一反七畝ヲ有シ狹隘ヲ認メザレ

ドモ縣道ニ接近シアル故兒童監護上遺憾ノ場合尠ナカラズ
3 稻木尋常小學校

佐竹村大字稻木ノ中央ニアリテ通學ニ便利ナリ校地一段一畝ヲ有シ狹隘ニアラザレドモ人家ニ接近シ兒童教育上遺憾ノ場合尠ナカラズ

B 改善ノ方針

1 設備ノ方針

學校ノ設備ハ教育ノ効果ヲ收ムル上ニ至大ノ關係アリ故ニ左ノ方針ニ依リ設備ヲ要ス

- 1) 永遠ノ設計タルベシ
- (2) 教育ノ目的ニ適合スベシ
- (3) 衛生上ノ顧慮十分ナルヘシ

2 校地

校地ノ選定ニ關シテハ注意スヘキ点多々アリ本村ノ如ク新ニ校地ヲ選定スルニ當リソノ條件ニ適合スル様大ニ努力セリ其ノ選定上ノ要件ハ左ノ如シ

(1) 衛生上

低下卑濕ノ地並ニ有害ナル瓦斯煤烟塵埃等ヲ發スル工場又ハ沼澤墓地等ニ接近シタル地ヲ避ケ開豁高燥ニシテ空氣ノ流通光線ノ射入共ニ宜シク善良ナル飲料水ヲ供給スルコトヲ得排水ノ良好ナル地ヲ選ブベシ

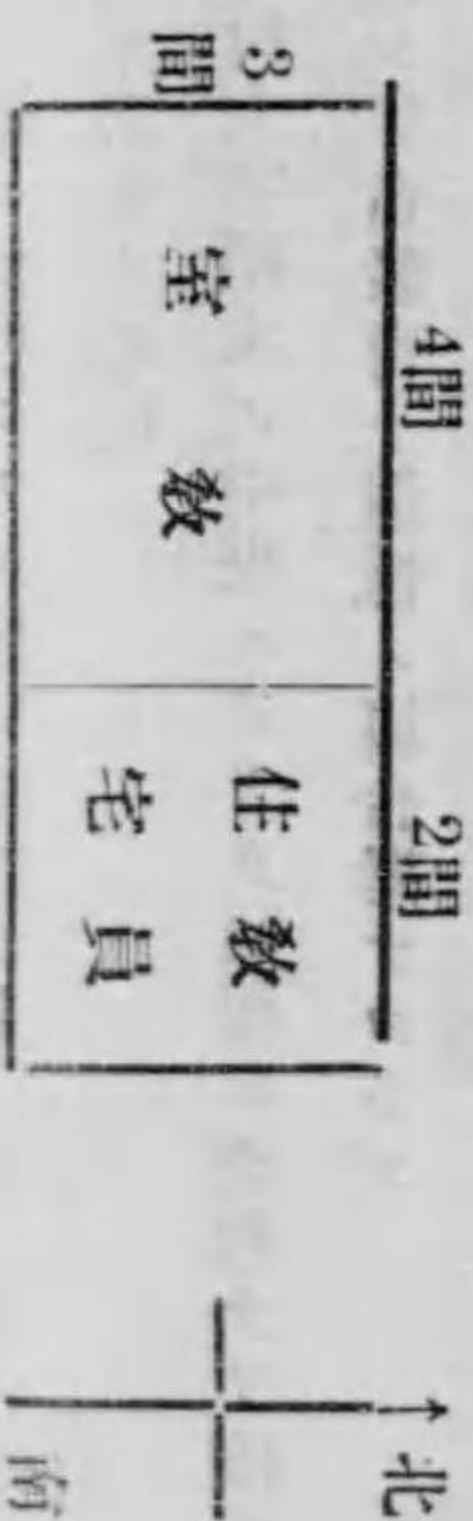
- (2) 通學上 餘リニ通學距離ノ遠カラザルコト
- (3) 道徳上
閑靜ニシテ卑俗ナラザル土地ヲ選ブベシ、劇場酒樓等ニ隣接セル土地ハ宜シカラズ郷土ノ有名ナル歴史的關係アル土地最モ宜シトス
- (4) 教授上
喧噪ニシテ兒童ノ注意ヲ乱シ學習困難ナラシムル場所即チ市場工場停車場附近ハ避クルコトニ留意セリ

(二) 校舎

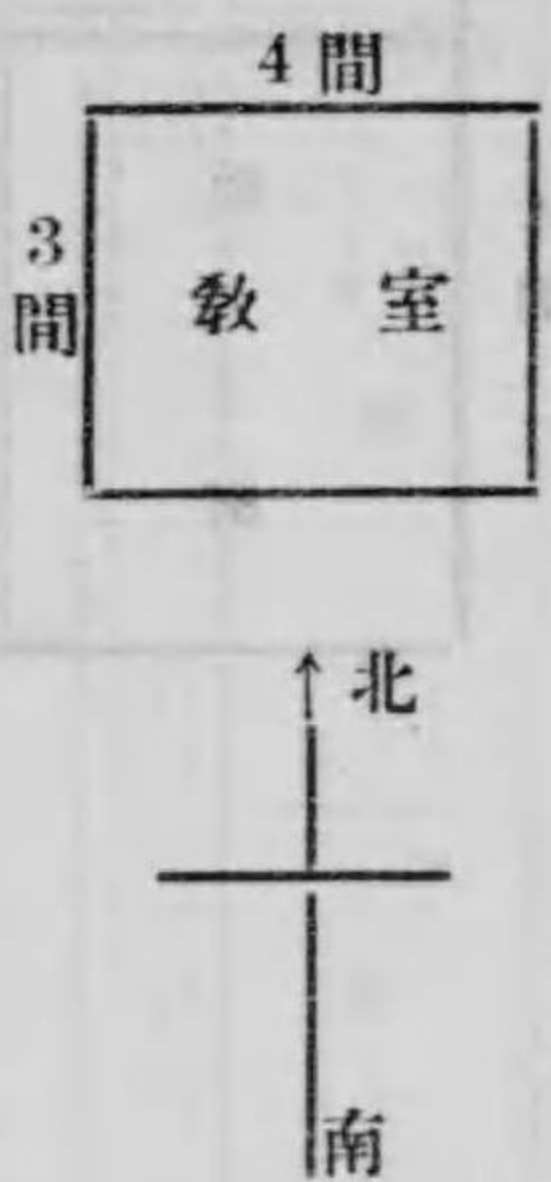
A 過去現在ノ校舎

1 佐竹尋常高等小學校

- (1) 明治六年八月舊磯部谷河原下河合ノ四ヶ村聯合シテ磯部村田谷ニ設立シタル村倉ヲ修繕シテ校舎トセル坪數十二坪ナリ



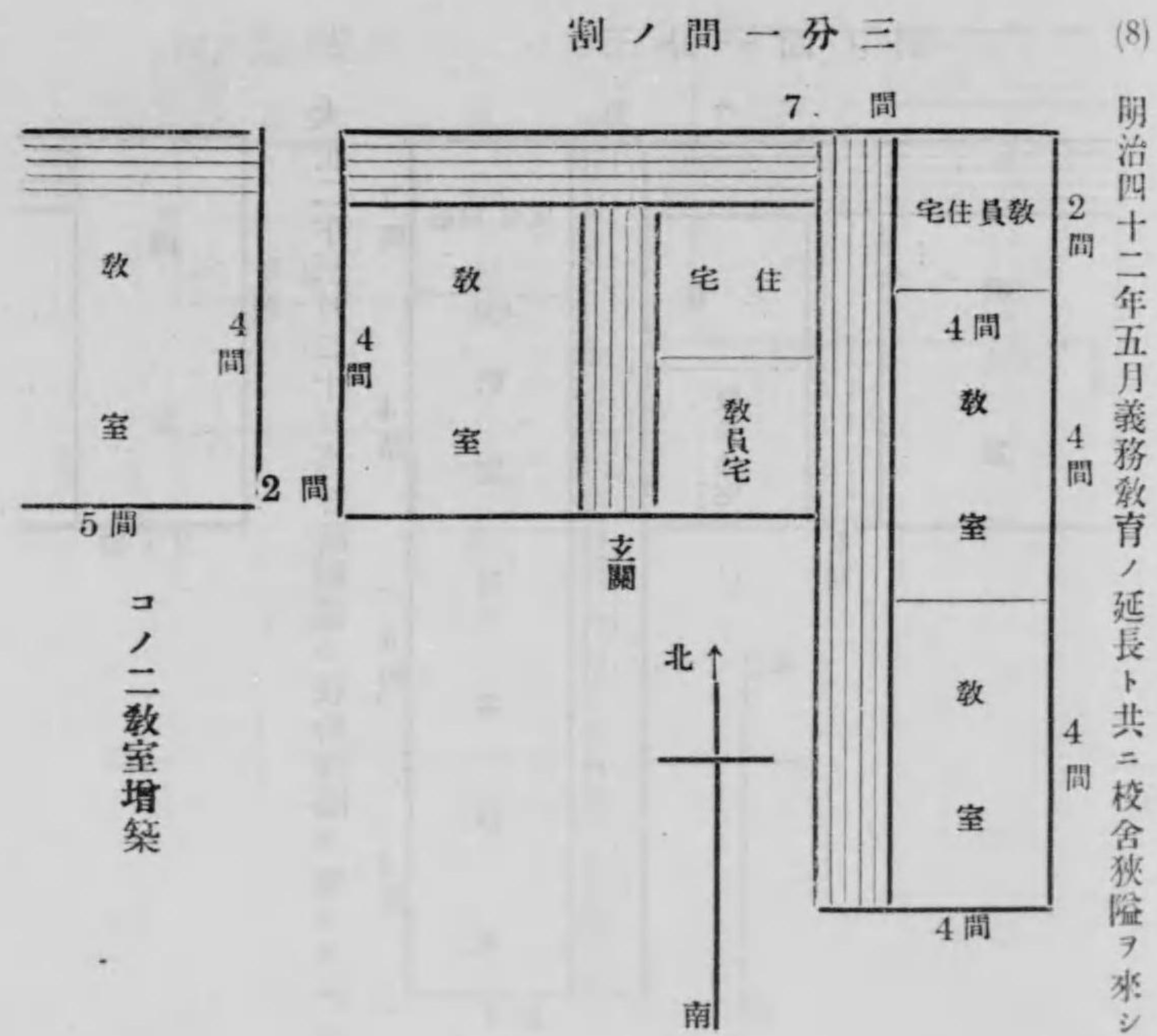
- (2) 明治十二年谷河原作ノ堂へ新築シタル分敷場校舎十二坪ナリ
三分一間ノ割



- (3) 明治二十二年八月佐竹尋常高等小學校ト改稱校舎狹隘ニツキ教室並ニ教員住宅ヲ増築校舎ノ東側へ用水井戸ヲ掘ル
三分一間ノ割

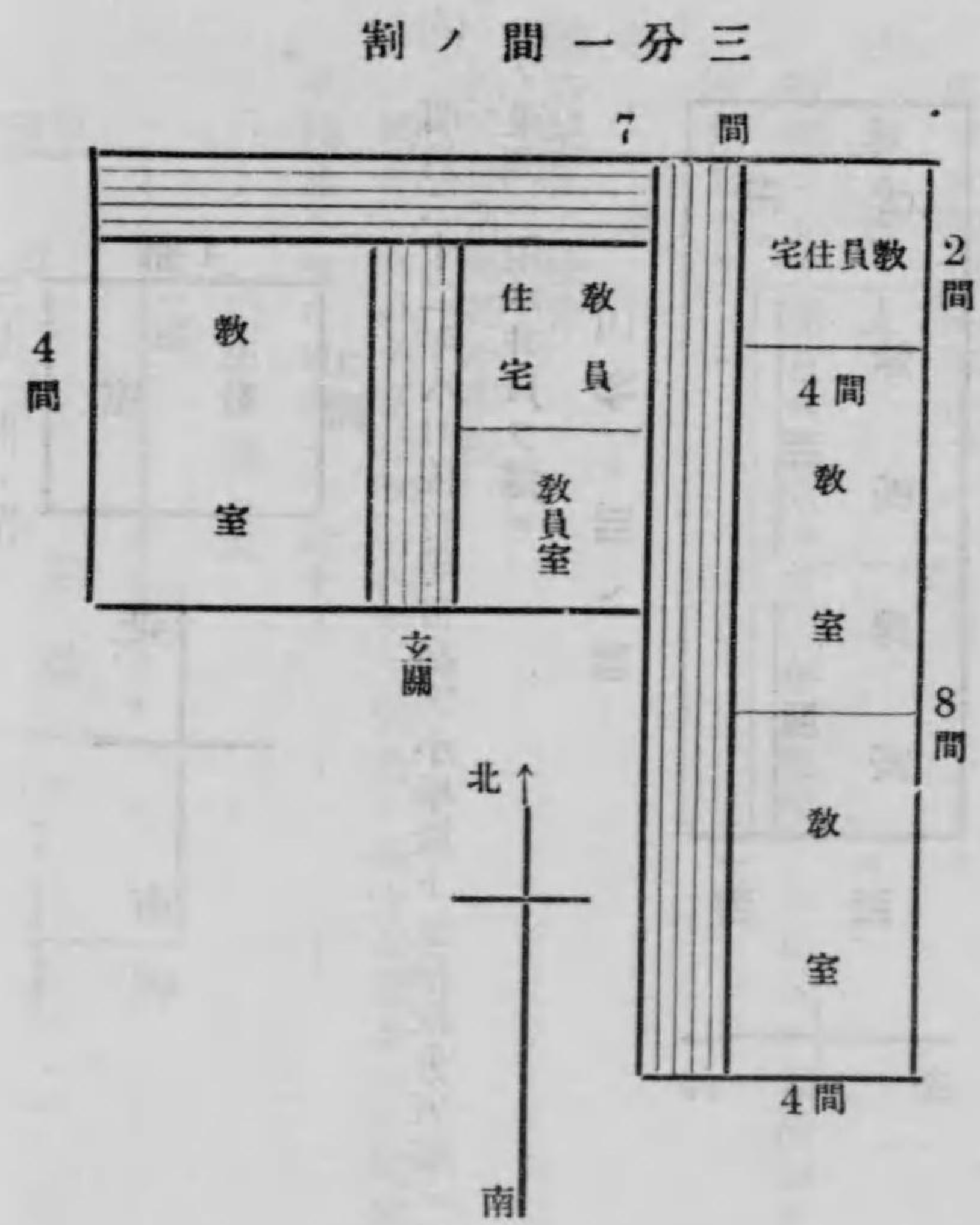


- (5) 明治三十一年五月隣地白羽神社境外官林地ヲ以テ樹木ヲ附シ拂下ケ官許ヲ得テ運動場ヲ擴張ス其反別六畝歩ナリ
- (6) 明治三十五年六月現在校地ノ狹隘ナルヲ以テ谷河原區ノ協議ヲ遂ゲ上谷畑地二反五畝七歩



(8)

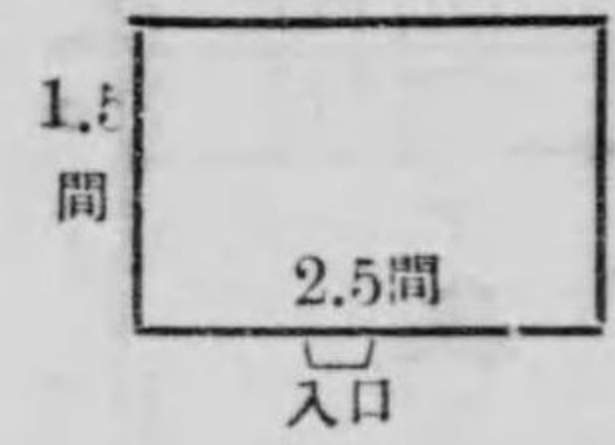
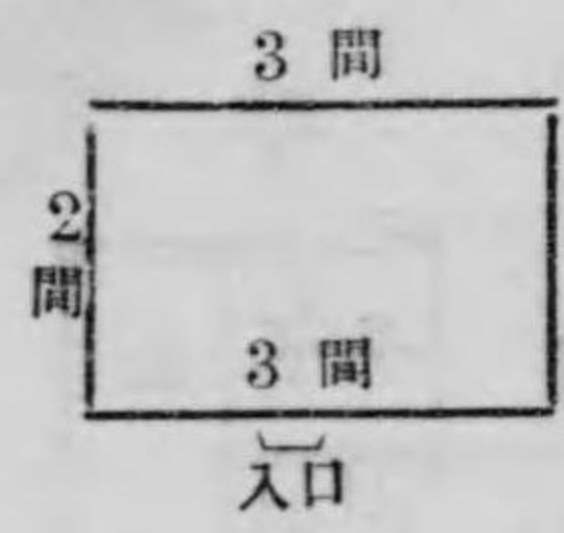
明治四十二年五月義務教育ノ延長ト共ニ校舍狹隘ヲ來シ三拾三坪二合五勺ヲ増築セリ



ヲ當區ニテ山田子之吉外三名ヨリ買ヒ入ル

(7) 明治三十七年一月新校舍八拾八坪五合ノ平家造大小便所競争入札トシテ金一千三百九十
八圓ニシテ磯部川崎辰之介氏ニ請負ハシメタリ

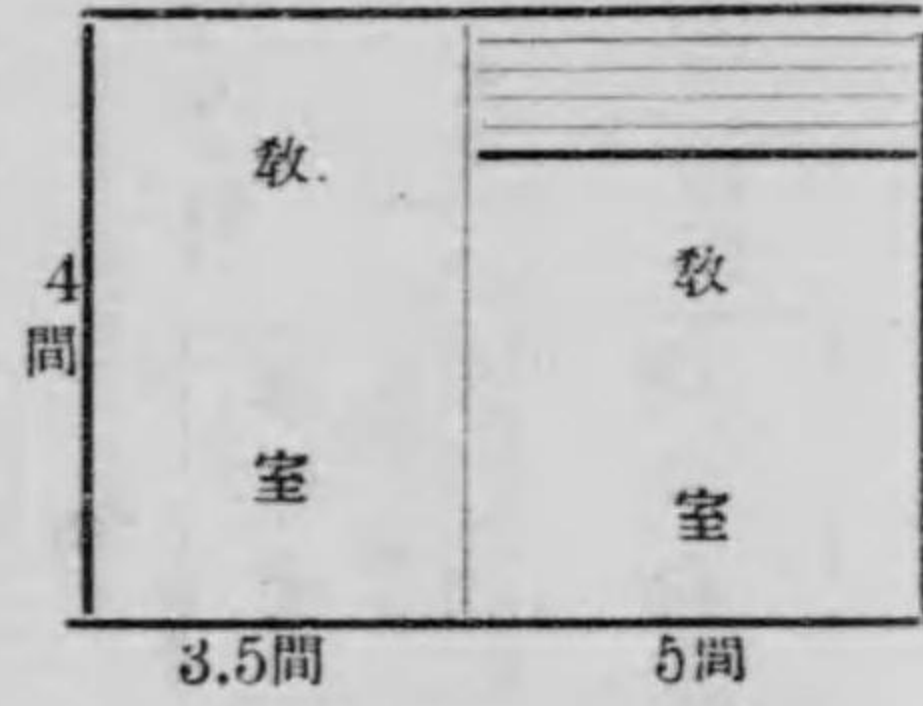
割ノ間一分三



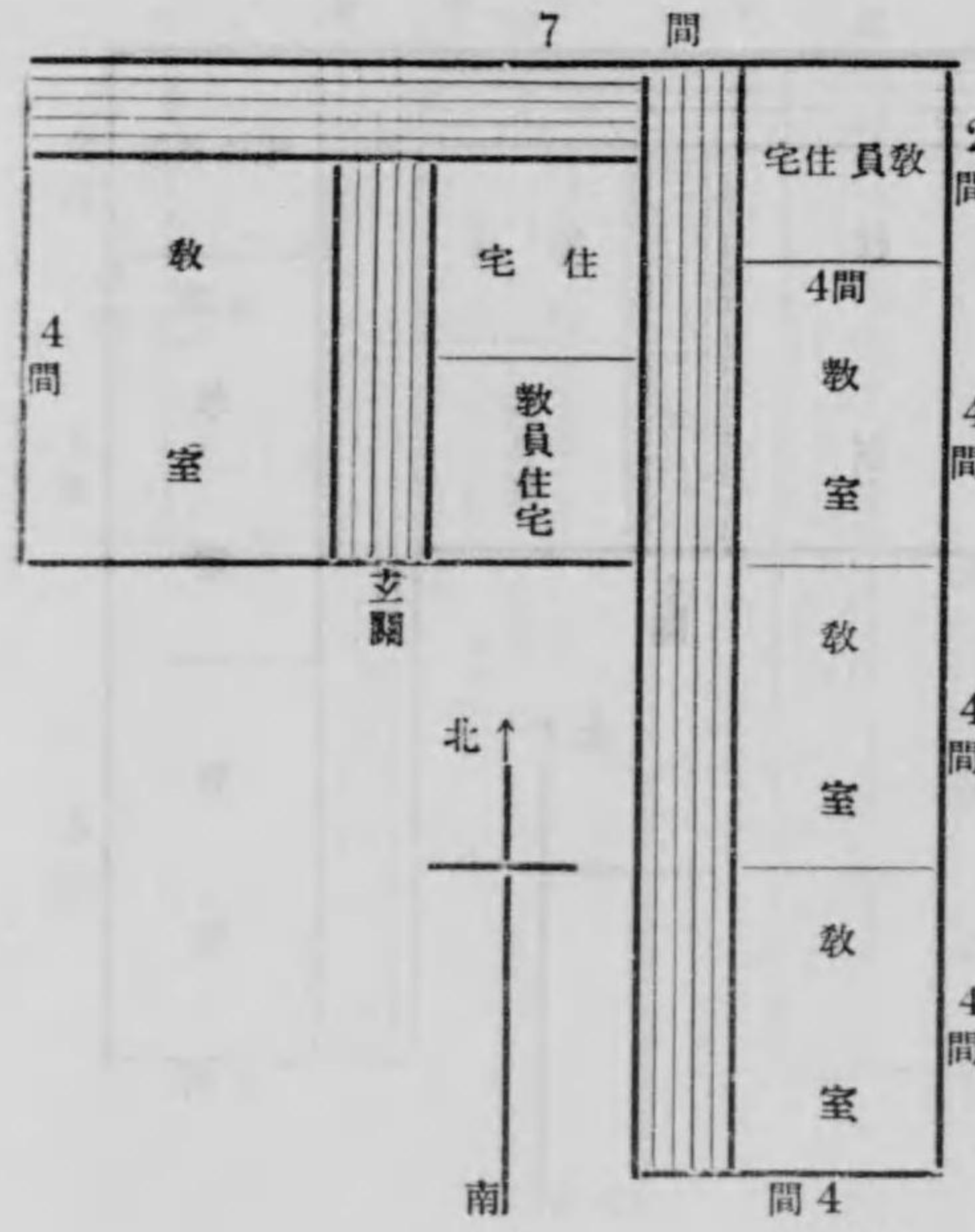
イ、納屋 ロ、肥料舎

(10)

大正七年六月十二日納屋肥料舎新築工費百二十圓

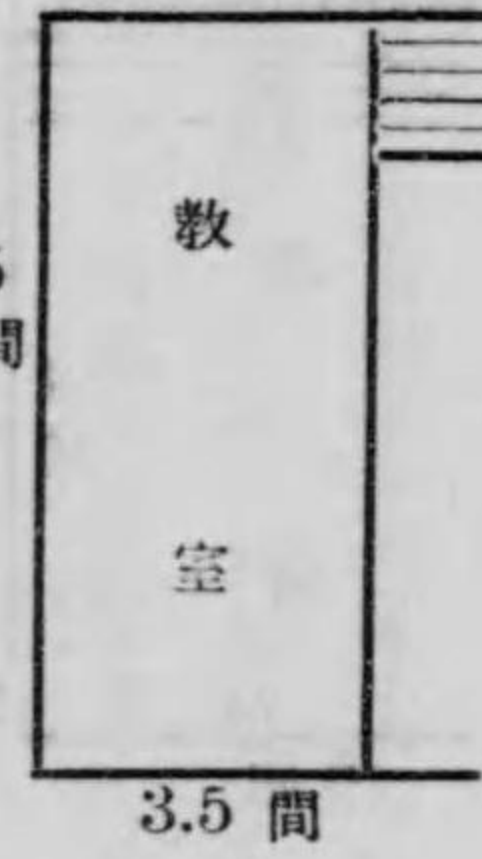


割ノ間一分三



(9)

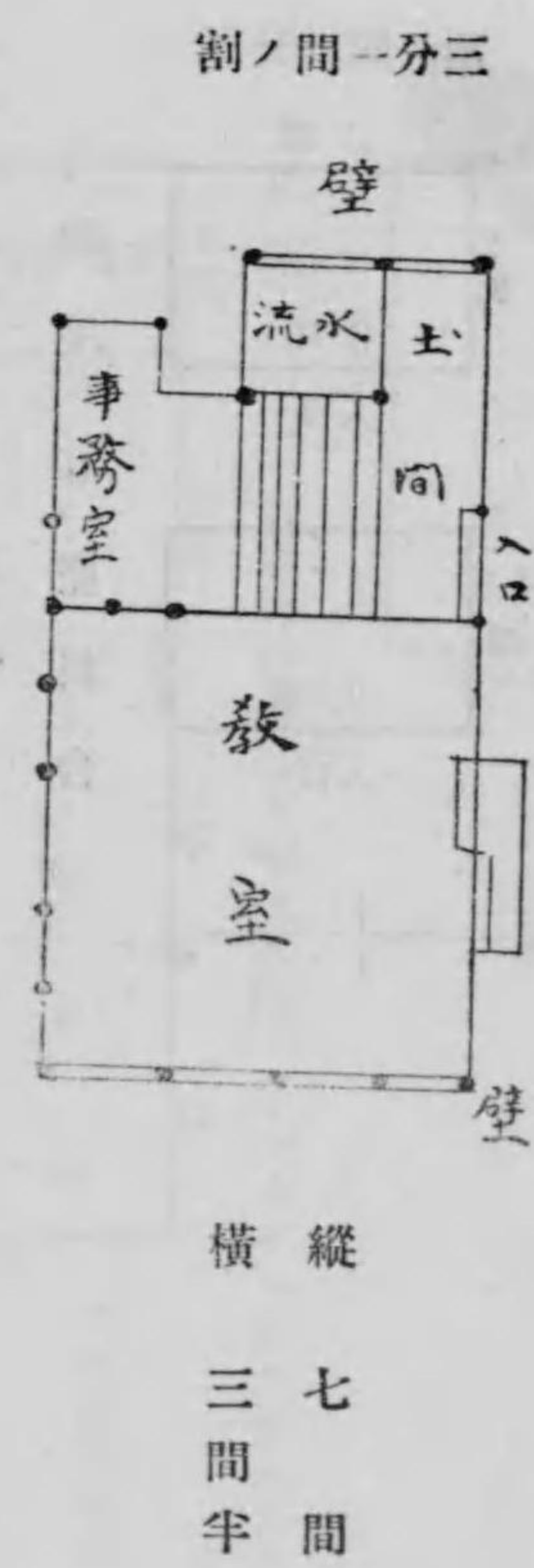
大正二年三月二十日高等科併置シ校舍狹隘ヲ來シタルニ依リ更ニ十六坪ノ校舍ヲ増築セリ



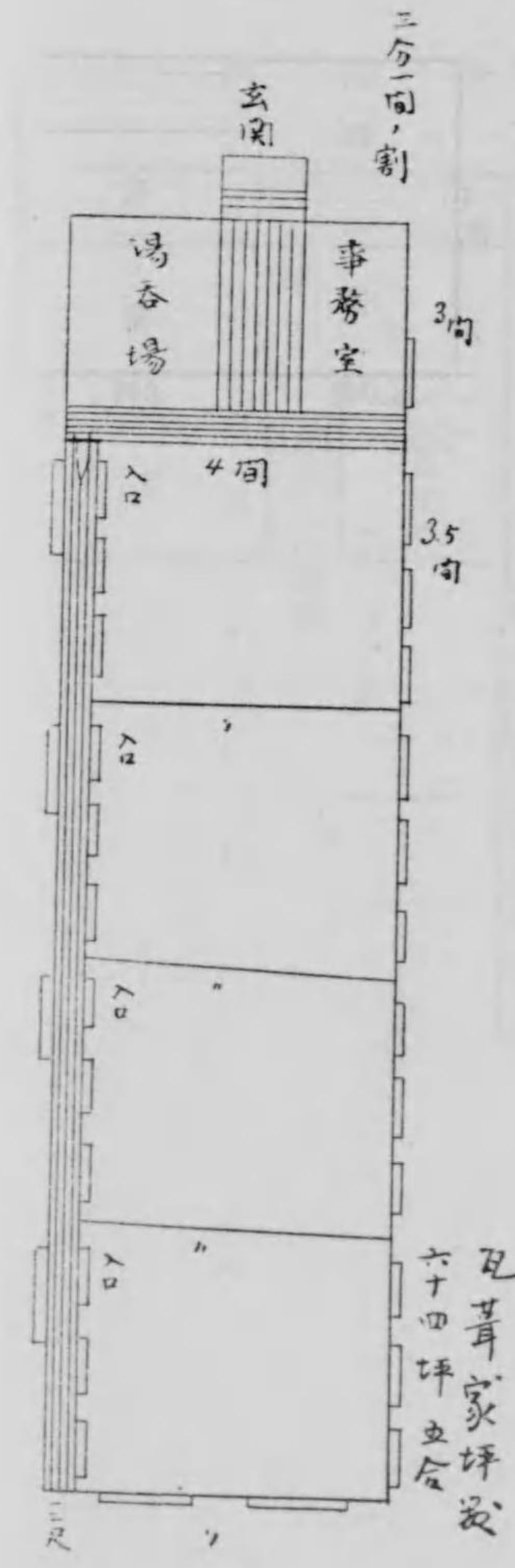
コノ教室増築

2 天神林尋常小學校

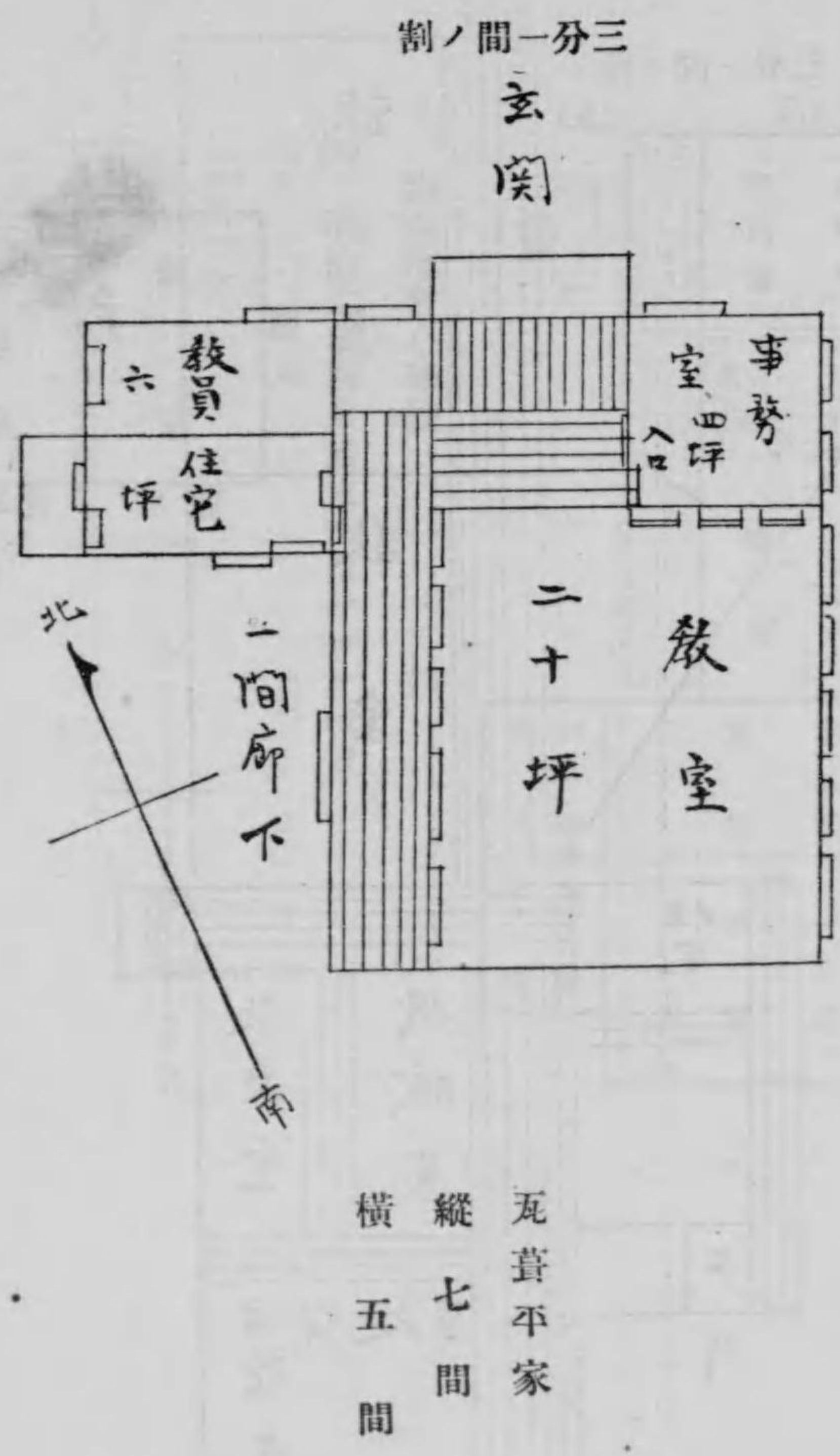
(1) 明治七年建築校舍之圖

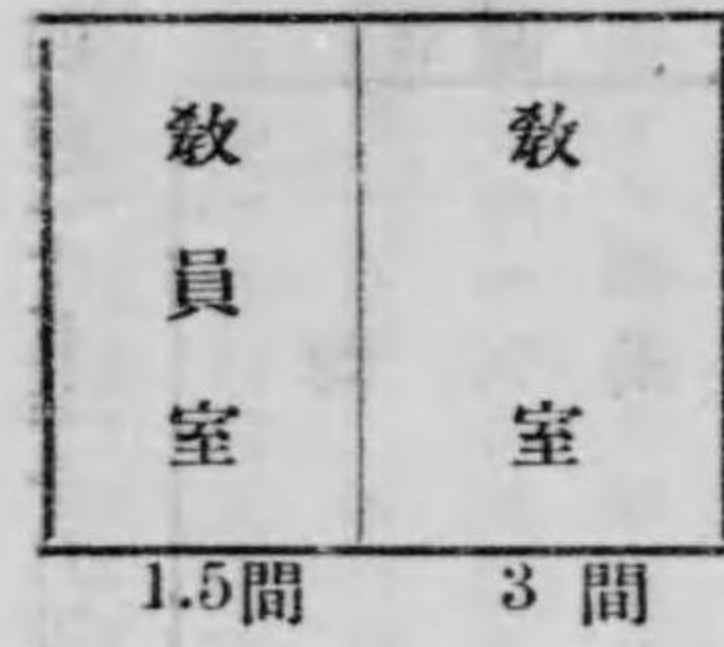


(2) 明治二十四年改築校舍之圖

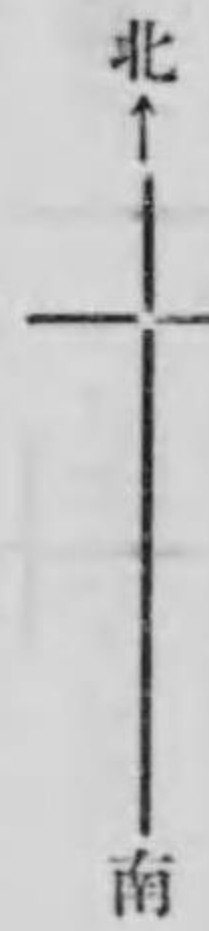


(3) 明治三十七年改築之圖

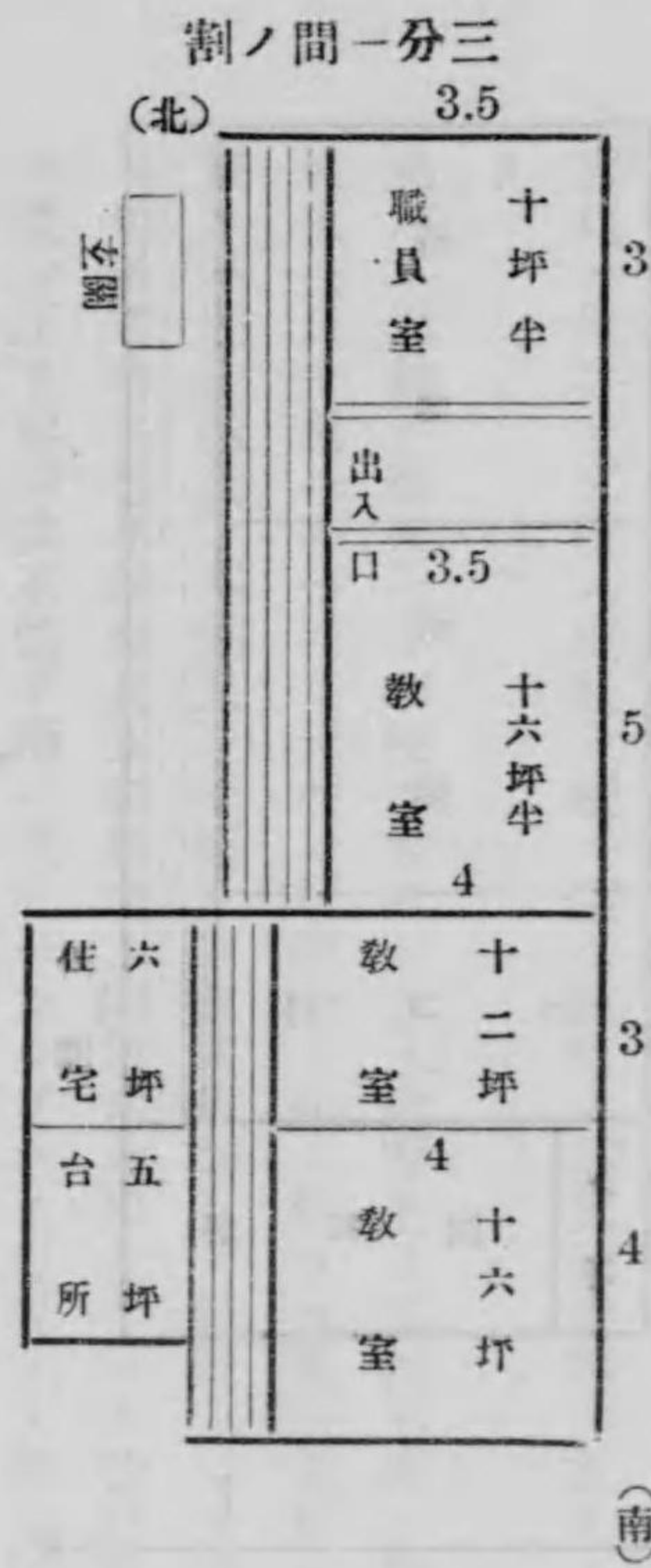




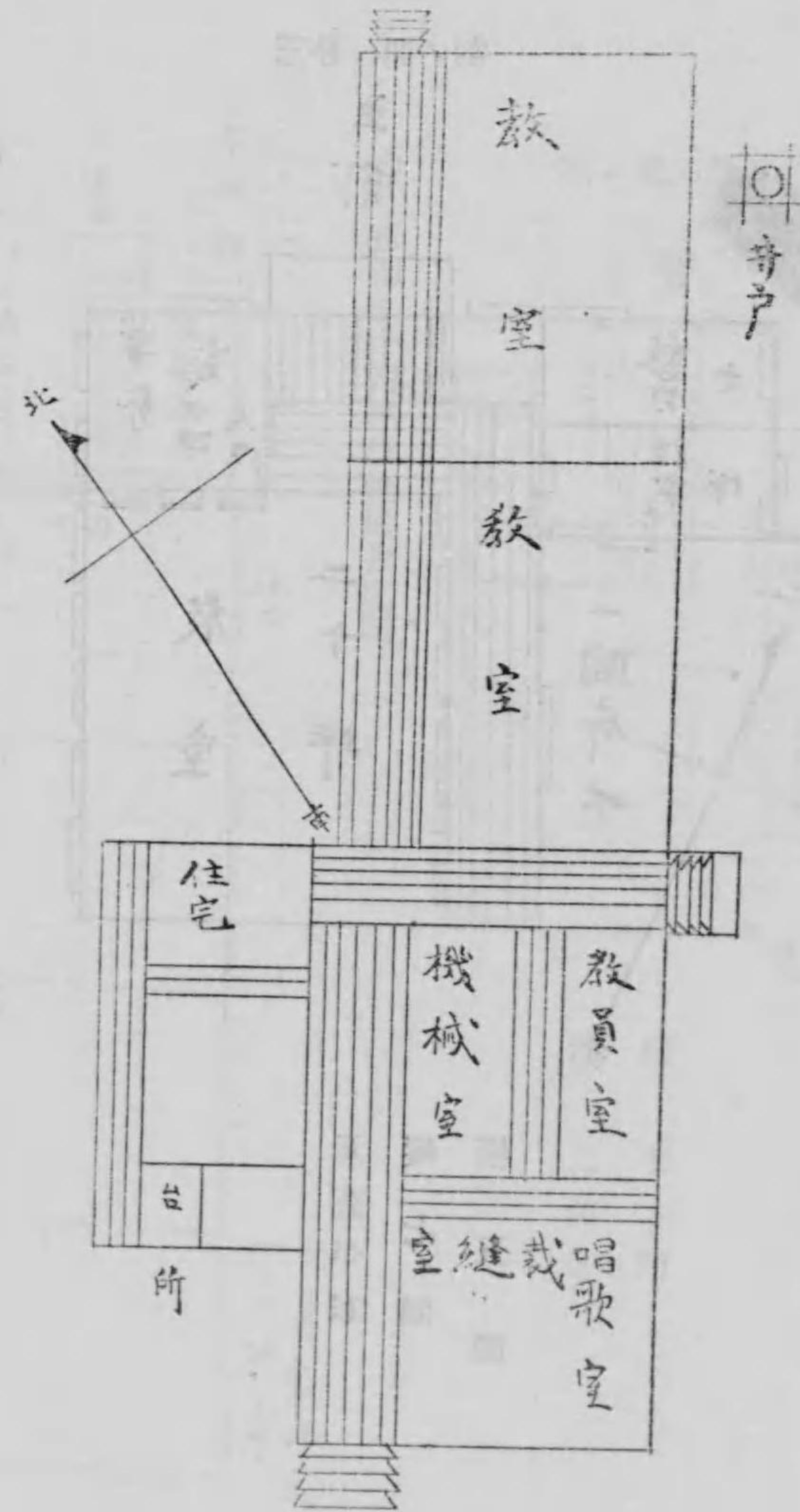
(1) 明治六年四月設立セラレタル校舍



3 稻木尋常小學校

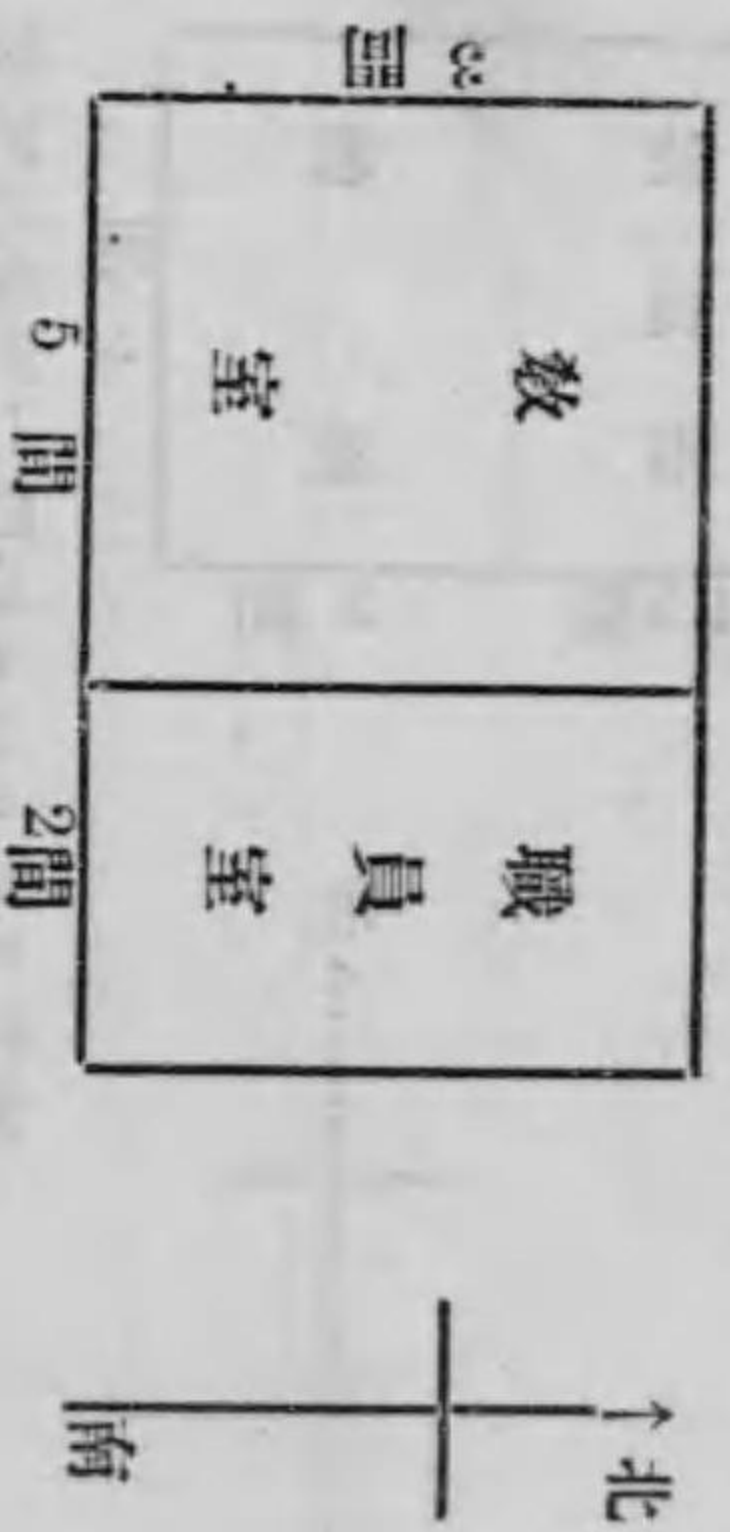


(5) 大正三年八月模様替之圖

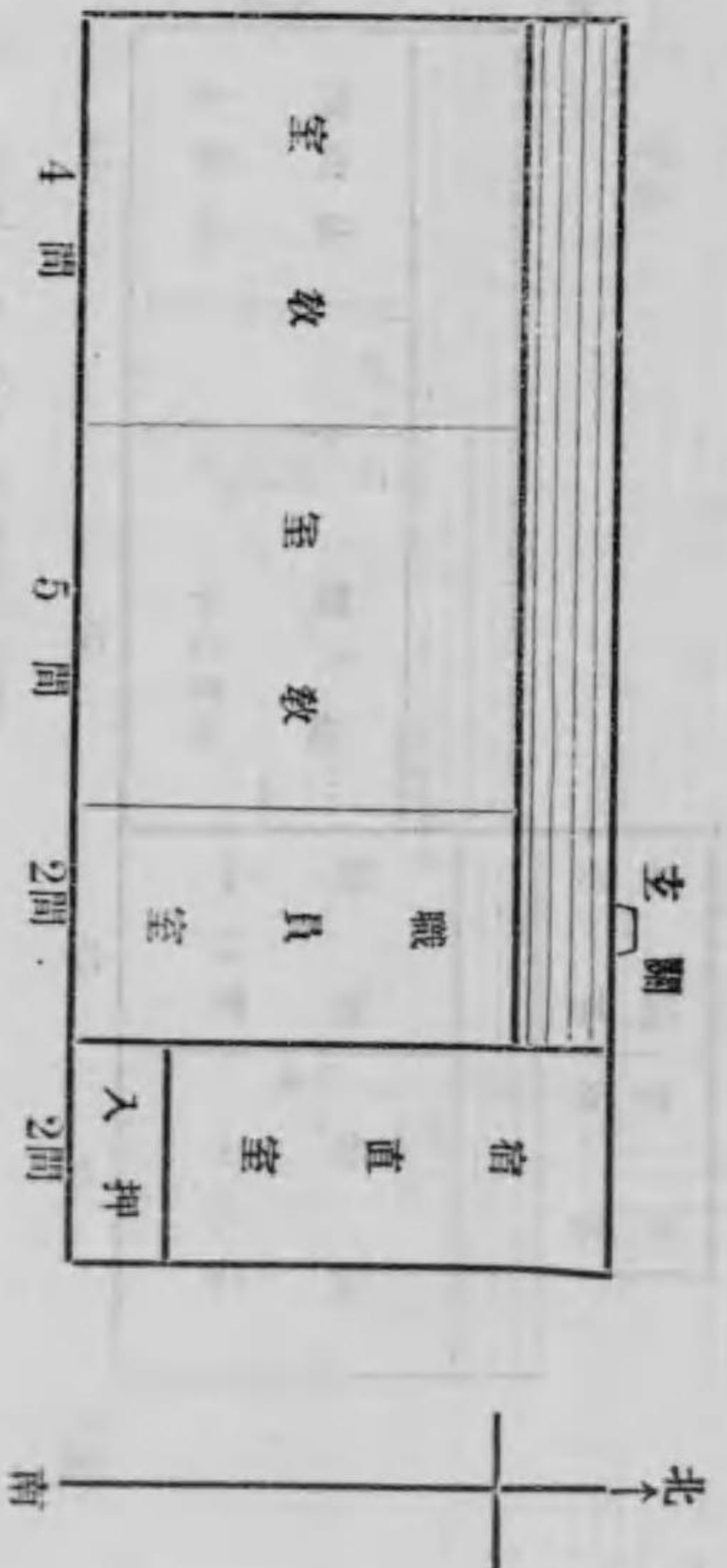


(4) 明治四十二年五月増築ノ圖

(2) 明治二十五年十月設立セラレタル校舍(草葺)



(3) 明治四十二年五月新築セル校舍



B 改善方針

1、佐竹村三小學校ノ併合

當局ハ世界ノ文化ノ現状ニ鑑ミ益々教育ノ振興改善等ニ重キヲ置キ常ニ指導獎勵セラレツ、アリ

然ルニ本村ハ從來三小學校ヲ設置シアリ教育上ノ不利不便ハ勿論村經濟上村民ノ融和自治ノ發展上一日モ忽ニスヘカラザルノ状態ナリ殊ニ數年來就學兒童ノ増加ニ伴ヒ校舍ノ狹隘ヲ告ゲ教室ノ不完全教具ノ不備且ツハ何レモ複式編制ニテ教授上ノ一大欠陥損失ヲ認ムルニ至リ加フルニ佐竹尋常高等小學校及天神林稻木兩尋常小學校ヘ一大改築増築並ニ運動場ノ擴張等何レモ急ヲ要シ工ヲ起シ其不備ヲ補ハザルベカラザルノ現況ナリ然シ乍ラ估息のニ工ヲ起シ莫大ノ資金ヲ要スルヨリ寧ロ夫レト同額ノ資ヲ以テ此際大正元年度ヨリ村識者間ニ高唱村會ヘ提案トナリ又縣郡ノ當局ヨリ年々歳々注意ト督勵トヲ受ケシモ部落的感情ノ強烈其他ノ事情ノ爲議纏ラズ在舊日ヲ送リシモ大正十年十月澤幡村長就任ト共ニ此ノ三校ヲ統一併合シ村財政ノ緩和ト教育ノ改善トヲ圖ルニ如カズト村會議員及學務委員其他ノ有志ト一致共同慎重審議ヲ重ヌルコト二十五回大ナル苦心ヲ以テ之ガ實行ニツキ具体案ヲ企畫シ村民多數ノ同意ヲ得テ村會議員滿場一致ヲ以テ大正十二年六月二十五日ノ村會ニテ決定郡長ニ答申大正十二年八月九日三校ヲ併合統一シ敷地ヲ佐竹村大字稻木臺中一町貳反歩ヘ變更ノ件郡長ヨリ指定セララルルニ至レリ、依テ理想的校舍ヲ建設スベク澤幡村長寺門校長村會議員白土爲吉川崎保之介片岡安三郎黒澤寅二郎篠

原卯之吉篠原幸太郎篠原仙太郎小林直清水善兵衛學務委員山田龜太郎ノ諸氏ハ大正十二年七月十五日一泊ノ豫定ヲ以テ西茨城眞壁結城ノ三郡ノ模範校舍視察ヲ遂ゲ爾來敷地買收在來校舍ノ移轉改築及新築ノ本縣技手田沼清太郎氏ニ托シ設計終リ大正十二年十一月二十五日本村會ハ豫算總額四萬六千五百十五圓ヲ滿場一致ヲ以テ議決直チニ起債及新築改築ノ議認可申請ノ處起債ハ十二月廿六日付ヲ以テ認可サレ校舍ハ大正十三年一月七日ヲ以テ許可サレタリ建築費財源償還方法及起債償還年次基本財産補填ノ年次表左表ノ如シ

(一) 建築費

金四萬六千五百十五圓

建築總額

內 譯

金參萬八千二百五十七圓

校舍新築改築費

金六千八百七十八圓

校舍新築改築用敷地一町二反步購入費及地均費貳千圓

金六百圓

校舍新築改築工事監督員手當

金七百八拾圓

校舍新築及改築設計費參百圓地均設計費六拾圓工事請負廣告料二拾圓雜用費四百圓

(二) 財源

四萬六千五百拾五圓ノ豫算ニテ校舍ノ移轉改築及新築ヲナスニ當テタリ左ノ財源ニ依リ其ノ工事ヲ實行セントス

金千五百二十八圓

本年度基本金蓄積停止

金九千三百四十二圓

村基本財産

金二千四百三十三圓

學校基本財産

金二千五百拾八圓

在來舊學校敷地六反四畝代及改築ニ伴フ不用雜品賣却代

金三千圓

指定寄附金

金二萬七千二百圓

簡易生命保險積立借入金

金四百九十圓

本年度村費ヨリ支出

新築校舍ノ用材ハ小林區署ニ特賣ヲ請願シ極力費用ノ輕減ヲ圖リ行フベシ

(三) 償還方法

金貳萬七千二百圓

年六分五厘ニテ簡易生命保險積立金借入ル

右償還ハ十二年十三年度ハ据置キ十四年度ヨリ七ケ年賦トスル時ハ年別表ノ通り

金四千九百圓

一ケ年償還平均

金參千圓

學校併合ニ伴フ經費節減

附 記

現在本村三小學校學級數合計十一職員十三名教育費總額壹萬壹千六十一圓ニシテ之ヲ併合學級ヲ整理スレハ八學級ニ編制シ職員九名ニテ足ルベシ依テ職員四名ヲ減ズ一人月俸五拾圓トスレバ一ケ年二千四百圓ノ俸給ト備品消費費其他ニ於テ約六百圓合計金參千圓ノ經費ヲ節減

シ得ベシ金千八百圓從來基本財産トシテ蓄積額一ケ年見積金之ハ村債償還シ終ル迄停止スル時ハ大債償還金ニ對シ殆ンド大差ナク從テ從來以上ノ賦課ヲ要セズ村費負擔重カラシムルコトナク償還濟トナルベシ尙年次償還ナレバ一時ノ負擔ヲ要セザルニヨリ負擔ニ堪エザルコトナシ

(四) 村財政ノ概況

- イ、本村ハ土地肥エ米麥煙草及其他ノ副産物ノ産額頗ル多ク一般村民ハ財政豊富ナリ
- ロ、村税ハイツモ意納ナシ
- ハ、納税成績優良ノ廉ニ依リ本村ハ稅務監督局長ヨリ三回表彰セララル
- ニ、明治四十五年縣是實行模範村トシテ指定セララル

(五) 佐竹尋常高等小學校舎建築及改築費ニ充當スル爲起債ノ件左記ノ通り決定ス
大正十二年十一月八日

記

- イ、起債金額 金二千七千二百圓
- ロ、起債ノ目的 佐竹尋常高等小學校舎新築並ニ改築費ニ充當スル爲
- ハ、借入利率 年六分五厘
- ニ、借入先 逓信省保險局
- ホ、借入時期 大正十二年度

但シ借入期日ハ借入先ト協定ニ依ルモノトス

ヘ、据置時期 大正十二年度 大正十三年度

ト、償還期限 別紙償還年次表ノ通り

但シ村財政ノ都合ニヨリ繰上償還ヲナシ又償還期限ヲ短縮若シクハ低利債ニ借替ヲナスコトヲ得

チ、償還財源 村 稅

(六) 償還年次表

年 度	支拂フベキ年月	償還元金	利子年六分五厘		合 計
			支拂期間年數	支拂金額	
大正三年度	大正一三年二月	据 置	大正一三年三月分	一四七、三	一四七、三
大正三年度	大正一三年九月	据 置	自大正一三年四月至九月	八八四、〇〇	八八四、〇〇
大正三年度	大正一四年三月	据 置	自大正一三年十月至一四年三月	八八四、〇〇	八八四、〇〇
大正四年度	大正一四年九月	一五六、〇〇	自大正一四年四月至九月	八八四、〇〇	一四四〇、〇〇
大正四年度	大正一五年三月	一六六、九〇	自大正一四年十月至一五年三月	八三三、一〇	二四五〇、〇〇
大正五年度	大正一五年九月	一六九、四〇	自大正一五年四月至九月	七八〇、五五	二四五〇、〇〇
大正五年度	大正一六年三月	一七三、七一	自大正一五年十月至一六年三月	七六〇、二九	二四五〇、〇〇
大正六年度	大正一六年九月	一七九、七三	自大正一六年四月至九月	六七〇、二七	二四五〇、〇〇
大正六年度	大正一七年三月	一八七、五七	自大正一六年十月至一七年三月	六二二、四三	二四五〇、〇〇
大正七年度	大正一七年九月	一九七、二九	自大正一七年四月至九月	五五二、七一	二四五〇、〇〇
大正七年度	大正一八年三月	一九六、五七	自大正一七年十月至一八年三月	四九一、〇五	二四五〇、〇〇

大正八年度	大正一八年九月	二〇三、三三	自大正一八年四月至九月	四七、三六	二四〇、〇〇
	大正一九年三月	二〇八、五五	自大正一八年十月至一九年三月	三六、六五	二四五、〇〇
大正九年度	大正一九年九月	二五、三三	自大正一九年四月至九月	二九、七六	二四〇、〇〇
	大正二十年三月	三三、三〇	自大正一九年十月至二十年三月	三三、七〇	二四五、〇〇
大正一〇年度	大正二十年九月	二九、六六	自大正二十年四月至九月	二五、四〇	二四五、〇〇
	大正廿一年三月	三六、五五	自大正二十年十月至二十一年三月	七六、六四	二四四、八九
合計		一七、一〇〇		九〇〇、三三	三、一〇〇、三三

(七) 本村基本財産小學校基本財産繰入使用及補填方法ヲ左記ノ通り定ム

イ、基本財産繰入使用金額九千三百四十二圓

ロ、小學校基本財産繰入使用金額二千四百三十三圓

ハ、繰入使用ノ時期大正二十年度

ニ、据置期間 村債還了ノ年度末(大正二十年度末)

ホ、補填期間

村債償還終了ノ翌年度ヨリ別紙補填年次表ノ通り但シ村財政ノ都合ニ依リ繰上補填ヲナシ

補填年限ヲ短縮スルコトヲ得

ヘ、補填ノ財源 村 税

ト、村基本財産補填年次表

年 度	補 填 期 間	補 填 元 金
自大正十三年度 至大正二十年度	大正二十年三月末日	据 置
大正二十一年度	大正二十一年四月一日ヨリ同 九月末日	一五五七
大正二十二年度	大正二十二年四月一日ヨリ同 九月末日	一五五七
大正二十三年度	大正二十三年四月一日ヨリ同 九月末日	一五五七
合計		九四三

(八) 校舎新築改築ニ就テ

校舎ノ新築改築ニ就テ最モ注意セシハ敎授上管理訓練上衛生上ノ利便ヲ主トシ質朴堅牢ヲ專ラニセリ殊ニ大正十二年九月一日ノ大震災同年十月十日ノ大暴風等ノ如キニ鑑ミ一大留意ヲナシ建築ニ努力セリ就中注意セシハ

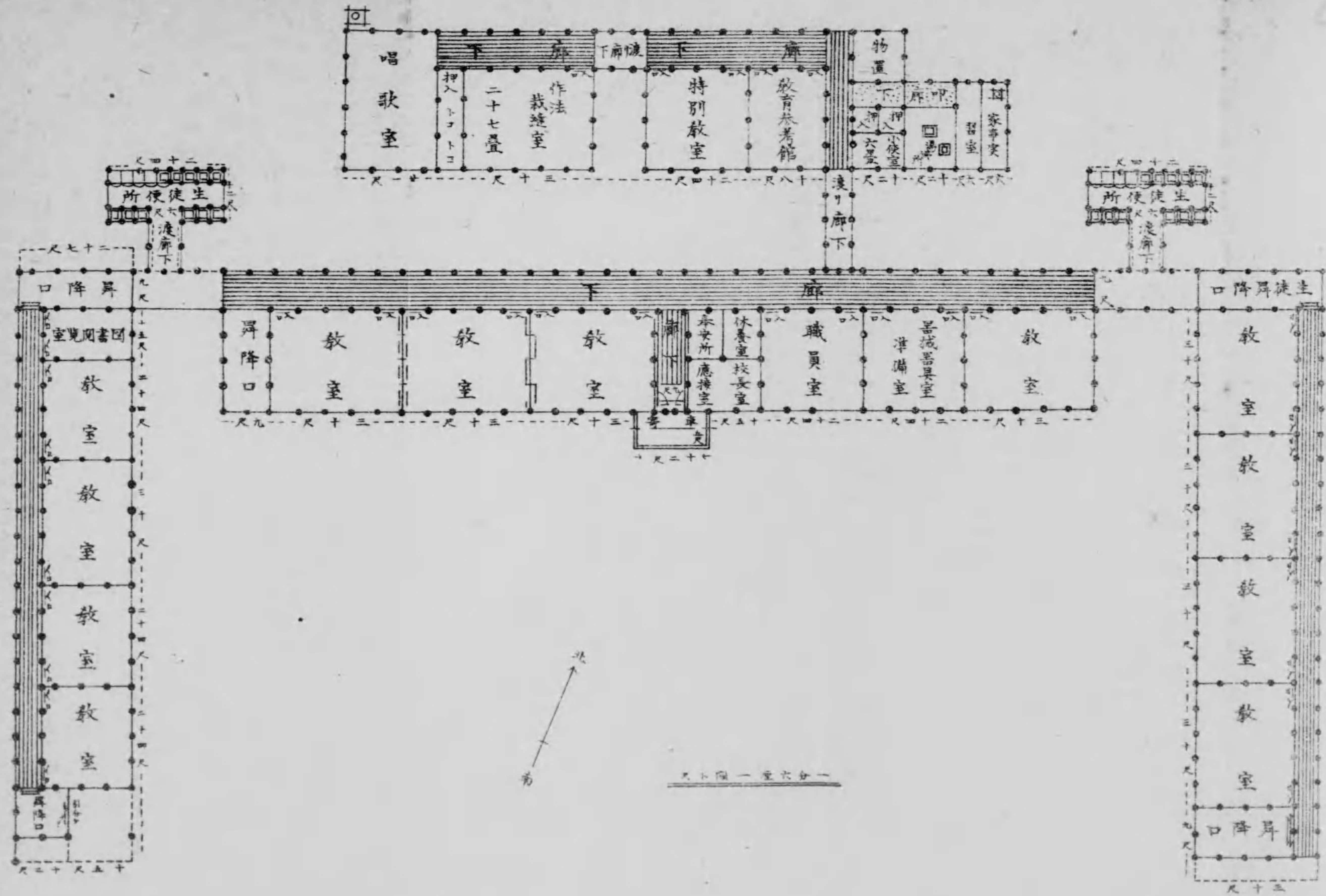
イ、奉安所

ロ、兒童病氣ノ際ノ休養室

ハ、井戸ノ設備及飲用水

ニ、兒童湯呑場

ホ、家事教室ノ中へ吸上ポンプノ井戸ノ設備



- 一七五坪 裁縫作法室
- 一八坪 唱歌室
- 九坪 家事實習室
- 一六坪 器械器具準備室
- 一五坪 兒童休養室
- 七、五坪 校長室應接室
- 八坪 圖書閱覽室
- 一二坪 教育參考館

を、立	一	六坪
わ、井	二	
か、廊	六	一一四坪
よ、渡廊	四	一九坪
た、昇降口	七	三三坪
れ、湯沸室小使室	一	一二坪
そ、物置	一	四坪
つ、便所	二	一六坪

(九) 義務教育延長ニ對スル計畫

本校舎ハ義務教育延長ニ對スル計畫ヲナシ毎年三十名宛兒童數増加スルト豫想シテ十ヶ年間ハ校舍ノ増築ナキ様考慮シテ本建築ノ計畫ヲナス

(一〇) 大正十三年六月三十日迄ニ竣工スベキ新築改築スベキ校舍及使所左ノ如シ

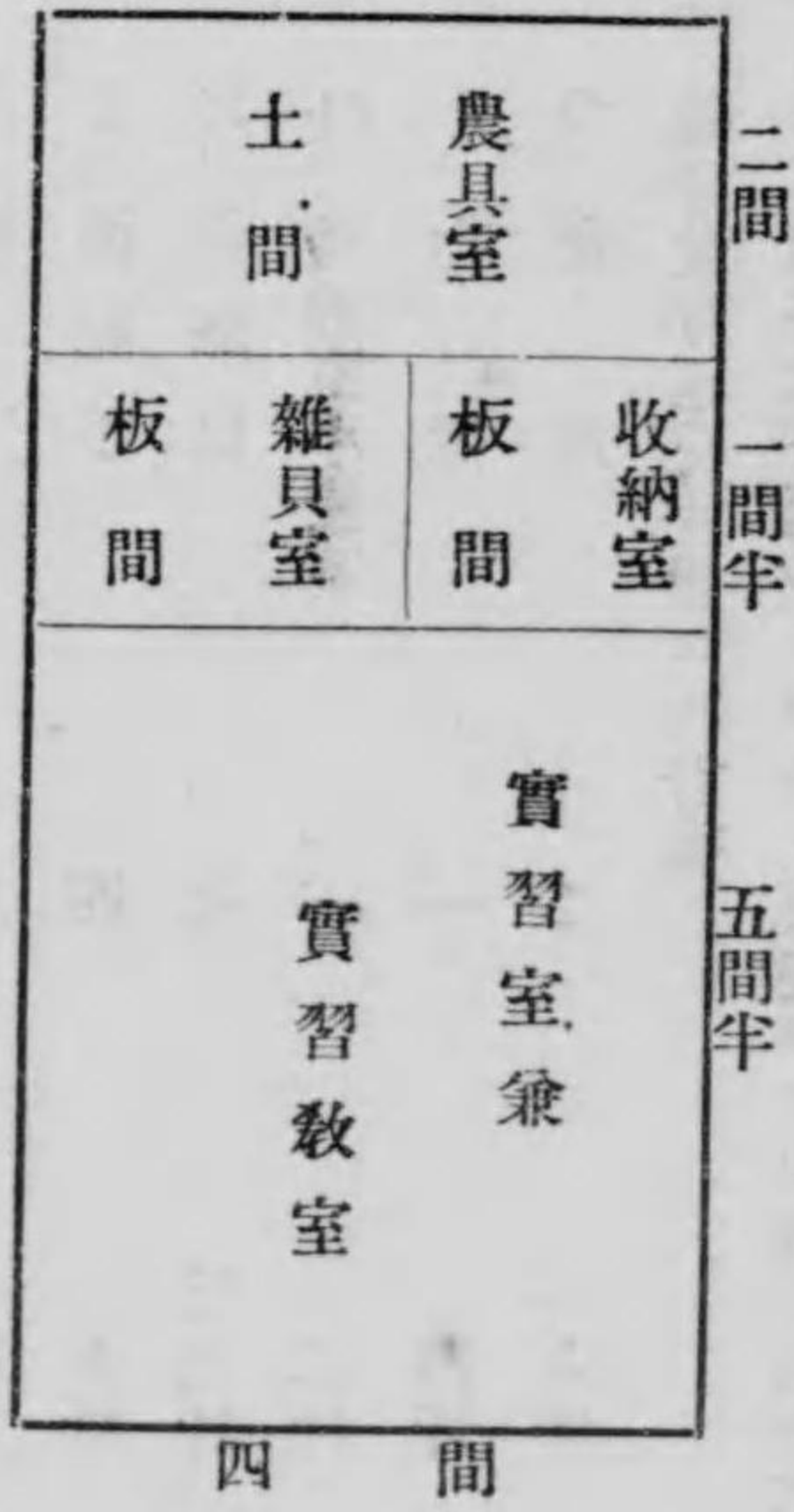
(一一) 納屋及肥料舎

小學校ニ於テ物置納屋肥料舎ノ必要ナルハ今更申迄モナシ本村ハ校舍新築改築ト共ニ大正十三年度中ニ從來ノ物置納屋ヲ左圖ノ如ク設備スベク見積工費八百圓ヲ要スベク之ハ大正十二年度豫算中ニ百五十圓ノ修繕費計上シアルニ依リ之ヲ使用シ不足分ノ六百五十圓ハ大正十三年度ノ豫算ヘ計上シテ設備ノ豫定ナリ

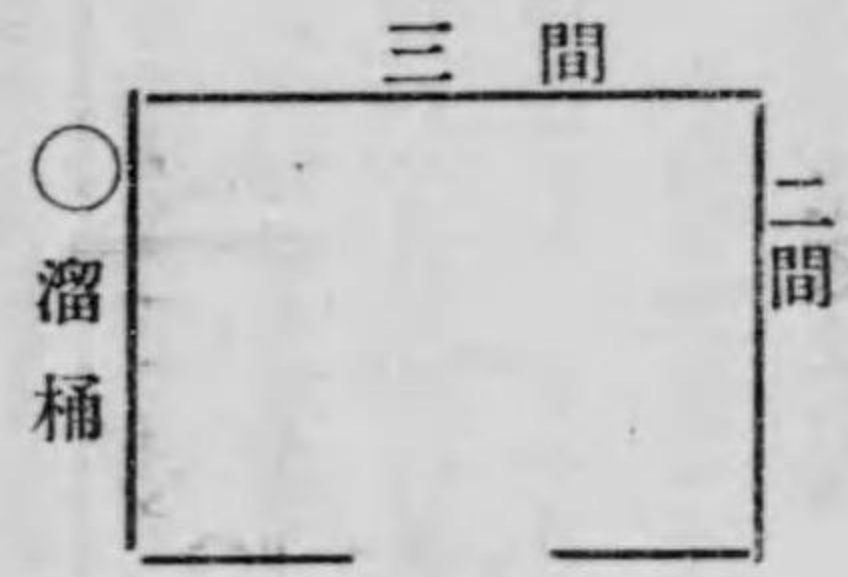
イ、物置(五分一間)



ロ、納屋



ハ、肥料舎



一間出入口

周圍六尺高二土塀ヲ造リ
床面ハ三和土ニテ叩キトスル
入口ハ北

(三) 教員住宅

教員住宅ハ從來校舎ノ一部へ設ケ此處へ住セシガ兒童増加ト共ニ校舎ノ狹隘ヲ告ゲシカバ其住宅ヲ裁縫作法家事ノ實習室トシ教員ハ一時民家ヲ借り居ルモ斯クテハ教育上ノ施設ニ不便尠ナカラザルヲ以テ校舎新築改築増築ト共ニ新築ノ計畫ナリシモ豫算ノ關係上大正十三年度ニ於テ瓦葺ヲ以テ貳千貳百圓ノ豫算ヲ計上シ村費ヲ以テ裏圖ノ如ク建築ノ計畫ナリ

(三) 運動場

A 過去現在ノ狀況

1 佐竹尋常高等小學校

明治三十一年五月谷河原區校舍隣地白羽神社境外九畝貳拾參步官林地ヲ以テ樹木ヲ附シ拂下ゲ官許ヲ得テ運動場ヲ設ケ周圍ニ柵ヲ立ツ磯部谷河原區民ノ人夫ヲ以テ工事ヲナス明治三十五年六月校地ノ狹隘ナルヲ以テ谷河原區ノ有志協議ヲ遂ゲ上谷津畑二反五畝七步ヲ谷河原ニテ山田子之吉氏外二名ヨリ買ヒ上ゲタリ而シテ現在校地三反五畝則チ千五十坪校舍坪數百四十七坪運動場七百四十一坪ナリ運動場敷地ノ擴張不可能ノタメ別ニ西部ヘ別離シ且狹隘ニシテ粘土質ノタメ兒童運動等ニ甚ダ遺憾ナリ

2 天神林尋常小學校

校地一段七畝步此坪數五百十坪校舍坪數七十七坪運動場ハ四百三十三坪アリ砂土ニシテ適當ナリ

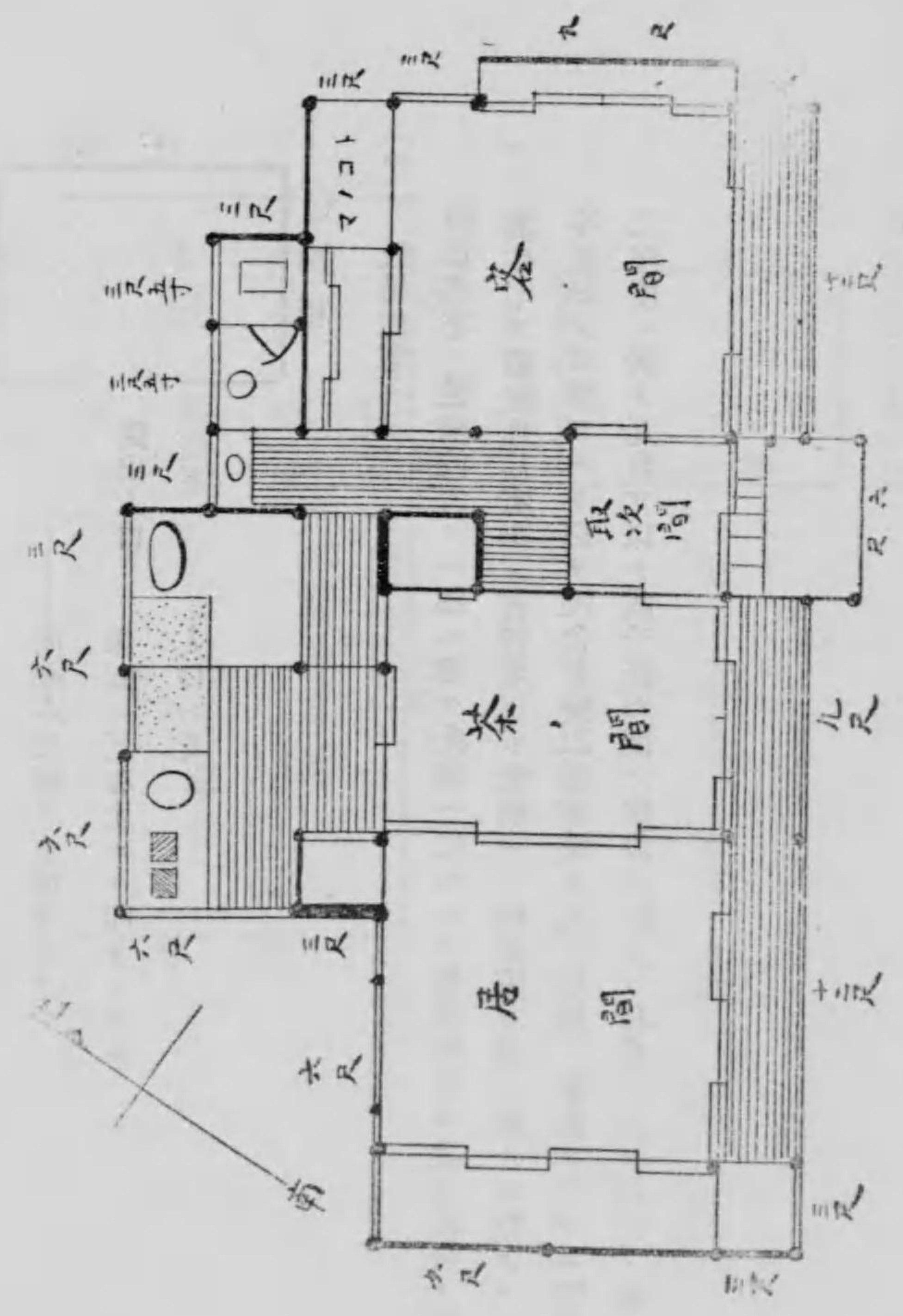
3 稻木尋常小學校

校地一段二畝步此坪數三百六十坪校舍坪數五十六坪運動場坪數三百四坪

B 改善方針

1 体操場ハ体操遊戯ニ必要ナルノミナラズ訓育上重要ナル場所ニアル室外体操場ノミナラズ雨天体操場モ必要ナリ

住宅設計圖 一分一尺ノ割 (此豫算額二千二百圓也)



屋外体操場

- (1) 位置 佐竹村大字磯部臺中ノ高地ニ日當リヨキ地ヲ選定セリ
- (2) 面積 校地三千六百坪ヲ四千八百七十八圓ニテ買入(坪一、三五五圓)兒童一人ニツキ六坪以上ノ割合ナリ
- 内二千五百七十八坪ヲ運動場トシテ兒童教養上ニ使用セントス
- (3) 形狀 方形ニ設ケル計畫ナリ
- (4) 使用 完成ノ上ハ兒童ノ体操遊戲及訓育上ノミナラズ青年處女ノ体育民衆ノ体育並ニ社會教化ニ活用セントス

2 雨天体操場

- 大正十三年六月三十日迄ニ新設サルベキ校舍三十三間ノ廊下ヲ幅九尺ニ計畫設計シ知事ノ認可ヲ得タルヲ以テ竣工ノ上ハ雨天ノ際ノ体操場トシテ利用セントス、然シ之ヲ以テ満足スルコトヲ得ス左ノ方針ヲ以テ大正十六年迄ニハ雨天体操場ヲ建設雨天ノ体操ノミナラズ講堂ニモ兼用セントス
- (1) 成ルベク面積ヲ廣クスルコト
 - (2) 床ハ板敷トシ
 - (3) 光線ノ射入ヲ充分ナラシメ
 - (4) 長方形ナルコトニ努メ

横五間長サ十二間此ノ坪數六十坪ヲ設備シ費用ハ坪百圓ト見積リ六千圓ヲ要ス之ガ財源ハ寄附金及村費ヲ以テ充當セントス

(四) 兒童通學道路ノ大改修

A 現在ノ道路

兒童ノ通學道路惡シク往復ノ途中困難ナル爲村ガ修繕シ或ハ青年會ガ修繕シ又高等科兒童モ手ヲ加フルコトアルモ到底完全ナル道路ニナスコトヲ得ズ故ニ學校ノ併合ト同時ニ學校通學道路ノ改修ノ急務ナルコトヲ信ズ

B 改善方針

交通ノ便不便ハ交通機關ノ完備ニアリ交通機關ニハ其種類多シト雖モ地方ニ於テハ道路ノ完成緊要ナリトス殊ニ小學兒童通學ニ關シテハ最モ茲ニ最大ノ注意ヲ要ス若シ通學道路從來ノ如ク惡シクレバ兒童ノ通學ニ困難ナルハ論ヲ俟タザルナリ故ニ村理事者茲ニ鑑ミ合併スベキ學校ヲ中心トシテ磯部谷河原天神林稻木ノ各大字へ通ズル道路ヲ技手ヨシク測量調査セシメ工費約壹万圓以内ヲ以テ路面二間ノ道路ニ大改修ノ議成リ之ガ經費ノ輕減ヲ圖ランタメ村費及有志ノ寄附金青年會員ノ勞力寄附ニヨリ完成ヲ期ス計畫ナリ

第三 農業補習學校ノ農業施設 (摘録)

(一) 農業實習施設

A 從來ノ教授

1 目的

農業ニ於テハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ授ケ其ノ知識技能ヲ授ケル間ニ併セテ農業ニ對スル趣味ヲ涵養シ尙農業ニ關スル法制經濟並ニ理科ヲ授ケ修身科公民科ト相俟ツテ職業教育ヲナスヲ以テ目的トス

2 學科トシテノ農業

補習學校農業教科書トシテ當地方ニ最モ適當セルモノナキニヨリ地方合適ナル事項ヲ調査研究シ之ヲ謄寫シテ冊子トナシ生徒ニ給與シ教科書トシテ使用セシメタリシモ最近東京實文館發行補習學校用農業教科書ヲ選定シ所持セシメ尙季節ニ必要ナル栽培事項ヲ謄寫シテ生徒並ニ補習教育關係者ニ配付シ學理ノ徹底ニ努メ應用ニ便セリ

3 實習ニ關スル施設ノ概況

(1) 實習ノ必要

奢侈風俗ノ都會ヨリ傳播スルコトヤ農村脱走ノ盛トナル事ノタメニ輒モスレバ衰頹ニ赴カントスル農村ヲシテ堅實質素ノ美風ヲ存セシメ且ツ其ノ地方ノ產物ヲ豐富ナラシメントスルコトハ國家ニトリテ最モ緊要ナル事ナリ農村ノ繁榮ヲ計ル方法ハ技術經濟種々アルベケレド其ノ根本解決ハ農民ヲシテ文化的ニ農業ニ親シマセルニアリ

農業教育ガ其ノ當ヲ得ズシテ善良ナル農民ヲ養成スルコトヲ忘リナバ農村脱走ハ陸續トシテ起リ其結果農村ハ荒廢ニ歸スルニ至ルベシ況ヤ近時惡思想浸入奢侈浮薄ニ流レ易キ傾向アル

ニ於テヲヤ。

本校茲ニ鑑ミ實習施設ヲナシ地方的要求ニ立脚シ青年男女ニ之ガ指導誘液ニ奮闘シツ、アリ之レ農業實習ハ農村補習學校ノ生命ニシテ勤勉ナル農民ヲ作りヤガテ優良ナル農村ヲ作ルニ最モ肝要ナレバナリ今茲ニ其ノ一端ヲ述ブベシ

(2) 實習方針

實習ニヨリ農作物ノ改良增收ヲ圖リ青年處女ノ益々學理ヲ應用シテ農事ニ對スル趣味研究心ヲ涵養シ質實ニシテ勤勞ヲ尙ブ良農民ヲ養成セントスルニアリ

(3) 實習

イ 共同實習

い 學校實習地

村農會ト相提携シテ採種圃ヲ擔當シ郡農會ヨリ純系種子ノ配付ヲ受ケ學校以テ實習地ニ栽培シ次年度ニハ村ノ當業者ヘ其ノ種子ヲ分讓耕作セシメ其ノ結果ハ村農會主催ニテ品評會ヲ開キ之ガ獎勵ヲ圖ル。

ろ 部落共同實習

各大字即チ四部落ヘ實習地ヲ設ケ擔任教師ノ指導ト補習教育獎勵委員ノ援助トニヨリ之ヲ經營ス、幸ニ補習教育獎勵委員ノ熱誠ニヨリ各部落ノ補習生ハ競争的ニ栽培ニ從事シ改良進步增收ヲ圖リ其ノ成績頗ル良好ナリ

は 促成栽培

胡瓜、茄子、菜豆等ノ促成栽培ヲナシ補習生ヲシテ指導スルノミナラズ村農會ト協力シテ一般當業者ヲシテ副業趣味養成ニ力メツ、アリ。

に 種苗ノ栽培

葱、甘藍、茄子、胡瓜、南瓜ノ苗ノ育成ヲナシ補習生補習教育關係者其ノ他ノ希望者ヘ配付給與ス。

ほ 煙草栽培

當地方ノ特産物トシテ奨励セラル、時ニ當リ本校茲ニ着眼シ試作栽培耕作トシテ本年度ヨリ三畝歩ヲ耕作スルコトニ專賣局ヨリモ許可書ヲ得タリ。乾燥法調理法ノ實習ヲナシ併セテ煙草栽培ノ奨励ニ資シ以テ地方ノ福利ヲ計ラントス。

へ 養 雞

家禽奨励トシテ改良ナゴヤ種三羽ヲ購入シ種卵ノ分譲ヲナシ同種ノ繁殖ニ努ム。

じ 堆肥製造並ニ綠肥栽培

當地方ノ金肥ハ年々増加ヲ示シ大正十一年度ニ於テ本部ハ二百萬圓ノ多キニ達ス自給肥料ハ農家基本肥料ニシテ殊ニ現今農産物ノ底落ニ際シテハ一層之等肥料ノ増製ヲ圖ラザルベカラズ故ニ本校ハ堆肥ノ製造綠肥ノ培栽ヲ盛ニ實行シ一般農家奨励ニ努メツ、アリ。

イ 個人 實習

(イ) 一畝農業

稻作一畝農業

苗代、立毛ノ二回品評會ヲ開催シ郡技手ノ派遣ヲ申請シ村農會ノ援助ヲ求メ嚴密ナル審査ヲ行フ、優秀ナル者ニ對シ郡長ヨリ賞狀賞品ノ申請ヲナス。

(ロ) 麥作一畝農業

審査ハ立毛一回ノミ其ノ他ノ方法ハ稻作ト同様

(ハ) 蔬菜品評會

種苗ヲ無償分與シ擔任教師指導ノ下ニ栽培ヲナシメ其ノ收穫物ニ對シ小學校ト聯合シテ品評會ヲ開キ賞品賞狀ヲ授與シ蔬菜栽培ノ奨励ニ努ム

ロ 薬 細 工

農家ニ於テ薬細工品ヲ購入使用スルモノアルヲ認メカクテハ經濟上遺憾トシ擔任教師ヲ他縣郡ノ薬細工講習會ヘ出席セシメ講習研究ノ上教授ヲナシメ農家ノ副業トシテ農閑ヲ利用シテ在來ノモノニ改善ヲ加ヘ之ガ製作ニ奮勵セシメ勤儉ノ美德ヲ涵養シ其成績品ハ小學校ト聯合シテ薬細工品評會ヲ開キ奨励ニ努力シツ、アリ

ハ、試 食 會

共同實習地及個人實習地ニテ生徒ノ經營努力ニヨリ得タル收穫物ノ試食會ヲ開キ農業ノ歡

ヲ味ハシム。

(4) 實 驗

教授シタル教材ノ學理ヲ證明シ確實ナル知識ヲ得シメ且ツハ真理闡明ノ念ヲ惹起セシメ併セテ趣味ヲ長ゼシメントメ強メテ實驗主義ヲ採レリ

イ、學科トシテノ實驗

- 種子發芽試驗 種子ノ輕重ト塩水選
- 根ト莖葉トノ關係 麥奴及病害豫防
- 水耕法 砂耕法
- 土壤ノ毛細管引力 透水性及保水力
- 昆虫飼育 昆虫採集及標本製作
- 種子果實ノ標本製作 顯微鏡ノ使用法
- 肥料配合計算 肥料成分
- 作物栽培ノ收支計算 日誌ノ記入
- ロ、實習トシテノ實驗
- 播種期及深淺疎密 耕鋤ノ深淺
- 稻ノ植方及分蘗 摘心摘芽
- 間作及連作 品種試驗
- 日光ト作物ノ關係
- 花粉人工媒助
- 土壤ノ種類
- 吸收力
- 腊葉製作
- 氣象觀測法
- 作物栽培法ノ設計
- 簿記ノ記入
- 整地ノ精粗
- 害虫病害、豫防驅除
- 肥料試驗

被害試驗

酸性土壤

肥料ノ鑑識法

(5) 設 備

イ、實 習 地

畑 六〇〇坪

區 分

組分區

一五〇坪

共同區

三六〇坪

見本區

三〇坪

試作及實驗區

三〇坪

苗圃

三〇坪

水田

三〇〇坪

區 分

組分區

一五〇坪

共同區

一一〇坪

見本區

一〇坪

試作及實驗區

三〇坪

ロ、果樹園、茶樹園、學校園、農具舍、納屋、肥料舍等ハ小學校ト共用ス

(6) 農業實習ト教化

農業實習ニ努力シタル結果教授訓練及家庭ニ及ボシタル効果ノ大ナルヲ認ム。當業者ハ實習地ノ視察ヲナシ栽培方法ノ指導ヲ受ケル者多ク從ツテ種苗ノ分與ヲ請ヒ殊ニ採種圃ノ種子交換ヲ申出テ品種ノ改良ニ注意スルニ至ル。役場農會補習教育關係各吏員、產業委員、青年會員其ノ他農業關係者有志等ヨリ種苗ノ分與

ヲ請ヒ自ラ栽培スルニ至ル。

一般家庭ノ共同實習個人實習ノ經營ヲ喜ビ之ヲ援助シ其ノ方法ニ從ヒ改良研究ニ努メ尙栽培方法並ニ病虫害驅除豫防法等ニ關シ擔任教師ノ出張指導ヲ請フニ至レリ。村内當業者ハ學校ヲ信賴シ果樹類ノ種苗購入方及各種品評會出品物ノ販賣方等ヲ申出ツル者多キニ至ル。

實習地ヨリ收穫シタル新穀ヲ毎年新嘗祭ニ神社ヘ納メ盛大ナル獻穀祭ヲ行ヘ又其他最初ニ收穫シタル都度御初物トシテ獻納壯嚴ナル式ヲ舉行シツ、アリコレガタメ一般村民モ新穀御初物等ヲ神社ヘ供フル者多キニ至ル。

(7) 聯絡

イ、小學校トノ聯絡

小學校モ勤勞主義ヲ中心トシ自治的實習、學習的實習ノ訓練習慣養成ニ努メ各種ノ施設ヲナシ農業ニ對スル趣味研究心ヲ起サシメツツアリ幸ニ補習學校生徒ニ做ヒ之ヲ模範トシテ實習ニ奮勵セラルル結果卒業後青年會員、處女會員、補習學校生徒トナリテ農業ニ趣味ヲ持チ喜ンデ家業ニ親ミツツアリ。

ロ、家庭トノ聯絡

前述ノ如クナレバ個人實習地ハ勿論共同實習學校實習ニハ便利ヲ與ヘ獎勵セラレ發育狀況ヲ競フニ至レリ尙各種品評會ニ競フテ出品シ從ツテ其成績モ宜シク父兄一般ノ觀覽者多ク

爲ニ盛會ヲ極ム、其他講習講話會ニハ多數聽講シヌ度々來校シテ家庭實習狀況ヲ語り相樂シムニ至ル。

ハ、其他ノ団体トノ聯絡

青年會、處女會、村農會、村教育會、信用組合、軍人分會等補習學校農業科ノ實績向上ニツレ大ニ信賴シ相提携シテ統一的ニ教授訓練並ニ農業實習ヲ指導シテ改善ヲ獎勵スル結果其効果ノ見ルベキモノアルヲ認ム。

B 改善ノ方針

武士ノ品性ハ武術ノ實習ニヨツテ陶冶セラレタリ、同様ニ教場ノ教授ハ末ダ農民タル品性ヲ陶冶スルニ足ラズ、他ナシ獨リ實習ニ待ツアルノミ。

本校ハ茲ニ鑑ミ實習ヲ中心ニ置キ學校ノ實習、家庭ノ實習、共同實習、個人實習等アラユル實習ノ機關ヲ多ク施設シ生徒ヲシテ可成的實習ノ機會ヲ作ラシメタリ、然レドモ尙未ダ不充分ノ点アルヲ以テコレ等施設方面ヲ補缺シ實績實現ニ留意シ將又家庭及其ノ他ノ団体トノ聯絡上ニ於テ徹底的ニ實行シ本科目的ヲ達セントス。

1 設備

(1) 畜舎

豚ハ廢物利用トシテ又堆積肥料原料ヲ得ルニ適セルモノナレバ農家ノ副業トシテ飼育スベキモノナリ本校モ之ニ做ヒ飼育獎勵ニ努メントス。

(2) 養蜂

巢箱ヲ造リ果樹植物園等ニ置ケバ以テ蜜ヲ得ラルベク多クノ經費ヲ要セズシテ趣味ト實益トヲ共ニ喚起シ得ラルベシ明年度ヨリ實施ノ豫定。

(3) 養蠶

秋蠶ハ春蠶ヨリ設備簡易ニシテ管理シ易キ故教室ノ一部ヲ利用シテ飼育セシメ以テ之ガ飼育法ヲ知ラシメ同時ニ養蠶ニ對スル趣味ヲ長ゼシメ漸次ニ春蠶ニ及ボシ以テ地方ニ於ケル農家ノ副業トシテ益々發達スル萌芽タラシム。

(4) 林業

從來ハ青年會ト共用ナリシヲ以テ之ト分離シ學校林トシテ獨立シ一反歩ヲ區劃シ殖林開墾、山林ノ利用、原野ノ整理等ヲ知ラシメ併セテ教育基本金ノ増殖ヲ計ラントス。

(5) 畜力ノ利用

農業勞力ノ分配ヲ計リ之ガ經營法ヲ理想的ニナラシムルニハ人力ニ代フベキ畜力、機械力ノ利用ニアリ當地方ノ農家ニハ一般ニ牛馬ヲ飼養シアルモ其ノ利用ニ至リテハ尙幼稚ナルヲ以テ牛馬ヲ農家ヨリ借り受ケ犁耕教師ヲ囑託シ犁耕ノ獎勵ヲナサントス。

(6) 農業手工

イ、藺細工

本村特有ハ藺草細工ニシテ其價ノ廉ナルト製法技術ノ單純ニシテ幼稚

ナルヲ免レズ現在收穫高一千五百貫ニ對シ賣上高七千圓ナリ、將來ハ充分ノ改善ヲ加ヘ應利用シ特産物タル名益々高上セシメントス本校モコレ等ノ栽培製作ノ設備ヲナサントスルモノナリ

其ノ他

ロ、竹細工、木細工、針金細工モ利用製作セシメントス。

(7) 農産製造

各種漬物、蔬菜乾燥、果實ノ乾燥等ヲナサシメントス。

2 聯絡

縣農會、農業補習學校教員養成所トノ聯絡

從來ハ村農會並ニ村各種團體及郡農會ト緊密ナル連絡ヲ圖リシガ將來ハ一層相連絡提携シテ改善ニ努ムルト同時ニ尙進デ縣農會並ニ補習學校教員養成所等ト直接ノ連絡ヲ圖リ技手等ノ派遣ヲ請ヒ實習ノ方法種苗ノ配付其他經營上ニ付キ一段ノ改良發達ヲ圖ラントス。

第四、青年會訓練 (摘錄)

(二) 訓練

A 從來ノ狀況

1 訓練方針

御影並教育勅語、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書、皇太子殿下ノ御令旨ヲ奉休ン兼テ内

務文部兩大臣ノ訓令ノ精神ニ基キ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ修養ヲナサシムルヲ目的トシ左ノ要目ノ徹底ヲ期ス

2 訓令要項 (明治四十五年四月定メテ實行ニ努メタルモノ)

- (1) 修養ニ努メ
- (2) 専ラ儉約ヲ守リ
- (3) 和衷協同
- (4) 忠君愛國敬神崇祖ノ徳ヲ養ヒ
- (5) 自治ニ富ミ
- (6) 質實剛健ニシテ
- (7) 勤勞ヲ尙ブ
- (8) 良公民教養ニアリ

3 訓練ノ五大要項 (大正十年五月改定シ現在實行ニ努メツ、アリ)

- イ、忠孝ノ本義ヲ体シ品性ノ向上ニ努ムルコト
- ロ、体力ヲ増進シ質實剛健ノ氣風ヲ振作スルコト
- ハ、實際生活ニ須要ナル智識技能ヲ鍊磨スルコト
- ニ、職業ニ精勵シ勤儉力行ノ風ヲ振作スルコト
- ホ、立志自治ノ思想ヲ涵養シ公民タルノ修養ヲナスコト

4 施設事項 (各五大要項ノ精神ヲ貫徹スルタメ左ノ施設ヲナス)

- イ、補習教育ノ振興ヲ圖ランタメ滿二十歳迄義務トシテ補習學校へ出席スルコト
- ロ、圖書文庫ノ施設ト活用
- ハ、擊劍、柔道、体操、遠足、競技會、運動會開催
- ニ、共同作業ノ獎勵及團體的精神、犧牲的精神、社會奉仕ノ觀念ヲ養フコトニ努ムルコト
- ホ、常ニ敬神、崇祖、敬老ノ念ヲ養フコトニ努ムルコト

ヘ、自治自立ノ精神及習慣養成ニ努ムルコト

ト、講演會講習會一夜講習會等ヲ度々開催智識技能ヲ練磨スルコト

5 訓練法

イ、青年ハ動モスレバ社會ノ惡風ニ感染スル虞アリ殊ニ本村ノ如ク町ニ隣接セルヲ以テ兎角奢侈華美浮薄ニ流レ勤勞ヲ厭フノ傾向アリ從ツテ惡思想モ浸入ノ恐レアリ故ニ吾人指導ノ任ニ當タルモノハ永續的ニ奮闘的態度ヲ以テ之等ノ惡傾向ヲ永遠ニ防ギ改善ヲ圖ランガタメ補習教育及講演講習會等ニ於テ極力訓練ニ努ムルコト

ロ、農業實習及共同作業ハ教師及指導者親シク會員ニ接スル機會多クシテ訓育ヲ與フルノ好機ナレバ此時ニ於テ感化ヲ與ヘ徳性ノ涵養ニ努ムルコト

ハ、社會ノ出來事及ビ當該青年會或ハ其會員ニ關シテ生ジタル事件ハ之ヲ利用シテ訓育資料トナスコト

ニ、補習學校又ハ各種團體及父兄保護者、有力者等ト連絡ヲ圖リ一致共力シテ風紀ノ取締リニ努力スルコト

ホ、實行要目及ビ申合事項ノ實行ヲ期セントタメ本會ニテハ正會員中ヨリ青年會議員十二名ヲ選舉セシメ屢々議會ヲ開キ實行要目等ヲ附議セシメ而シテ會員ト申合セテ自治的ニ之ガ實行ニ努ム左ノ事項ハ會員ト申合セテ實行ニ努力シツ、アリ

- (1) 時間ノ勵行ヲ期ス (時ハ金ヨリモ貴シ)

- (イ) 時間ノ觀念徹底ヲ圖ルコト
- (ロ) 獎勵法ヲ講ズルコト
- (ハ) 約束ノ日時ヲ違ハザルコト殊ニ集會ノ時間ヲ正シク守ルコト
- (ニ) 集會ハ定メラレタル時間實行サレテモ異議ヲ言ハザルコト
- (2) 消費節約ノ實行ヲ期ス (虛榮心ヲ打破シテ消費節約ヲナシ國利民福ヲ圖レ)
- (イ) 衣服ハ成ルベク木綿タルベシ
- (ロ) 需要品ハ華美ナルモノヤ高價ナルモノハ買入レザルコト
- (ハ) 成ルベク短ク理髮スルコト
- (ニ) 總ベテ流行ニトラハレザル様注意スベキコト
- (ホ) 活動寫眞ヤ飲食店ヘ入ラザルコト
- (ヘ) 眼ニ故障ナキ限リ眼鏡ヲ用キザルコト
- (ト) 未成年者ハ心ズ酒煙草ヲ嚴禁スルコト又成年者ト雖モ成ルベク禁ズベキコト
- (チ) 冗費ヲ節約シテ貯金ヲナシ冠婚葬祭ニ於ケル從來ノ弊風ヲ改メテ出來ル限リ節約ヲ守ルベキコト
- (リ) 軍人送迎等ノ費用ヲ節約スルコト
- (ヌ) 小遣帳ヲ設ケテ其記入ヲ勵行スルコト
- (ル) 年玉中元歳暮餞別手土産祝儀葬儀等ニ於ケル虛飾ニ亘ル贈答ヲ廢止スルコト

(3) 左ノ各項ノ實行ヲ期ス

- (イ) 修養ニ努ムルコト
 - (ロ) 和衷協同ノ實ヲ舉グルコト
 - (ハ) 三大節ニハ必ズ出席スベキコト
 - (ニ) 毎月神社參拜スルコト、祭禮ニモ一同參列參拜スルコト
 - (ホ) 祝祭日ニハ國旗ヲ掲グルコト
 - (ヘ) 早起會ニハ遲刻セザルコト
 - (ト) 春秋ノ皇靈祭ニハ祖先及戰病死者ノ墓ヲ參拜スルコト
 - (チ) 會員ニ吉凶事變アリタル時ハ慶弔ノ意ヲ表スルコト
 - (リ) 義務ヲ重シ法規ニ從フコト
 - (ヌ) 公德ヲ重ズルコト
 - (ル) 電燈等ノ公共的物資ノ浪費ヲ避クルコト
 - (ヲ) 群集ノ場所ニ於テハ特ニ禮儀秩序ヲ重シ弱者ヲ扶クル様スベキコト
- 6 社會公共ニ對スル奉仕勤勞ニ關スル實際的施設要項
- イ、校庭及道路橋梁堤防ノ改修
 - ロ、夜警及消防事業ニ盡力
 - ハ、警察電話架設及公共事業ニ勞力寄附

- ニ、出兵者及病家ノ農事手傳
- ホ、洪水其他ニ付人命財產救助
- ヘ、軍隊及視察團來村ノ都度極力盡カス
- ト、水利灌溉事業ニ會員極力盡力
- チ、神社掃除
- リ、敬老會開催
- ヌ、衛生火災豫防納稅期日祝祭日國旗掲揚宣傳
- ル、久慈郡共進會ヲ太田町ニ開催ニ際シ本會ハ會員協力シテ綠門建設寄附
- ヲ、大正十二年九月帝都大震火災ニ付本會ハ會員協力シテ各種ノ方面ニ救助ニ奮闘ス
- ワ、村農會ト共力シテ害虫驅除及農業ノ改善ニ努力ス
- 7 共同生産事業其他要項
 - イ、勞力ニヨリ基本金蓄積
 - ロ、各種ノ品評會開催
 - ハ、荒地地ヲ開拓シテ畑及田トシ毎年試作ヲナス
 - ニ、山林ヲ借り受ケ縣ヨリ赤松苗木ノ無償交付ヲ受ケ植樹手入ス植付後十三年經過ス山林監督員ヲ置キテ之ヲ監理ス
 - ホ、田及畑ヲ借り受ケ毎年稻、麥、小麥、陸稻試作ス

B 改善方針

- 1 從來ノ施設ノ美点ニ對シテハ漸次改善ヲ加ヘ永續的ニ續行徹底ヲ期ス
- 2 特ニ時代思想ニ鑑ミ御影ヲ真髓トシテ教育勸語、戊申詔書、教育ニ關スル御沙汰書、御令旨等ヲ奉体シテ而モ質實剛健ニシテ勤勞ヲ尙ブ健全ナル國民善良ナル公民ヲ養成ニ一大奮闘ヲ要ス
- 3 國民精神作興ニ關スル詔書ノ奉体方法ヲ講ジ之ガ徹底ヲ圖ルコト
 - (1) 役員會、役員會ヲ開キテ大詔奉体實行方法ニ付研究調査ヲナシ明確ナル智識ト強固ナル信念トヲ確立シ指導者及役員ハ自ら奉体實行ノ模範ヲ示スコトニ努力スルコト
 - (2) 指導者ハ大詔ノ趣旨徹底上ニ付熱誠以テ努力スベキコト
 - (3) 指導者ノ家族モ舉テ實行ニ努ムルコト
 - (4) 聖旨宣達方法
- イ、詔書ノ奉讀式ヲ舉行スルコト

ロ、講演會ヲ開催スルコト

ハ、總會及其他適當ナル機會ニ於テ度々奉讀並講演會ヲ行フコト

ニ、詔書ノ印刷物ヲ頒布シ日常ノ奉誦服膺セシムルコトニ努ムルコト

ホ、實行事項ヲ協定徹底ヲ期スルコト

(5) 奉体ニ關スル大綱

イ、帝國臣民タルノ光榮ニ感激セシムルコト

ロ、時弊ニ對シテ痛切ナル自覺ト反省トヲ促スコト

(6) 奉体ニ關シテ留意スベキ事項

イ、敬神崇祖ノ觀念ヲ養ヒ輕佻詭激ノ風ヲ戒メ醇厚中正ノ思想ヲ保持スルコト

ロ、浮華放縱ヲサケテ質實剛健ノ精神ヲ涵養ニ努ムルコト

ハ、報恩感謝ノ念ヲ養フコト

ニ、服裝ヲ簡素ニシ虚飾ヲ避クルコト

ホ、公德ヲ重シ同胞相愛ノ風ヲ發揚スルコト

ヘ、勤勞ヲ尙ビ責任ヲ重ズルコト

ト、犠牲の奉公ノ念ヲ旺盛ナラシムルコト

チ、我國教育ノ淵源ヲ崇ビテ智徳ノ並進ニ努ムルコト

リ、長老ヲ尙ビ禮儀ヲ正シクスルコト

ス、身体ヲ鍛練シテ体位ノ向上ヲ圖リ元氣振作ニ努ムルコト

4 國ヲ守ル精神ヲ強クスル心ヲ養フコト緊要、近來惡思想ノ浸入ノ傾向アリテ浮華輕薄ニ流レ

ヤ、モスレハ自己ノ利害ニミ吸々タルモノアリ甚ダシキハ社會主義ノ思想者サヘ出デル有

様ニテ國家ノ前途實ニ憂慮ニ堪ヘザルナリ吾人指導者ハ大ナル熱ト力ヲ以テ國家的觀念忠

君愛國ノ精神養成ニ奮闘セザルベカラズ

5 個別的訓練、年齢ノ長ズルニ從ヒ個別的特質ノ歴然タルモノガ常ナリ故ニ青年訓育ハ大ニ

此点ニ注意シテ訓練セザルヘカラズ

6 自治ノ訓練、青年時代ハ干涉ヲ嫌ヒ自我ノ高マル時代ナレバ國体生活ハ勿論自治的ニ之ヲ

善導シ訓練スルコト肝要ナリ

7 實行的訓練我國民ハヨク物ヲ知り居ルニ拘ハラズ之ヲ實行スル處ノ意志ニ乏シ故ニ實

行的訓練ニ最モ力ヲ注ギ而シテ實行的訓練ノ第一ハ職業ニ關スル學理ヲ應用セシメ勤勞ノ合

理化ガ肝要ナリ即チ學理ヲ授ケタル後ニ於テ其學理ノ實地ニ應用シ得ル事項ハ進デ之ヲ應用

スル様ニ導キ體驗得セシムルコト緊要ナリ第二ニハ經濟的訓練ノ徹底ヲ期スル事緊要ナリ

8 會員相互ノ共同誘掖、團體訓練ヲ行フト同時ニ個人相互ノ共同誘掖ニモ注意セザルベカラ

ズ而シテ吾人生活ニ於テ受クル感化ト父兄及指導者等ヨリ受クルモノト又友人ヨリ受クル感

化モ亦尠ナカラズ

故ニ會ニテハ會員相互ノ共同誘掖ニ關ス注意ヲナシ相互ニ良感化ヲ受ク様善導セザルベカラ

- 9 機先ヲ制セヨ、村ノ風教ノ如何ヲ調査シ以テ弊風矯正ニツトムルト共ニ積極的方法ノ下ニ善導スルコト肝要ナリ一日弊風ニ染ミタルヲ矯正スルヨリハ豫防スル方勞少ナクシテ有効ナリ
- 10 中堅青年養成、青年會ヲ發達セシムルタメニハ其會ニ於テ中堅トナル青年ヲ養成スルコト大切ナリ之ヲ養成スルニハ中堅青年養成講習會開催スルコトモ緊要ナルガ又指導者ガ特ニ其中ノ中堅トナルベキ青年ニ接觸シ之ヲ指導シテ中堅ノ任ニ當タル様訓練スルコト肝要ナリ
- 11 模範青年表彰、役員及會員ニシテ品行方正克ク修養ニ努メ會ノタメ自己ノタメ責務ヲ果シ克ク活動セラレ模範トスルニ足ルモノハ表彰シ之ヲ獎勵スルコト緊要ナリ

六、教育改善案

行方郡八代尋常高等小學校

教育改善案出品物一覽

- 一、基本調査資料 (三冊)
- 一、郷土誌 (三冊)
- 二、學校沿革史 (二冊)
- 三、施設要覽 (二冊)
- 四、寫真帖 (二冊)
- 二、教育改善案
 - 一、教育改善案一覽表
 - 二、教育改善案說明書
 - 三、教育改善案 (三冊)
 - 教育改善案目次一覽
 - 教育改善立案ノ方針
 - 教育改善案一覽表
- 第一篇 本村ノ過去及ビ現狀並ビニ改善案
 - 第一章 經濟
 - 第一節 本村經濟基本調査
 - 一、土地
 - 二、戸口
 - 三、勞働
 - 四、生産
 - 五、村民生活ノ大要
 - 第二節 村費ト教育費

- 第二章 知能
 - 第一節 本村民ノ教育程度
 - 第二節 産業ニ關スル知能
- 第三章 道徳
 - 第一節 思想調査
 - 第二節 人情風俗
- 第四章 健康
 - 第一節 本村民ノ健康調査
 - 第二節 衛生思想
 - 第三節 地方病
- 第二篇 本村ノ過去及ビ現狀並ビニ改善案
 - 上 設備 就學出席
 - 第一章 設 備
 - 第一節 校地並ビニ運動場
 - 第二節 校 舍
 - 第三節 附屬建物
 - 第四節 教員住宅及ビ住宅料
 - 第五節 校具、教具
 - 一、一般設備
 - 二、各科教授上ノ設備

- 第二章 就學出席
 - 第一節 就 學
 - 第二節 出 席
 - 第三節 義務教育ノ普及徹底
- 第三篇 下 教授、訓練、養護
 - 第一章 兒童教養ノ方針
 - 第二章 教 授
 - 第一節 教授ノ方針
 - 教授方法ノ調査(過去、現在)
 - 第二節 教 科
 - 第三節.....第十五節
 - 一、各科教授ノ方針 二、缺陷調査 三、改善案
 - 第十六節 施 設
 - 第三章 訓 練
 - 第一節 訓練ノ方針
 - 第二節 訓練要目
 - 第三節 過去及ビ現狀調査
 - 第四節 改善案
 - 第五節 施 設
 - 第六節 精神作興實施方案

第四章 養護

第一節 養護ノ方針

第二節 過去及ビ現状調査

第三節 改善案

第四節 施設

第五節 學校衛生ノ改善案

トホルームノ撲滅

第三篇 補習學校ノ過去及ビ現状並ビニ改善案

第一章 設備

第一節 現在設備

第二節 第一期計畫(季節教授中)

第三節 第二期計畫(通年制實施後)

第二章 方針

第一節 生徒教養ノ方針

第二節 教授・訓練・養護ノ方針

第三章 男子部

第一節 就學出席

第二節 教授 一、各科教授ノ方針 二、缺陷調査 三、改善案

第三節 訓練 一、缺陷調査 二、改善案

第四節 養護 一、缺陷調査 二、改善案

第四章 女子部

第一節 就學出席

第二節 教授 一、各科教授ノ方針 二、缺陷調査 三、改善案

第三節 訓練 一、缺陷調査 二、改善案

第四節 養護 一、缺陷調査 二、改善案

第四篇 社會教化ノ過去及ビ現状並ビニ改善案

第一章 青年會

第一節 青年會ノ過去及ビ現状

一、沿革 二、現状

第二節 改善案

一、方針 二、精神作興 三、經濟對策 四、指導者ノ改善

五、事業ノ改善 六、組織ノ變更

第二章 處女會

第一節 處女會ノ過去及ビ現状

一、沿革 二、現状

第二節 改善案

一、指導方針 二、指導方法ノ改善 三、事業ノ改善

第三章 教育會

第一節 教育會ノ設立ト現況

第二節 學校教育ニ關スル施設

一、教育調査會

レバナラヌ。而シテ教育ノ理想ハ多ク小學校令及教則ニ示サレテアルガ故ニ教育向上ノ爲ニ改善ヲ要スベキモノハ具案方法デアル。從來ノ具案方法ヲ教育ノ理想カラナガメテヨリヨク理想ヲ實現シ得ル様ニ改變スルコトコレガ教育改善ノ本質デアルト思ハレル。而シテ之レガ實現ニハ學校、家庭、社會等ノ改善ガ相俟タネハナラヌ、之等各方面ノ改善ヲ期シテコソ教育改善ノ實ハ舉ゲ得ルモノデアルト信ズル、コレ本案ガ之等各方面ノ改善ヲ計畫シタ所以デアル。

三

新思潮ニ對スル態度。今ヤ幾多ノ新思潮簇生シテ其據所ニ迷フ様ナ状態ニアル、併シ吾々ハ之等ニ盲從ハシタクナイ、マタソレト同時ニ之ヲ危險視シテ之ニ耳ヲ傾ケナイトイフ様ナ態度モトリタクナイ從來ノ方法ヲ批判スル爲ニハ新ラシイ叫モ聞クベク、短所ノ矯正ニハソレ等ノ教ヲモ取り入レタイ、コレ本案ヲ立テルニ當ツテ新思潮ニ對シテトツタ態度デアル。

四

村基本調査、教育ノ理想ヲ實現スル爲ニハ方法ノ改善ガ必要デアルケレドモ、コノ方法ヲ實施スル爲ニハ之ニ伴フ幾多ノ設備並ニ其他ノ經費ガ必要デアル。茲ニ村經濟ト改善案トガ離レルコトノ出來得ナイ關係ニアル。コレ教育改善案ノ作製ニ當ツテ設備並ニ其他ノ經費ニ關スル方面ノ立案ノ基礎トシテ村經濟ノ基本調査ヲ遂ゲ更ニ村費ト教育費トノ關係ヲ精査シ本村ノ資力トシテ支出シ得ベキ教育費ノ最大限度ヲ明ニシタ所以デアル。マタ兒童ノ生活ヲ指導スルコトガ教育デアリ、環境ノ整理ガ教育方法上ノ一大任務デアルトイフ見地カラハ村ノ各方面ノ實狀ヲ詳ニシコレヲ基礎トシテ教育ノ方針ヲ

確立セネハナラヌ。コノ見解ノ下ニ教授養護訓練改善立案ノ爲ノ根底ノ一トシテ村民ノ道德、知能健康等ノ状態ヲ調査シタ次第デアル。

五

學校基本調査、改善トハ現在ヲ理想カラナガメテ、ヨリヨク理想ニ到達シ得ル様ニ改メルコトデアル故ニ小學校ニ於ケル教育改善案作成ニ當ツテハ、村ノ實狀ヲ調査スルハ勿論學校ノ過去及現狀ヲ調査セネハナラヌ。兒童ノ道德知能健康等ノ状態ト、教授、養護、訓育法トノ過去及現在ヲ調査シ、コレヲ教育ノ理想カラ批判シ方針ヲ確立スルコトガ必要デアル學校ノ基本調査ハコレガ爲ニ爲シ遂ケラレタモノデアル。

六

教育改善案、本村並ニ本校ノ各方面ニ於ケル過去ト現狀トヲ周到精密ニ調査シ之ヲ教育ノ理想カラナガメ以テ其長所短所ヲ明確ニシ、其因ツテ來ル原因ヲ知り、コノ長所ノ助長ト短所缺陷ノ助長救濟トガ教育改善ノ要諦トナル。而シテ設備方面ノ改善ニ就イテハ之等ノ調査ヲ本トシ村經濟ヲ顧慮シテ各年度ニ割リ當テ之ガ充實ヲ期シ、教育ノ内容教授、養護、訓練方面ニ就イテハ教育方針ノ實現ハ教育ノ改善トナルヲ以テ本村教育ノ現狀ヨリ意義アリ生命アル實際案タラシムベク、周到ナル計畫ト綿密ナル方法手段即チ理想實現迄ノ過程ヲ究メ、一步一步方針ニマデ到達センコトヲ期シタ次第デアル。

七

村改善案ト社會教化、教育ノ効果ヲ大ニシ、教化ヲ普及シ永續セシメルニハ單ニ學校ニ於ケル教育改

善ノミ俟ツコトハ出来ナイ。ドウシテモ家庭トノ聯絡並ニ兒童ノ環境ノ整理ト卒業後入ルヘキ社會ノ改善トヲ期サネバナラス。本案ガ村基本調査ノ結果ニ對スル改善ヲ計畫シ村内ニ於ケル教育ニ關係アル施設ノ改善案ヲ立テタノハコレニヨルモノデアル。コレラ學校ニ於ケル改善ト社會教化ノ改善ト相待テ始メテ教育ノ理想ハ實現シ得ルモノデアルト信ズ。

八

教育調査會ノ設置、本案ハ必ず實行サルベキモノデアリ、ヨリヨキモノデアリタイトハ、本案作製ノ最初ニ當ツテ持ツタ余ノ希望デアツタ、コレガ實現ヲ期スル爲ニ村長、助役其ノ他ノ役場員、村會議員、學務委員、校醫、本校職員ヲモツテ組織スル教育調査會ヲ設置シ、本案ヲ作成決議シタ、今後會員ハ一致協力本案ノ實現ニ努力スル方針デアル。

九

教師ノ身体及ビ智徳ノ修養ト永續的努力。教育ノ効果ノ舉ルト否トハ教育者ソノモノノ如何ニヨルトハ余ノ常ニ信ズル處デアル。

教育改善ノ實ハ教育者ノ絶エザル修養ト永續的努力トニヨツテノミ期サネバナラス、吾々ハ教材ト方法トノ研究ニ徹スルハ勿論自動的ニ自己修養ニ努メ常ニ熱ト愛トヲ以テ兒童ニ接シ本案ノ實行ニ努力セネバナラス。『教師ノ修養ト努力』コレ教育改善ノ根本義デアル。

第一篇 第一章 經濟

第一節 八代村經濟基本調査

本村デハ本籍人口ガ逐年増加スルニ現住人口ハ之ト反對ノ傾向ヲ呈シテキル。コレニハ種々ノ事情ガアルデアロウガ本村將來ノタメニ一考ヲ要スベキ問題デアルト思フ。

コレガ原因ヲ研究スルニ當ツテ本村トシテハ農業經營、農家經濟ノ缺陷ノ有無ヲ徹底的ニ調査スル必要ガアル、茲ニ於テ先ヅ農村ノ生命デアルベキ土地ヲ調査セネバナラス、即チ耕地ノ多寡、人口トノ歩合一戸平均ガ郡ノ各町村ニ比較シテドウカ又村内土地所有權ノ分配ガ如何ナル状態ニアルカ而シテ貧富ノ懸隔ノ程度ヲ推定シ地主自作、自作兼小作、小作ノ各割合ヲ調査シ更ニ進ンデ村内民有地ノ他町村民ノ所有段別、他町村民有地ノ本村民所有段別トノ比較大正三年村是調査當時ト對照シテ具體的ニ表ハレタ十年間ノ村全体ノ勤勞、資力増減ヲ土地移動ノ方面ヨリ調査スルコトニシタ。

次ニ土地ト生産物トノ關係ヲ調査シ農業經營ノ缺陷ヲ明瞭ニスル必要ガアル。

更ニ本村民ノ労働能率ヲ調査シ耕地トノ割合ヲ對照シ能率ノ經濟的利用ノ方法ヲ研究シ、最後ニ村民ノ生活大要ヲ調査シ生産、消費、純益ヲ明示シ以ツテ本村ノ資力判定ノ基礎ヲ明確ニシタ。

以上ノ調査ニヨツテ得タ結果ハ、直ニ教育上ニ多大ノ影響ヲ及スモノデ教育ノ、進展ハ勿論教育者自体ノ如何ニ依ルト雖モ之ト密接ノ關係アルモノハ經費デアル。如何ニ實力アリ熱烈ナル教育者デアツテモ之ニ相當スル經費ガ伴ハナカツタナラ到底其理想ヲ實現スル事ハ出来無イ。少クモ現代社會ニ適應シタ國民ノ教養ニハドウシテモ多大ノ經費ガ必要デアル。

小學校教育ハ郷土ノ實狀ニ適應シタモノデナケレバナラス。

故ニ經濟方面ノ改善方針ヲ樹立シ本村將來ノタメニ眞ニ生命アル計畫ヲ立案スルト同時ニ本村ノ資力

ノ基礎ヲ明確ニシ經費支出ニ關スル根本方針ヲ確立シ以ツテ教育改善ノ施設ヲシテ適切ナラシムルタ
メニ本調査ヲナシタル所以デアアル。

一、土地

土地即チ耕地ノ廣狹ハ生産額ニ關係大ナレド其村ノ經濟狀態ハ單ニソレノミニ依ツテ、絶對的貧富ヲ
定ムル事ハ出來タ、即チ

(一) 他町村民ノ本村内ニ耕地ヲ所有スル場合

(二) 又ハ村民ノ他町村ニ耕地ヲ所有スル場合

(三) 或ハ本村現住人口ノ多少

(四) 本村ニ於ケル地主數小作人數及其ノ關係

以上ノ關係ヨリ當村ノ生産及經濟狀態ヲ決定スル事ガ出來ルト思フ。

地目	段別	地價	平均一反地價	反別		平均地價
				一	二	
田	町步	一五、六〇四	七、三九、〇〇	三、三〇〇	四二二	一、六〇〇、八七〇
畑		一四、〇六〇	一四、一九、七〇	九、五二六	三〇八	五四三、六八二
宅地		九八、三七〇	三、九〇八	一坪二厘三〇	一〇六、三〇〇	四九一、九二八

民有地段別地價

山林	町	三、四一〇六	八、三九〇〇	〇、三九〇	四八三	一九四、一三四
原野		一六、五三二	二、五五二〇	〇、〇九六	五八	五七
合計		五二、七七二 九八、三七〇坪				

所デ本村内ニ於ケル民有耕地反別ニ就イテ見ルト、郡平均一町三畝一〇步(全戸數ニテ除シタルモノ)
ニ比ベテ七段五畝ノ割合デ誠ニ耕地ハ狹隘ナモノデアアル。

本村民ノ耕地反別(他ニ出作スル分ヲモ含ム)農家平均ハ田畑合計一町五畝二十六步デ此ガ本村農民
ノ實際耕地平均反別デアアル。コレ亦郡ノ平均一町三反五畝五步ニ及バ無イ。(委細ハ別紙郡勢表ト参照)

サテ農村ノ不動産ヲ計量スルニハ國ノ統計ヨリ概括的ナ標準ガ示サレラアル。ソレハ民有地反別ノ標
準ハ大体平野ニ存在スル農村ナラバ戸數百戸ニ對シテ耕地百町步ノ割合デアアル。其故ニ此ニ比較シテ
其多少ニ依リテ貧富ヲ決定スル譯デアアル。

併シコレハ正確ナ計量ヲ見出スワケニハ行カス、即チ前述ノ四ヶ條ヲモ含マネバナラヌノデ別表土地
所有權別調ヲ作成シ本村區域内ノ土地ガ本村民ノ所有地デアアルカ、或ハ又幾分他町民ガ所有シテ居ラ
ヌカヲ調査スル必要ヲ認メル。前ニ述ベタ標準ニ依リテ本村民ガ村内民有地ノ耕地反別ヲ有シ、其ノ
一戸平均一町步ニ當ルナラバ財力普通デアアルガ幾分ナリ他町村民ガ所有シテ居ルナラバソレダケ疲弊
ノ傾向ヲ示シテ居ルモノデアアル。本村ハコノ狀態ニアルガ、一方此ニ反シ本村民ガ他町村區域内ニ土地
ヲ所有スル場合モアルカラ一様ソウバカリ斷ズル事モ出來無イ。

土地所有權別調

種目	本村區域内土地		本村民村內所有地		他町村民ノ本村内ニ所有スル土地		本村	民
	田	畑	田	畑	田	畑		
住宅地	九八三七〇〇	一四〇六一〇	九八一九五六	一三八八一	四一六四	一五二八九	一〇四七四	四一九〇
山林	三三三四〇六		一七九二六		四一六〇〇		四四七九七	
原野	二六五三二		二六五二		一一〇		一八三七	
雜種地								
合計	九八三七〇〇	一四〇六一〇	九八一九五六	一三八八一	四一六四	一五二八九	一〇四七四	四一九〇

ソレデニツノ場合ヲ考ヘ差引イテ見ルト本村民ハ純然タル疲弊状態デハナイ。後表ニ示スガ如ク其差引ニ余剩ヲ生ンデキル、程デ寧ロ侵略的氣勢ニアルノデアルガ惜シイ哉耕地面積狹隘ノ爲優位ヲシメル事ガ出来無ナイノデアル。

併シ本村民ガ他町村區域ノ土地ヲ所有シテキテモ接續地則チ隣接町村ニ所有スルノデナケレバ農村全

体ノ經濟問題トハ何等關係ヲ保タヌノデアル例セバ村内ニ富豪アツテ數里ノ地ニ土地ヲ有シ年貢ヲ取ツテキテモ該農村ノ生産上經濟上ニ何等ノ影響無ク無關係デアル。何トナレバ所有者個人ノ財産ニ屬スルカラ。然ルニ本村ノ状態ハ地主ノ所有地ハ七分通リ村民ノ耕作ニカ、ツテキル。地主ノ多クハ千葉縣新島村ニ多ク耕地ヲ有シ村民ノ多クモ其ノ地ヲ耕スノデアル。コレガ本村生産額ノ耕地ニ比ベテ多額ニ上ル所以ナノデアル。コレ等ノ理由カラ本村ハ發展氣分デアルト斷定スルコトガ出来ル。

次ハ本村ニ於ケル地主小作人ノ關係デアル。コノ關係カラ本村ノ富ノ均等ナルヤ否ヤヲ調べル必要ガアル。尤モ平等ヲ理想トシ健全トスルナラバ平均律デアル、耕地一町歩ヲ所有シ自作スル農民ハ、一人前ト云ヘルガ、我國ノ如ク小作法ニ依ル國デハ國家ノ中堅デアル、中農階級ニ屬スルモノデアル。故ニ農村トシテ一町以上ノ所有者ガ比較的多數デ五町以上十町以上ノ所有者ガ其一割以内ニアルガ、理想ト思フ穢テ本村地主ノ地所所有反別ヲ見ヨ。

段別	五段未満	五段以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	合計
戸數	四〇	五九	一〇五	三三	一一	三三	二九九

コノ邊カラ見テ本村ハ大體理想ニ近イト思フ、即中産階級ガ比較的多ク本村全戸四五五ノ $\frac{1}{2}$ ハ少クトモ五反以上ノ耕地ヲ有シ全戸數ノ四分ノ一ハ中産階級(一〇五戸)デアル、コレニ依ツテ如何ニ中堅デアルカガ窺知サレル。

併シ此等地主及一般村民ハ開祖以來ノ此ノ狹耕地ニ甘ンジナイデ更ニ進ンデ不足分ノ耕地ヲ隣村他郷

ニ求メネバナラヌ事ハ當然デ奮躍一番勤勉努力産ヲ増シテ郡ノ平均ニ到達シテ欲シ、コレガ地所買求ノ一奮躍ヲ要スル一焦點デアル。

大正三年八月調		他町村民ノ本村内ニ所有スル		土地所有權調並ビニ増減	
種目	他町村民ノ本村内ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差	引増	引減
畑	二四、九〇〇	四五三三〇	一一〇、三三〇		
田	一〇、二二七	五三四〇〇			
宅地	〇、三三七	一五三三九	一、九二二		
山林	五七、二五五	三七、五九〇			
原野	一、〇〇〇	二五〇〇	五〇〇		
合計	九二、〇〇九	八九、九四二	二、〇六七	二二、五七三	一四、四〇〇
種目	他町村民ノ本村内ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差	引増	引減
畑	三〇、一〇三	四八、五二〇	一八、四五一		

大正十二年調		他町村民ノ本村内ニ所有スルモノ <th colspan="2">本村民ノ他町村ニ所有スルモノ <th colspan="2">本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差 </th></th>		本村民ノ他町村ニ所有スルモノ <th colspan="2">本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差 </th>		本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差	
種目	他町村民ノ本村内ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村ニ所有スルモノ	本村民ノ他町村内ニ所有スルモノト他町村民ノ本村内ニ所有スルモノノ差	引増	引減	合計	合計
畑	一五、一八九	一〇、四七四	四、七一五			四、七一五	四、七一五
田	四、一六四	四、一九〇	二六坪				
宅地	四、一六四	四、一九〇	二六坪				
山林	四、一六〇	四、七九七	三、一八七				
原野	一一〇	一八三七	一、八二七				
合計	八六、九二〇	一〇五、六七八	二二、四七三			二二、四七三	四、七一五

前表大正三年度本調査本他兩村ノ土地所有權調ヲ熟視スルト本村民ノ他町村ニ所有スル段別八九町九段四畝一一步ニ對シテ、他町村民ノ本村内ニ所有スル面積ハ、九二町八段一八步デ差引二町八段六畝八步デ疲弊状態ニアツタノデアル。

ケレドモ此ハ過去數年前ノ状態デ、其後ニ於ケル村民ノ發奮ハ著シイモノデアル。

即大正十二年度ノ調査後ニ依ルト、差引一八町七段六畝一八步ノ差ヲ生ジ見ル、過去ノ債務状態ガ一躍シテ今日ノ債權状態ニ到ツタノデアル。

之本村ノタメ誠ニ喜バシイ次第デアル。

ケレドモ兩年度ノ調査ニ依ルト本村民ノ他町村ニ所有スル田地ハ他町村民ノ所有スル田地ト比較シテ差引左ノ如キ差ヲ示シテキル。

大正三年度ニ

二〇町三反三畝一〇步
大正十二年度ニ

一八町四反五畝一九步

コレ正シク本村ノ將來ニ誇ルベキ事デアル。

サレド大正二年度調ト十二年度調ヲ比較シテ多少減少シテキルバ調査ノ不確實ナタメデアロウ、サモ
ナクバー考ヲ要スルワケデアル。

種目	他町村民ノ本村内ニ所有スル土地ノ増減比較	
	大正三年八月調	大正十二年八月調
田	二四、九〇〇	三〇、一〇一
畑	一〇、二一七	一五、一八九
宅地	三三七	四、一六四
山林	五七、一五五	四一、六〇〇
原野	一〇〇〇	一一〇
合計	九一、八〇六	八六、九〇〇
		四、一六四坪
		三、一五坪
		一〇、〇八三
		三、一五坪
		五、八九六

本他村所有地差引

本他村所有地差引

本村民ノ他町村ニ所有スル土地ノ増減比較

種目	本村民ノ他町村ニ所有スル土地ノ増減比較	
	大正三年八月調	大正十二年八月調
田	四、三三〇	四、八五〇
畑	五、三〇〇	一〇、四七四
宅地	一五二九	四、一九〇
山林	三七九〇二	四四、七九七
原野	二五〇〇	一八三七
合計	八九、九四一	一〇五、六七八
		四、一六〇坪
		一七、五二六
		三、九九坪

本他村差引増

本他村差引減

更ニ本他兩村ノ差引増減ノ状態ヲ大正三年及全十二年度ノ兩年ニ就テ見ルニ、表ノ如ク他町村民ノ本
村内ニ所有スル民有反別ハ大正八年度ヨリ漸次減少シテ來タノデアル。即チ九二町八段一步ヨリ八六
町九段二〇步ト減ジ差引五町八段九畝二六步トナツテキル。

更ニ本村民ノ他町村ニ有スル民有地反別ハ大正八年度ヨリ漸次増加シテ來タノデアル。

即チ八九町九段四畝一步ヨリ一〇五町六段七畝八步ト増加シ、差引一五町六段二畝二七步トナツテ
キル。

要スルニ目下本村ハ村内民有段別ノ少ナルニ引換ヘ實際所有反別ハ村内耕地反別ヨリ
 田 一八町四段五畝一九步
 宅地 二六步
 山林 三町一段八畝二七步
 原野 一町八段二畝一七步
 合計 二三町四段七畝三步
 二六步

以上ダケ多イワケデ、又本村耕地ガ擴張サレテキル意味デアル。
 畑四町七反一五步ハ村内耕地ヨリ削除サレルコトデアル。

郡村比較表

郡	村	行方	
		八	代
戸數	總戸數	一〇、二三八戸	四四五
人口	農家人口	七、七五三	三五五
土地	畑田	五五、〇一四	二、二三八
一戸當人口	(郡平均)	四二、八六九	一、六一六
		五、八二四	一、八五町八
		四、六五四	四八町一
		五人四六	五人〇三

一戸平均耕作地段別	内譯	農家一戸平均耕作地段別	内譯	本村民耕作地段別	農家平均	本村民耕作地段別
一〇段三一〇	(村内耕地)	一三、五〇五步	本村内耕地	九、四〇一	五、二〇九	四、一二二
五段七二六步	畑田	七、五〇五	農家平均	四、一二二	四、一二二	四、一二二
四段五一四步	畑田	六、〇〇一	本村民耕作地段別	一〇、五二六	六、一〇三	四、三二三

郡ト村トノ比較

一戸當人口 〇、四三八減
 一戸平均耕作地段別 三段八畝十步少シ
 畑 一段六畝四步少シ
 田 一段三畝六步少シ
 農家一戸平均 四段一畝五步少シ
 畑 二段二畝二五步少シ
 田 一段八畝九步少シ

以上ノ如ク本村耕地段別一戸平均ハ郡ノ平均ニ及バナイ、故ニ其不足分ハ主トシテ北利根ノ對岸千葉縣新島村及ビ隣村香澄潮來ニ出作ス。

實際耕地反別

實際耕地ハ示サレタ如ク（農家一戸平均耕作反別）一町五畝二十六步デ本村ハ比較的半農半商（三五五戸對九〇戸）デ農家一戸當トシテハ稍々良好デアアルガ之亦郡平均一町三段五畝五步ニ對シテ悲觀セザルヲ得ナイノデアアル。サレバ吾人ハ郡ノ平均ニ接近シ且ハ一戸一町步ノ標準ニ接近セントタメ買求ノ方法ヲ考究セネバナラナイ。

買求方案

一戸平均人口郡五・四六人ニ對シ五・〇三人デ其差少數デアアルノニ一戸平均實際耕地ニ於テ二段五畝二十步モ少ナイノハ本村ノ理想トシテ漸次接近スルヨウニ努メネバナラナイ。

大正八年度ヨリ本年（十二年）度マデ買受ケタル耕地反別

（本村民ノ他町村ニ所有スル土地ノ増減比較表對照）

「別紙」

- 田 三町三段三畝
- 畑 五町一段三畝二十四步
- 山林 七町二段五步

原野 一町五段八畝二十七步
 合計 十七町二段五畝二六步
 ダケ多ク九ケ年間ニ買受ケタル割合デアアル。 （前表參照）

行方郡各町村別人口戸數耕地段別一覽表

町村名	田反別	畑反別	人口	戸數	一戸當人口	一戸平均田反別	一戸平均畑反別
麻生町	二七、八	二〇、五	三七七	七〇	五、五	反畝步 三八、四	反畝步 二、八、二六
香澄村	二五、〇	一七、〇、六	二七五	五四一	五、〇三	四七、〇四	三、一、六
八代村	一八、八	一四、一	二三八	四四五	五、〇三	四一、三	三、〇、八
潮來町	四四、四	二〇、四	四六六	九五四	四、八一	四四、二	二、二、九
津知村	二三、八	七、四	一七二	三三四	五、三	三八、〇六	二、三、四
延方村	七六、八	一一、五	四四五	八五四	五、一八	八五、一〇	一、三、〇五
大生原村	一九、一	一四、六	一八三	三四二	五、四六	五八、〇三	四、一、六
太田村	二〇、九	一六、七	一七二	三〇八	五、五八	六五、一八	六、五、一七
大和村	四七、二	三九、六	四一六	七六六	五、三四	六二、〇一	四、八、〇八

津	澄	村	三五九、四	三五七、六	三三八九	六〇〇	五、四七	五七、二九	五七、〇〇
要	田	村	一九九、九	四二、五	一九六二	三三〇	五、九五	六〇、一七	二五、〇〇
武	田	村	三四〇、一	五〇〇、〇	三八五	六七五	四、八七	五〇、二二	七四、〇三
秋	津	村	三四三、八	四三八、四	三四八	五九二	五、四九	五八、〇三	七四、〇三
現	原	村	一五一、五	三四六、二	一八七二	三四六	五、四二	四三、二三	一〇〇、〇〇
立	花	村	二六六、七	二二七、二	二六〇三	四五三	五、七四	四七、二五	五二、二二
玉	造	町	三三二、〇	二三五、一	二四四八	五二三	四、七七	六四、二二	四三、二七
手	賀	村	二〇九、六	一四九、一	一七九五	二九六	五、九九	七四、三六	五〇、二二
玉	川	村	二二六、八	一五七、七	二二五一	三三八	六、七六	六八、〇一	四五、一〇
行	方	村	二二二、六	一六四、六	二二三二	三六五	六、一三	六三、三三	四五、〇三
小	高	村	二七、三三	三三、六	二六四〇	四五七	五、七八	五八、〇三	六八、〇七
合	計		五、八四二、二	四、六五四、五	五五〇、四	一〇、三三八	五、四六	五七、二八	四五、一四

八代村民ノ所有土地、一戸平均		本村民ノ實際所有土地	八代村反別	他町村ノ所有土地	他町村民ノ本村土地所有	一戸平均
田	畑	二〇四、二二三	一八五、七六四	四八、五六〇	三〇、一〇二	四五、七
宅	地	一四三、三五五	一四八、〇六〇	一〇、四七四	一五、一八九	三、二〇六
山	林	九一、八四九、七 ^坪	九八、三三〇〇 ^坪	四、一九〇 ^坪	四、一六四 ^坪	二〇六、四
原	野	二四、六〇三	二三、四二六	四、七〇七	四、一六〇	五、〇一四
合	計	二八、三五〇八	二六、五二二	一、八三七	一一〇	六、一一
		六〇〇、五三九	五八、七二一	一〇五、六七八	八六、九〇二	一三、四八
		九一、八四九、七 ^坪	九一、八三、七〇 ^坪	四、一九〇	四、一六四 ^坪	二〇六、四

此ノ表ニ依ルト本村民ノ實際所有シテキル耕地ノ一戸平均ハ(田畑)七段八畝〇三歩テ村内民有地段別一戸平均七段五畝ニ對シテ三畝〇三歩ダケ(一戸平均)多イワケデアル。

他町村民ノ本村内ニ所有スル耕地買戻方案

第一案		
種目	總段別	價
田	101011 (時價)	10,442.00
畑	151807 (時價)	3,344.00
田	6畝24	45,940
畑	3,3	6,870

今ヤ本村焦眉ノ問題ハ本村内ニ侵入セラルル他町村民ノ所有地ヲ買戻シ村内耕地ハ全部本村民ノ所有ニシナクレバナラナイ。ケレドモコノ方案ハ微々タルモノデアル。買戻シノ結果ト雖モ本村民所有土地一戸平均

田 四段五畝二七步
畑 三段二畝〇六步
ニ増加スル豫定デトシテモ郡一戸平均耕地段別

田 五段七畝二五步
畑 四段五畝一四步
ニ遠ク及バナイ。
更ニ郡ノ平均ヲ理想トシテ立案スレバ左ノ如シ

郡一戸平均耕地段別ヲ理想トセル耕地買戻案 [第二案]		
種目	耕地段別	一戸平均段別
田	四段五畝二七步	五段二畝二〇步
畑	三段二畝〇六步	三段五畝一九步

地所買戻貯金法 [第一案]		
種目	一戸平均買戻責任段別及價格	十ヶ年繼續貯金五分
田	反歩 五、七六	四、二七
畑	四、五四	三、一〇六
田	一、二九	七、一〇、〇〇〇
畑	一、三〇八	二、六、〇〇〇

地所買戻貯金法 [第一案]		
種目	一戸平均買戻責任段別及價格	十ヶ年繼續貯金五分
田	一、〇〇六	四七四、一七〇
畑	三、五、九二〇	約十錢

地所買戻貯金法 [第二案]		
種目	一戸平均買戻責任段別及價格	十ヶ年繼續貯金五分
田	二、五〇七	九八六、〇〇〇
畑	七四、六九〇	約二十錢

第一案 ニ依レバ本村内ニ於ケル他町村民ノ有段別ハ一日十錢ノ貯金ニヨツテ買戻スルコトガ出來ル之ヲ日用品ニテ見ルナラバ卷煙草(エーヤシツ)一ヶノ節約デアリ豆腐二丁ノ節約デアル。カウシテ考ヘテ見ルト本村民ハカ、ル細カナ点ニモ留意シテ勤勉貯蓄ノ良風ヲ刷新シテ欲シイ。
第二案 ハ郡ノ平均ニ接近シャウトスル立案デアル。コノ立案ハ當然他日實行サレルコトヲ豫期シテ止マナイ。即チ現今ノ村勢ヨリ且又發展的氣勢ニアル本村トシテ決シテ架空ノ案デ無イト思フ。

今後十ヶ年ノ間ニ村勢ノ及ブ所自然ト郡ノ平均ニ到達スルコトハ勿論デアル。又之ヲ實驗實行ニ徴シテ所至難デナイ。

吾人ハ此ノ意味ニ於テ立案シ勤勉貯蓄ノ美風ヲ養ヒタイノデアル。

資料

郷土誌上卷第二章土地 自七頁至五八頁

全中卷第八章村經濟(農業)自七五頁至八八頁

二、戸口 三、労働 四、生産 五、村民生活ノ大要……………省略 六、經濟狀態基本調査結論並ニ改善案

本村經濟狀態ノ基本調査ハ上述ノ如ク土地、戸口、労働、労働ト耕地ノ歩合、生産及ビ副業、生産額村民生活ノ大要、農家收入ノ概算等ニ細別シテ調査シ各項目ニ改善助長意見ヲ述ベテ置イタガ總括的ニ之ヲ觀察スレバ

一、土地 本村内ノ耕地段別(一戸當並ビニ農家當)ハ郡ノ平均ト比較シテ劣ツテキル。(圖表参照)耕作地段別ノ一戸當モ亦郡ノ平均ヨリ下位ニアル、コレ等ノ所有權ノ分配ノ狀況ヲ調べテ見ルト買ニアゲテ置イタ通り此ノ地方ノ農村トシテハ大体理想的デアルト思フ。更ニ本村民ノ他町村内ニ所有スル土地ト他町村民ノ本村内ニ所有スル土地トヲ比較シテミルト一七〇、一七一頁ノ如ク差引キ本村民ノ方が多ク所有シテキルワケデアルガ如上ノ狀態ニアル吾ガ村トシテハ現狀ニ満足スルヲユルサナイ、其故ニ一八〇頁ノ買戻案更ニ進ンデ一八一頁ノ買受案ヲ計畫シタ次第デアル

二、戸口 本村ノ人口ハ別紙圖表ニ示ス如ク本籍人口増加スルニ反シ現住人口ハ之ト反對ノ傾向ヲ呈シテキル。コノ原因ハ一家ヲアゲテ都會ニ移住スル出稼人ガ多ク又青年等デ都會生活ニ憧レテ上京スルモノガ少クナイ様デアル。(今回ノ災害後ノ狀況ハ不明デアル)ソレガタトイ發展的デアルニセヨ農村トシテハ一考ヲ要スル現象デアルト思フ。

此ノ傾向ヲ生ンダノハ耕地ノ不足、農業ノ經營難(村民生活ノ大要参照)ガ主ナル原因デ虛榮心ノタメニ移住スルモノハ小數デアル。然ラバコレガ救濟豫防策トシテハ一面ニ於イテ堅實ナル發展ノ思想ヲ養成スルト同時ニ安心シテ父祖傳來ノ業務ニタツサハリ安住スル事ノ出來ルヤウニ計畫シテヤラネバナラス。

三、労働 本村農家ノ耕作地段別ト労働能力トヲ對照シテミルト労働力換算表ニ表ハレタモノト實際家ノ意見トヲ綜合シタ結果カラミテ本村農家ノ耕作地面積ト労働力トハ稍々平均シテキルト見テ差支ヘガナイ。

然シコノ狀態ハ人口増加ト耕作地段別トハ併行シテ行クベキ性質ノモノデナイカラ同項改善案ノ外ニ何等カノ方案ヲ研究セナケレバナラス。

四、生産ト村民生活ノ大要 本村ニ於ケル生産物ノ主ナルモノハ米、麥、大豆、根菜類デ計拾六万九千余圓副業トシテ養蠶ハ一万一千余圓、藁製品ハ一千七百圓弱、總計拾九万七千余千コレガ村民生活ノ源泉デアル。

翻ツテ地主自作自作兼小作、小作ノ各農家ノ收支表ハ村民生活ノ大要ニアゲテアル通り純益ト見ナス

ベキ餘裕ノ少ナイノハ遺憾ニ絶ヘヌ。然ルニ村民一般ハ物價騰貴ノ好況時代ノ生活程度ヲ改メナイカノ様ニ認メラル。カ、ル状態ヲ救済スルハ吾人教育者ノ重大ナル任務デアルト信ジ以下改善案ヲ立案シ、コレガ徹底ヲ期スルコトニツトメル。

改善案

(一)耕地ノ改良ニ耕地整理ニ二毛作獎勵

本村ニ於ケル耕地面積ノ不足ヲ補フニハ埋立干拓、開墾等ニヨツテ増加スル見込ガナイ。其故現在耕地ノ改良ヲスルヨリ外ニ策ガナイ。即チ耕地整理ヲ施行シテ濕田ヲ乾田トシ二毛作ヲ獎勵スル様ニシタイ。

(二)勞働能率ノ増加ニ勤儉貯蓄ノ獎勵

耕地ノ改良ニツイテハ現在ヨリ尙一層勤勞ノ習慣ヲ養成シテ勞働能率ヲ増加サセル事ニツトメタイ。(蓄力利用ハ耕地整理完成後ニ一層必要デコレガ勞働能率ニハ大ナル影響ガアルカラコレガ獎勵ヲスル必要ガアル)ソシテ勤儉貯蓄ヲ獎勵シテ健全ナル經濟的發展ヲ企畫スルト同時ニ土地買戻案買受案ノ貯金法(一八〇、一八一頁参照)ノ實現ニ努メタイ。

(三)農業教育ノ普及ニ生産物ノ精選

本村現在ノ農業經營デハ、農家ハ益々疲弊ヲ醸スコトニナリ、移住者ヲ豫防スルコトガ出來ナクナル。コレガ根本的ノ解決ヲスルニハ是非トモ智識ヲ應用セル經營案ニ改メ農業ニ關スル學理ヲ研究セシメ之ヲ實地ニ應用サセ現代ノ進化シタ方法ヲトル様ニサセケレバナラス。

然シテ從來等シク行方郡デアリナガラ行方米ヨリ差別的取扱ヒヲ受ケ潮來米トシテ一段品質ガ劣ツテキタノハ遺憾デアル故ニ今後ハ生産物ニ一大改良ヲ加ヘ東京市場ニ於ケル優良品トシテ取扱ハレル程度ニマデ達セシムル事ニツトメタイ。コレガ貫徹ヲ期スルタメニ高等科ニ於ケル農業教授補習學校ノ農業教育ヲ此ノ意味ニ於イテ改善ノ歩ヲ進メタイト思フ。

(小學校、補習學校農業科改善案參照)

(四)蔬菜類栽培ノ改善

水田ノ不足ハ如上ノ改善案デ補フ計畫デアルガ畑地ノ不足ハ土質ノ改良ニヨツテ救済スルコトハ至難デアル。從來ヨリ潮來牛堀ヘ蔬菜類ヲ供給シテキタガ更ニ東京市場ヘ送り出シ利益ヲ得ンタメコレニ一大改良ヲ加ヘ耕作面積ガ少クテ比較的多額ノ收益アル栽培法ヲ研究サセルコトガ急務デアルサウシテ耕地不足ヲ栽培法ト作物トニヨツテ緩和シタイト思フ。

(五)副業ノ獎勵ニ加工品

勞働能率ト耕地トノ關係ハ人口増加ニ伴フテ併行シテ進ム譯ニ行カヌ、コレガ救済策トシテハ副業ヲ獎勵シテ桑、繭、生糸、織物業、繩、筵、草履ノ様ニ加工シテ賣出スコトニ指導獎勵シタイ。六以上ハ實地ニ基イテ論ンジタ改善案デアルガコレヲ要スルニ、コレ等ノ案ノ成否ハ、實ニ農民自身ノ覺醒ニ俟タネバナラナイ。

吾人ガ本村農夫ノ作業状態ヲ見ルニ、眞ノ生命ガ流レテキナイ一耕一作悉ク國家經濟、村經濟ニ影響スル事ヲ考ヘナイ。又農業ニ對シテ眞ノ研究の態度ニ出テキナイ。此等ハ從來ノ農業教育ガ皮相

ナル化學的獎勵ニ没頭シ精神教育ヲ等閑ニ附シタ爲デアル。故ニ職務ノ神聖其責任ヲ了解セザルヤ
 ウニナツタ、其故今後ノ農業改善ニハ先ジ精神的教育ヨリ入ツテ農民ノ自覺ヲ奮然喚起セネバナラ
 ス。即チ眞ノ農夫トナシ國ノ柱トナサネバナラス、カクテコソ眞ノ農業ノ改善ガ出來ルノデアル。
 (七)併シ所謂現在叫バレテキル改善ハ舊來ノ缺陷ヲ補正スルニ止ツテキル、コノ状態デハ求久眞ノ改善
 ヲナス事ハ出來ナイ、故ニ、本村農民ノ實狀ニ即シタ教育ニ依ツテ得テ覺醒ニ基イテ改善ノ歩ヲ進
 メルト共ニ更ニ其改善ニ立脚シテ改善ヲ施サネバ到底根本的改善ノ樞核ニ觸ルコトハ出來ナイ。
 即チ改善ヨリ更ニ改善ヘハ保守的現代ヘノ一大注射デアル、カクアラネバ眞ノ改善ハ不可能デアル。

第一篇 第一章 第二節 村費ト教育費

一、累年教育經費 二、村費教育經費累年比較 三、村費ニ對スル教育費歩合累年比較 四、經費
 累年平均表 五、行方郡各町村ニ於ケル村費ト教育費及ビ其ノ歩合………省略
 六、本村ノ資力ニテ支出シ得ベキ村費並ビニ教育費ノ最高原度

二、本村ニハ村及學校基本財産トシテ

村基本蓄積金 一五八三、八三 土地^{〔段別〕}四段一畝二十四歩
 學校基本蓄積金 二二三八、一三八 ^{〔地價〕}五十二圓三十八錢

右ノ如ク現ニ蓄積中ノ状態ニアレバ資力ト認ムベキモノハ大体左記村税ニ應ズルノホカナイ。

一、地租附加税 二、國稅營業稅附加税 三、所得稅附加税 四、賣藥營業稅附加税 五、戶數割附
 附加税 六、縣稅營業附加税 七、縣稅雜種附加税

二、村稅及課率左ノ如クデ國稅ニ對スル附加税ハ現在ノ課率ノ限度ニ達シテキル。以ツテ將來制限擴
 張ノ法律ヲ見ザル以上増徴ノ見込ガナイ。尤モ特別ノ必要アル時ハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ得法定
 内ニ於テ更ニ課稅スルコトガ出來ル。カクモシナケレバ教育費支辨ノ爲増收ハ不可能デアル。特別
 必要ノ場合トハ左ノ如クデアル。

- 1、內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 2、非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 3、水利ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 4、傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

村稅及課率

一、地租附加税 二七二五 宅地^{〔租〕} 地租一圓ニ付二十八錢
 其他土地^{〔租〕} 全 六十六錢
 二、國稅營業稅 八九 本稅一圓ニ付六十一錢
 三、所得稅附加税 九一 本稅一圓ニ付十四錢
 四、賣藥營業稅 附 本稅一圓ニ付五錢
 以上ハ國稅ニ對スル附加税デアル。

五、戶數割附加税六六四六 本稅一圓ニ付五圓十六錢六厘
 一人平均十七圓三十九錢五厘
 六、縣稅營業稅 二三一 本稅一圓ニ付七十錢
 七、縣稅雜種稅 四八七 本稅一圓ニ付七十錢

以上ハ縣稅ニ對スル附加稅デアル。

三、將來ニ於テ增收ノ見込アルモノ及增收見込額左ノ如クデアル。

イ、縣稅雜種稅及營業稅附加稅ハ現ニ本稅一圓ニ付七十錢ノ賦課ナルモノ一圓迄課稅スル事ヲ得。

ロ、戶數割附加稅ハ大正十二年ニ於ケル村稅總豫算額ノ百分ノ八十マデノ制限ニシテ現在ノ賦課額ハ百分ノ五十七弱ナレバ左記ノ如キ餘裕ガアル

縣稅雜種稅附加稅（增收額） 二〇八圓

營業稅附加稅（全） 九九圓

戶數割附加稅（全） 二七一一圓

計金 三千十八圓

四、教育費ニ支出シ得ベキ最高限度

イ、教育費ノ村費ニ對スル歩合ハ、五三弱デ前記增收額ヲ之ニヨツテ按分スレバ

一千五百九十九圓五十四錢トナル。

ロ、教育費ノ村費ニ對スル歩合ヲ行方郡ノ最高率津澄村ノ〇、六マデ支出スルトスレバ

一千八百十圓八十錢トナル。

ハ、國庫下渡金ヲ假ニ千圓トシ、六ノ支出トシテ合算スレバ

計金 二千八百十圓八十錢トナル。

五、教育費豫算編成ニツイテ（省略）

第二篇 下

第一章 兒童教養ノ方針

本校ハ教育勅語並ニ戊申詔書ノ 聖旨ヲ奉戴シ小學校令第一條ニ基キ兒童ノ自己發展ヲ圖トル共ニ現時ノ國勢及時代ノ要求ニ適應スル 忠良ナル國民タラシメンコトヲ期ス。

綱 領

兒童ヲシテ自己ノ生活ヲ擴充シ向上セシムル上ニハ、現在ノ生活ヲヨリヨク改造シ創造セントスル追求的、欲求のナル情意ノ傾向ヲ持タシメル事ノ必要ナルヲ念ヒ、眞善美及身體ノ發動的學習態度ヲ教養セン事ヲ期ス。

一、兒童ヲシテ其ノ天賦ノ性能ヲ充分發展セシメンガ爲、個ニ即シタ材料ト方法トヲモツテスル事ニ留意シ、依リテ優劣各其ノ處ヲ得シムル事ヲ期シ、兒童ノ自發活動ヲ重ンジ、創造的活動ヲ重視スルト共ニ、個ノ發展ヲ自由ナラシムル事ニ努力シ、以テ教育ノ目的ヲヨリヨク實現セントス。

一、發動的學習態度ハ積極的ナル教育態度ノ反映ニジテ、兒童ヲシテ伸展セシムル教育ニハ、先ヅ教師自身ガ伸ビホバナラス事ヲ念ヒ、體力ノ練磨ニ、現代文化ノ理解ニ、人格ノ向上ニ、常ニ自己修養ニ努メ、信念アル教師ノ體驗ヲ以テ、兒童ヲ導カン事ヲ期ス。

一、社會文化ノ進展モ、國家ノ發展モ、總テ教化ガ其ノ根源ナル事ヲ念ヒ、教育ノ理想ガ教育者ノ熱アリ愛アル教育態度ニヨリテノミ、實現セラル、事ヲ自覺シ、常ニ犧牲的精神ヲ以テ、職務ニ奮闘シ、教化ノ徹底ト普及トニ、努力セン事ヲ期ス。

第二篇 下 第二章

第一節 教授ノ方針

國民生活ニ必須ナル知識技能ヲ收得セシメ、進ンデ自ラ研究創作スルノ能力ト態度トヲ、教養セントス。

一、自ラ學習セントスル態度ノ確立ヲ期スルコト、最近ノ教育思潮ノ共通点ノ主要ナ一ツハ、自學的主張デアラウ。知識ハタゞ自己活動ニヨツテノミ構成セラレルモノデアルトノ見地カラ、マタ教授ノ究竟目的ガ知識技能ヲ愛好欲求スル情意ノ陶冶ニアルコトカラ考ヘテ、兒童ヲシテ學習ヲ喜悅シ欲求的、推究的ニ、學習スル發動的態度ヲ教養スルコトハ、最モ必要ナ事デナクレバナラナイ。是ガ爲ニ特ニ留意スベキコトヲ總括的ニ擧グレバ

- 一、兒童ノ生活ヲ尊重スルコト、
- 二、學習ニヨリ多クノ自由ヲ與ヘルコト、
- 三、學習法ノ指導ニ努メルコト、
- 四、眞理ヲ體驗セシメルコト、

二、學習法ノ學習ヲナサシメルコト、

全兒童ヲシテ發動的ニ、自ラ努力シ、自ラ解決シ、自ラ構成スル推究的欲求的態度ニアラシメルト同時ニ、相俟ツテ努力シナクレバナラナイノハ、學習法ノ學習ヲ指導スルコトデアアル。之ニヨツテ亦、發動的ナ態度ヲ教養スルコト、モナルモノデアアル。コノ自動的態度ト學習法ノ習得

ト、相俟テバ教師ガ環境ノ整理ト、材料ノ提供ヲナセバ、兒童ハ全我ノ力ヲコメテ發動シ、彼等ハ自己構成ヲ爲シ得ルニ至リ、教授ノ目的ハヨリヨク達シ得ルニ至ルモノデアアル。カクシテコソ、彼等ハ將來トモ自己ノ生活ヲ開拓シ得ルニ至ルモノデアアル。

三、個別指導ヲ重ンジ個性發揮ニツトメルコト、合同教育ハ必然的ニ兒童ノ個性ヲ閑却シ、一樣平等ノ取扱ニ流レ易イ。其ノ結果近時ノ教育說ハ個性ノ擁護ト、人格ノ自由ヲ發展ヲ説カナイモノハ無イ。兒童ノ自發的活動ヲ重視シ、其ノ創造的活動ヲ尊ブベシ、トノ説モ、要スルニ個性ノ發展ヲ自由ナラシムベシトノ説ニ外ナラナイ。故ニ吾々ハ教授上兒童ノ個性ヲ調査シ、個性ニ即シタ材料ト方法トヲ以テスルコトニ努力シナクヤバナラナイ。

注意スベキコト

- 一、教科ニヨリ分團的ニ教授スベシ、
但シ固定分團ニ陥ラザル様注意スベシ。
- 一、教材ニヨリ兒童ノ能動的活動ノ範圍ヲ大ニシ、成績物ハ個人的特色ヲ尊重スベシ。
- 一、長所ノ助長短所ノ矯正ヲ計ルベシ。
- 一、教授ノ方法モ多様ナルベシ。
- 一、個人ノ能力ニ應ジタル材料ヲ學習セシムル様工夫スベシ。

四、社會生活ヲ尊重スルコト、
生活ハ内部カラノ力ト環境ノ影響トニヨツテ發展スルモノデアアル。生活ガ陶冶スルトハコソ謂ニ外

ナラナイ、而シテ教育ハ大人ノ生活ニ向フベキモノデアルト同時ニ兒童トシテノ現在ノ生活ヲ完全ナラシメネバナラヌモノデアルカラ學年相應ニ兒童現在ノ生活ヲ基調トシテ授教ヲスルト同時ニ社會生活ヘノ社會化シテ教授ヲシナケレバナラヌ。

五、行動法ニヨル學習ヲ重ンズルコト。

學習ノ心理的方法デアアル、印象法、理解法、行動法中印象法理解法ニ留意スルコトハ勿論デアルケレドモ、特ニ行動法ニヨル學習ヲ尊重シ、爲スコトニヨツテ智能ヲ構成シ、爲スコトニヨツテ眞理ノ確信ヲ増シ、爲スコトニヨツテ行動ノ方法ヲ學習セシメル様努メネバナラヌ。

六、他教科トノ聯絡系統ニ留意シ、有機的統合ヲ計ルコトニ留意スルコト。

七、反覆練習シテ應用自在ニマデ到ラシムルコト。

刺激ト反應、又ハ觀念ト觀念、觀念ト運動トノ間ニ存スル聯合ヲ固定センガ爲ニ、反覆練習ノ必要ナコトハ云フマデモナイ。而シテ吾々ハ一度收得シタ事項ガ將來ノ學習及ビ生活ニ、反覆應用セラレル様ニ系統的、具案的ニ學習材料ノ排列ヲ立案スルコトハ、教育上ノ理想デアルケレドモ、アラユル材料ノ練習ヲ此ノ形式ニノミ限ツテ、シカモ完全ナル結果ヲ擧ゲルコトハ容易デナイ。故ニ相當機械的練習ヲ以テ、之ヲ補フコトヲ要スル。コノ系統的排列ト機械的練習ト相俟ツテ、彼等ヲシテ確實ナル知能ヲ收得セシメ、應用自在ニマデ到ラシメネバナラヌ。

ナホ聯合ノ固定ニハ、注意ト快感トガ必要デアアル。故ニ常ニ單調ト不快感トヲ避ケテ、練習セシムベキコトハ、練習上特ニ留意セネバナラヌ。

八、常ニ過程及結果ノ省察ヲスルコト。

兒童ヲシテ常ニ自己ノ學習ノ過程及結果ヲ反省シ、自我擴大ノ過程ヲ自覺セシメルコトニ留意スルト同時ニ、常ニ適切ナル成績考查ヲナシ、教授ノ過程ト結果トヲ省察シ、更ニ新ナル改善ト施設トヲ研究シ工夫セネバナラヌ。

第二篇 下 第三章

第一節 訓練ノ方針

教育勅語並ニ戊申詔書ノ 聖旨ニ遵ヒ兒童ノ生活ヲ基礎トシ善良ナル徳性ト鞏固ナル品性トヲ陶冶セントス。

一、本校所定ノ訓練要目ヲ中心トシテ、之ヲ實踐セシメ善美ナ校風ヲ確立スルコト。

訓練ノ本旨ハ兒童ノ生活ヲヨリヨク指導スルコトニナルトイフ見解ノ下ニ、之ヲ基礎トシテ、選定シテ訓練要目ノ徹底ヲ期サネバナラヌ。

二、正善ヲ愛シ邪惡ヲ惡ミ、自ラ道德律ニ服從セントスル態度ノ確立ヲ期スルコト。

善キニツケ、惡キニツケ、吾人ノ意志活動ヲ促スコトノ大ナルモノハ感情デアアル。故ニ常ニ良心ノ啓培ニ留意シ、道德的情操ヲ陶冶セネバナラヌ。

ソレト相俟ツテ自ラ道德律ニ服從セントスル能動的態度ヲ持タシメルコトニ努メネバナラヌ。

所謂『心ノ欲スル所ニ從ツテ矩ヲ踰エズ』ノ境域完全ナル道德的品性ノ陶冶ハ、訓練ノ最大理想デアラウ。然シ小學校ノ教育ニ於テ、コノ境涯ニマデ達セシメルコトハ至難デアアル。故ニ吾々ノ最モ

留意スベキコトハ、彼等ヲシテ、道德的理想ヲ構成セシメ、彼等ノ意識内ニ絶エズ起ル處ノ道德的理想ト、感覺的主義的欲望トノ抗争ニ於イテ、自ヲ思慮選擇シテ、道德律ニ服従スル自治的訓練ノ徹底ニアル。然シ兒童ノ意志感情ノ發達過程カラ考ヘテモ、彼等ヲシテ、自然的ニ生活セシメルコトハ出來ナイ。學年相應ニ指導監督シテ、其方向ヲ正シクシ、自發的ノ活動ニヨツテ、力アラシメネバナラス。兒童ノ主觀的傾向ト、外部ヨリスル惡影響トヲ察知シ、抑制ニヨツテ、其惡習ヲ馴致スルコトヲ防止スルト共ニ、兒童ノ個性ヲ尊重シ、兒童ニ自由ヲ與ヘテ責任ヲ自覺セシメ、一步一步其範圍ヲ擴大シテ、自發的ニ善ノ規範ニ即セントスル態度ノ教養ニ努メネバナラス。斯様ナ發動的態度ノ教養上留意スベキ重ナル事ハ

一、道德的理想ノ構成

二、良心ノ啓培

三、善行ニ對スル贊辭

四、善ノ體驗

五、生活ノ指導

三、兒童ヲシイ兒童ヲ理想トスルコト、

兒童ノ意志活動ヲ抑制指導シテ、自治的行動ニマデ到ラシメル上ニ、兒童ヲシイ兒童ヲ養成スルコトニ留意シナクレバナラス。大人ノ縮圖ノ様ナ兒童ハ、吾々ノ理想トスルモノデナイ。兒童ハ大人マテ發展スベキ兒童デアアルコトヲ忘レテハナラス。吾々自ラガ兒童ト日々新シク生活シ、兒童ノ立

場ニマデ接近シテ彼等ヲナガメ、兒童ノ心意ノ發達ニ適應シテ指導ヲナシ、眞ニ兒童ヲシイ兒童ヲ教育スルコトヲ、吾々ノ理想トシナクレバナラス。

四、型ニハメルヨリモ創造的ニ、

與ヘラレタモノヨリモ、自ラ獲タルモノハ、更ニ貴イコトハ、各科ノ學習ニ於テモ必要デアアルガ、殊ニ道德ノ形式ガ、時代ト場所ト境遇トニヨリ、改變スルモノデアアル以上、自ラソノ時ト處トニ應ジテ、自己ノ態度ヲ決シ得ル工夫ガ必要デアアル。故ニ固定シタ型ニ入レルコトハ慎マネバナラス。訓練ノ理想カラハ、兒童ヲシテ一定ノ生活形式ニ、外部カラノ力ニヨツテ合致セシメルノデハナク彼等ヲシテヨリヨイ生活形式ヲ創造セシメル様、指導スルコトニアル。矯正方面ニ於テモ、イタヅラニ干渉ニ流レ、彼等ノ伸ビントスル萌芽ヲ摘ム様ナコトガアツテハナラナイ。一段高イ處カラ兒童ノ行動ヲ律シ、一定ノ型ニハメ様トスルコトハ望マシクナイ。教師專制ノ訓練態度カラハ、偽善的ナ面從諂詐ノ惡習ガスナホニ伸ビルハヅノ子供ノ魂ニ喰ビ入ツテ一方ニ於イテ訓練ノ目的ト相反スル様ナ、惡結果ヲ馴致スル事ニナリハシナイダラウカ。眞ニ兒童ノ伸ビントスル意志活動ヲ伸バヌ訓練彼等ヲシテ善的生活ヲ創造セシメル訓育法ノ理想カラハ、教師ハ常ニ兒童ト共ニ生活スル事ニヨラネバナラス。兒童ト共ニ生活スル時ニ、彼等ハ赤裸々ニ己レノ意志活動ヲ現ハシ得ルニ至ルノデアアル。茲ニ於テ、剽賊シ、暗示スルト共ニ、善良ナル意志活動ヲ直觀セシメテ、其ノ規範ニ目覺メシメネバナラス。カクシテ自己自身ノ立法者トシテ、意欲シ、行動スル、道德的自律ノ原理ニ從フ兒童ヲ作ル事ヲ、主眼トセネバナラス。

五、指導ヲヨリ特殊の個性的ニ

教育ソノモノガ兒童各個ノ天賦ノ性能ヲ充分ニ伸バシテ行ク事デアル以上、個別指導ヲ必要トスル事ハ云フマデモナイガ、殊ニ訓育ニ於テハ、獨一ノ個性ガ特有ノ事情ノ下ニ、生活シテ行クノデアリ、獨特ノ個性的差異アル意欲ト、理性ドノ葛藤、展開ガンノ人ノ道德トナツテ行クノデアルカラ特ニ此ノ点ニ留意シナケレバナラス。

自己ノ行動ニ對スル自覺、反省、悔改等ノ點ハ、ソノ程度ニ、個人的差異ノ甚ダシイモノガアル。コレ等ノ差異アル兒童ニ、一般的ニ、同一程度ニ、實踐ノ要求ヲナシ、同一方法ヲ以テノミ指導スル事ハ、妥當デナイ。故ニ吾々ハ常ニ家庭ノ事情ヲ踏クシ、學校ノ内外ニ於ケル兒童ノ動作ヲ觀察シ、個性ノ實際ト其因ツテ來ル原因トヲ審カニシ、之ニ應ジ、平素ノ指導監督ヲ誤ラザル様、注意スル事ガ肝要デアル。

六、反省スル習慣ヲ得シメタイ、
兒童ヲシテ自己ノ行爲ガ、果シテ善デアツタカ、ドウカヲ反省セシメタイ。即チ行爲ソノモノノ動機ガ、眞ニ我が貴イ心ノ發動デアツタカ、又其結果ガ、客觀的規範ニ合スルカ否カニ就イテ内省批判セシメ、不善ニ對シテハ悔改シ、正善ニ對シテハ喜悅ヲ感じ、道德實踐ノ心ニ強イ勢力ヲ加ヘシメタイ。彼等ヲシテコレニヨツテ來ルベキ行爲ヲヨク正善ニ、迪ラシメタイ。

七、教師ノ修養
教師ノ修養如何ガ兒童ニ及ボス影響ノ大ナル事ハ、教授ニ於ケルソレト同様デアル。吾々ハ訓育ノ

理論及方法ニツイテ、深い研究ガ必要デアルガ、ソレ等ト相俟ツテ必要ナノハ教師ノ人格的修養デアル。教師ガ自律的デアツテ、始メテ兒童ヲ自律的ナラシメル事ガデキル。信念アル教師ノ体験ヲ以テ兒童ヲ導キタイ、兒童ヲシテ伸展セシメル訓育ニハ、先ヅ教師自身ガ伸ビネバナラス事ヲ自覺セネバナラス。

訓練要目選定上注意シタル點

- 一、國民性
- 一、時代ノ趨勢
- 一、縣民性
- 一、本校ノ實狀

訓練實行要目選定上注意シタル點

- 一、兒童ノ日常生活ヲ基本トシタル事、
- 一、兒童ノ道德意識ヲ參考トシタル事、
- 一、修身科教科書ヲ參考トシタル事、

訓練要目

清潔	第一	第二	第三	第四	第五	第六	高	高二	
顔、手、足等ヲ清 麗ニスルコト	衣服、帽子等 ヲ汚サヌコト	學用品、携帶品 ノ整理整頓ニ注 意スルコト	教具、校具ノ整理 整頓ニ注意スル コト	全	上	全	上	校ノ内外ノ清潔 整頓ニ注意スル コト	全上

整頓	勤勉	勇氣	規律	自治	禮儀	信義	親切	犠牲
所持品ヲ所定ノ場所ニ置クコト	授業中他見ナシナイコト、全上勝手ナ話チシナイコト	元氣ヨク遊ブコト、臆シナイコト	時間ヲ守ルコト		言葉遣ヲ正シクハツキリスルコト、姿勢ヲ正シクスルコト		友達ト仲ヨクスルコト	
上ノウリト下ノウリトナ區別スルコト	全上	全上	集合ヲ正シクスルコト		全上		全上	
教室ノ清潔ニ注意スルコト	學用品ヲ忘レナイコト	辛辣強クスルコト、慌テナイコト	教室ノ出入ヲ正シクスルコト	學用品携帯品等ヲ自分テ未スルコト	人ノ惡口ヲ言ハナイコト、下品ナ言葉ヲ使ハナイコト	嘘ヲ言フナ	友達ノ困ツテ井ルノヲ助ケル事	
	日ク復習ナスルコト、掃除ヲホシテスルコト	不和雷同シナイコト	全上	自分テキマリチタテ、仕事チスルコト	全上	約束ヲ守ルコト	全上	
	練習ナスルコト、ワカラナイコトハ飽クマデ調ベルコト、作業ハ本氣ヲスルコト	自分ノ考テ充分ニ言フコト、善イト思フコトハ飽クマデ遂行スルコト	學校ノキマリチ守ルコト	自分ノ學級ノコトハ自分ラテ仕末シテ行クコト	服装ニ注意スルコト、敬禮ヲ正シクスルコト	ナスベキ務ハ果セ	外人ノ困ツテ井ルモノヲ助ケルコト	建物ヲ汚サヌコト、樹木家畜ヲ愛護スルコト、學校ノ器具機械ヲ丁寧に取扱フコト
	全上	全上	全上	常番役員等ノ務ヲ完全ニ行フコト	全上	全上	全上	全上
	悅ンテ學業ト作業ニ親シムコト	全上	全上	全上	全上	責任ヲ重ンズル	自分ノ心身ヲ苦勞セシメテモ人ハ助ケナイ	公共物ソノ他營造物ヲ大切ニスル
	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上

公徳	報恩
	友達カラ世話チウケタラオ禮チ言ヒナサイ
	全上
	世話チウケタコトヲ忘レナイコト
	全上
	廊下ヲ騒ケナイコト、人ノ邪見ニナル進ビチシナイコト
	全上
	ウケタ恩ハ報ヘヨ
	全上
	公共物ソノ他營造物ヲ大切ニスル
	全上

訓練ハ外部カラ強制スベキモノデナク兒童自身ラシテ自ラ向上シ發展シ自ラヨイ習慣ヲ養フ様ニ努力セシムベキモノデアル、外的ニ或事項ヲ定メソノ實行ヲ強要シテ習慣養成トイフヨリハムシロ型ニハメ様トスル事ハ訓練ノ本旨ニモドルモノデアル、訓練ハ飽クマデ兒童ノ内部ヨリ發スベキモノ自ラ創造スベキモノガ理想デアル。

故ニ訓練要目ノ徹底ヲ計ルニモ、外部の強制的ニセズニ内部的ニ創造的ニ取扱フ様、其方法ヲ講ゼネバナラス。

第二篇 下 第四章 第一節 養護ノ方針

兒童ノ體質ニ應ジ健康生活ノ保持向上ヲハカリ自意的ニ自己ノ身體ヲ修養練磨セシメントス。

一、童兒ヲシテ自ラ健康ト體力トヲ、保護増進セントスル態度ノ養育ニ努メルコト。
 體育ノ目的ハ、兒童教養方針ニ基イテ、兒童身體各部ノ均齊ナル發育ヲ遂ゲシメ、其機能ヲ完全ナ

ラシムル事ニアル。而シテ、教育ノ理想ガ被教育者ヲシテ、自生獨立ノ活動ニマデ達セシムル事ニアル點カラ考ヘ、單ニ保護ト指導トニ依ツテ、身體ノ健全ナル發育ヲ遂ゲシムルニセマラズ、進ンデハ、彼等ヲシテ自己ノ身體ヲ尊重スベキ事ヲ自覺セシメ、自ラツテ健康ト體力トノ保持向上ニ努メ様トスル發動的態度ヲ教養スル事ニ、努メネバナラス。

二、體操並ニ其他ノ運動ニ對スル興味ヲ養ヒ、運動尊重ノ風向作興ニ努ムルコト。

眞ノ學習ニシロ、美ノ學習ニシロ、善ノ學習ニシロ、自ラソノ學習ニ興味ヲ持チ、自ラ自己ヲヨリ高キニ導カウトスル、追求的、欲求的ノ態度ガ必要デアルト同様ニ、身體ニツイテモマタコノ態度ガ必要デアル而シテ自己ノ身體ヲヨリ健康ニシ益々體力ノ充實ヲ圖ラウトスル態度ヲ持タシメルニハ、前項ノ如クニ理知的ニ、自己ノ生命身體ノ貴重ナル事ヲ自覺セシムル事ガ必要デアルガ、ソレト相俟ツテ、體操其他ノ運動ソノモノニ興味ヲ持チ、之ヲ愛好スル様、導クコトガ大切デアル。從來ノ如クニ、在學中ハ體操其他ノ運動ヲナスモ、一度校門ヲ出ヅレバ、全ク之ヲ顧ルモノノナイ。狀態ハ一刻モ早ク打破シナケレバナラス。

コノ方面カラ考ヘテモマタ、運動ニ興味ヲ持チ、之ヲ尊重スルノ風向ヲ作ルコトガ重要デアル。

教授ニ於ケル注入主義ノ様ナ態度ハ、養護上ニモ改メテ、之ガ徹底ニ努メネバナラス。

三、季節天候等ニ應ジ、機ヲ逸セズ指導ヲスルコト。

季節天候等ノ變化ト共ニ飲食物運動等ヲ適當ニシテ、吾々ノ健康生活ヲ保持増進セシメネバナラス。故ニ機ヲ逸セズ之等ニ關スル衛生上ノ、注意ヲナシテ、飲食物並ニ運動等ヲ適度ナラシメルコトニ

留意シナケレバナラス。

四、兒童ノ個性及狀態ヲ察シ、之等ニ適應スルコト。

兒童ノ體質ニハ、先天的ニ、或ハ後天的ノ原因ニヨツテ、種々ノ差異ガアル。コノ千態萬様ノ體質ノ所有者デアル兒童ニ、同一ノ強サノ體操ヲ課シ、又ハ其他ノ運動ヲナサシメルコトノ不合理デアルコトハ言フマデモナイ。故ニ強健ナ兒童ニハ、相當ノ鍛鍊的運動ヲナサシメテ、益々健康ト體力ノ増進トヲ圖リ、虛弱ナ兒童ニハ、殊ニ消極的養護ニ注意シ、更ニ之ニ相應シテ鍛鍊的運動ヲナサシメテ、健康ノ保護ト増進トヲナサシメル様、各兒童ノ體質ニ適應シテ養護上ノ指導ヲナスコトニ努メネバナラス。マタ人間ノ健康狀態ハ、常ニ一定ノモノニアラズシテ、時ニ種々ノ變化ガアルモノデアル。

ゴノ變化ニ應ジテ積極的ニ或ハ消極的ニ指導ト注意トヲナシ、其狀態ニ應ジテ取扱ヲスルコトニ注意シナケレバナラス。

五、休養ト營養トニ充分ノ注意ヲ拂ハネバナラス、健康生活ノ保持ニモ向上ニモ、休養ト營養トニ、深甚ノ注意ヲ拂ハネバナラス。

即チ、始業時・終業時・休暇・時間割・睡眠・休息等ヲ適度ニシ、或ハ三分間體操ヲナシテ、充分ノ休養ヲナサシメマタ換氣・採光・室温・調節・食物・等其宜シキヲ得シメルコトニ努メネバナラス。然シテ之等ノ中睡眠、或ハ食物等ニツイテハ、ドウシテモ、家庭ノ手ニヨラネバナラスモノデアルカラ、一方家庭ニ對シ之ガ注意ヲ促シ、進ンデハ衛生思想ノ普及ニマデ努力セネバナラス。

六、教師ノ理論及方法ノ研究ト身體的修養

教育ノ成果ハ教育者ノ力ト熱トニヨツテノミ、得ラルル事ハ、吾人ノ信條デアル。故ニ養護ニ於テモ、之ニ對スル理論ト方法ノ研究トヲ充分ニシ、且、身體的修養ニ努メ、コノ力ト熱トヲ以テ、之ニ當ラネハナラス。

七、眞鍋町教育改善案

新治郡眞鍋尋常高等小學校長

赤塚庄三郎

立案ノ方針

教育改善案ハ理想案ニアラズシテ實行案デナケレバナラス、充分實行力ヲ有スルモノデナケレバナラス本案ハコノ意味ニ於テ立案シタモノデアル、即チ本町ノ過去ヲ考ヘ現狀ニ立脚シ直チニ實行シ得ラル、程度ヲ以テ目標トシ標準トシタモノデアツテソノ各項ハ今後年ト共ニ次第ニ實現セラル、モノデアル而シテソノ實現ノ曉ハ更ニソノ時ノ現狀ニ鑑ミヨリ良キ改善案ハ立テラル、モノデアル。

本案ハ以上ノ如キ見地ニヨツテ立テタモノデアルガ故ニソノ中ニ他ノ町村等ニ於テハ既に過去ノ事ニ屬シテキルモノデモ本町ノ現狀カラ見レバ改善ノ目標トナルベキモノモ亦幾多アル事ハ當然ノ事デアル。

本案ハカクノ如ク實行ヲ基礎ニ置イタモノデアルガ故ニ實ニ一步一步主義ノモノデアル。尙又理事者ハ勿論學務委員ソノ他町ノ有力者等ノ充分ナル了解ヲ得タモノデアルノデアル。

教育改善案概要

第一編 形式的方面

第一章 設備

第一節 校 地

現在二五八一坪ヲ二六〇坪増シテ二八四一坪トナス

第二節 校 舎

九坪ノ裁縫教室ヲ増築シテ十八坪トナシ、家事室十二坪普通教室百坪ヲ増築ス

第三節 教 室

兒童用バツクボード、直觀方便物陳列臺ノ設備

第四節 廊 下

湯呑所四ヶ所、手洗所三ヶ所、兒童參考用書直觀方便物陳列所（兒童圖書館、兒童博物館）ノ設備

第五節 教具及參考書

直接教授ニ必要ナル教具及參考書ノ最低限度ヲ定メ現在設備シアルモノヲ明示シ、不足ノモノヲ舉ゲテ一目瞭然タラシメコレガ完備ヲハカルタメニ要スル經費ノ概算ヲナシ如何ナル方面ヨリ財原ヲ得ルカラ考ヘソノ具体案ヲ立ツ

第六節 井 戸

井戸ノ増設ヲ認メ大正十一年ニ計畫シ十二年度ニ於テ完成

第七節 教員住宅

各大字ニ町營ノ教員住宅ヲ設備シ、青年會、處女會ノ支部事務所ヲ附設ス

第二章 經 濟

第一節 土地所有權別調

第二節 耕作地一戸當分配

第三節 一戸當消費調査

第四節 一戸當生産調査

第五節 一戸平均支收概算

第六節 町費豫算十ヶ年比較

第七節 教育費豫算十ヶ年比較

第八節 兒童學用品消費調

第九節 兒童小遣調

コレ等ノ調査ニ立脚シテ本町經濟ノ状態ヲ察知シ今後如何ナル程度マデ教育費ノ膨張ガ可能ナルヤヲ考ヘ設備ソノ他經費ヲ要スベキ改善案ノ基調トシタノデアアル

兒童學用品調ノ結果コレガ對策トシテ保護會ノ設置、學用品町費支辨ノ二案ヲ作成ス

兒童小遣調ノ結果トシテ貯金獎勵、奉仕箱設置ヲ計画スルニ至ツタノデアアル

第三章 就 學

第一節 就學督勵

第二節 出席督勵

第三節 托兒所ノ設置

第四章 學級編制

第一節 一學級ノ兒童數

五十人ヲ以テ最高限度トスル事

第二節 編制

全部單式ニ編成シ、同一學年ニ於テ能力別分團の取扱ヲナス事

第三節 專科教員

裁縫科教授ハ專科教員ノ專任トスル事

第四節 學級擔任法

五學年以上ニ學科分擔ヲ加味スル事

第五章 教科目

第一節 實業科目

商業ヲ農業ト並ビ課スルコト

第二節 圖画科 高等科ニ圖画ヲ課スル事

第二編 內容的方面

第一章 教授

第一節 教授方針

一、小學校令第一條并ニ敎則ノ示ス處ニ從ヒ特ニ左記諸項ニ意ヲ用ヘ實力養成ニ重キヲ置キ正
確ナル智識技能ヲ授ケ兼テ自學自習ノ基礎的習慣ヲ養ハン事ヲ期ス

二、町ノ過去現在ヲ明カニ知ラシメ將來ノ方針ヲ指示シ自治公民トシテ遺憾ナカラシムルニ必
要ナル陶冶ヲナス

教授要諦十ヶ條

1 教授ハ孤立スルモノニアラス常ニ訓育并ニ体育ト密接ナル關係アルモノナルコトヲ忘ル
ベカラズ

2 兒童ノ實力向上ヲ主眼トスベシ

3 兒童ノ自己活動ヲ促シ自學自習ノ良習慣ヲ養成スル事ニ努力スベシ

4 兒童ノ個性ヲ尊重シソノ長所ヲ認メテ之ガ助長ヲ怠ラザルト同時ニ能力別個別的ノ取扱
ヲナスベシ

5 基本的典型的教材ヲ精選シ之レニ全力ヲ注ギ教授スベシ

6 教授ハ實質的實用的ナラザルベカラズ

7 主眼点ノ徹底ヲ期スベシ

8 反覆練習シテ記憶ヲ確實ニシ應用自在ノ域ニ至ラシムベシ

9 体験的學習ヲ尊重スベシ

10 教授終了後反省熟慮シテ將來ノ教授改善ノ資料ニ供スベシ

第二節

一、各科ノ要旨

二、各科教授主眼点

三、各科教授上ノ注意点

第三節 各科教授内容改善ニ關スル施設ト經過

第四節 學習ノ機會

第二章 訓 練

第一節 訓練ノ意義

第二節 訓練ノ主義

第三節 訓練ノ方針

第四節 訓練ノ機會

第五節 訓練ノ作用

第三章 養 護

第一節 養護ノ目的

第二節 養護ノ方法

第三節 兒童身体検査成績十ヶ年比較表并ニ對策

第四章 職 員

第一節 職員ノ修養

第三節 校務分擔

第三編 實業補習學校

第一章 沿 革 附 學 則

第二章 設 備

第四章 各科教授要目

以上各項ノ中本改善案ノ特色ト認ムベキ点ヲ拔萃シ左ニ揚グ

一、第一編第一章第五節ノ一部

第二節 學級經營

第四節 社會教育

第三章 經 費

種 目	現在設備シアルモノ	改善案 <small>(改善ヲ要スベキモノ及今後新 タニ設備スベキ必要アルモノ)</small>		
	五、物理ニ屬スルモノ A、尋四 1 熱ニヨル膨張試験器 个体、液体 2 排氣器 3 空氣鐵砲 4 浮沈説明實驗器	品 目	數量	價 格
理 科		1 体積相等シキ立方体 2 棒目寒暖計 3 体温器 4 バスカル氏水壓試験器 5 アルキメデスノ原理説明圖	一〇 一 一 一 一	二、〇〇

第二編 第一章、第三節

各科教授内容改善ニ關スル施設ト經過

大正十一年五月余ハ本學校長トシテ赴任シマシタ、同時ニ本校教育ノ改善ニツキ研究ヲ始メタノデス
ソレデ第一ニ手ヲ着ケタノハ教授内容ノ改善デアリマシタノデス、今左ニ施設ノ實際トソノ經過トヲ
載録スルコト、致シマス。

一、大正十一年六月教育改善調査會ヲ設置致シマシタ、ソシテ調査會ハ次ノヤウナ規定ノモトニ活動
致シマス

二、教育改善調査會規定

第一條 調査會ハ教育改善、進歩ヲ計ルヲ以テ目的トス

第二條 調査會員ハ全校職員ヲ以テ組織シ必要ニ應ジテハ學務委員ヲ加フル事ヲ得、凡テ學校長ヨ
リ囑託スルモノトス

第三條 調査會ハ必要ニ應ジテ開催シ諸般ノ研究調査ヲ行フ

第四條 調査會開催ノ方法ハ第一ニ調査ノ大方針ヲ討議決定シ、ソレヨリ各部ニ分レテ調査研究ヲ
遂ゲンノ結果ヲ報告シ之レニ對シテ批評討議ヲ行ヒ、然ル後之ヲ學校經營ノ實際ニ提供ス
ルモノトス

第五條 調査研究ノ方法ハ先ヅ本校教育ノ缺陷トスル所ハ何邊ニアルカヲ考察シ次ギニ缺陷ノ依ツ
テ來ル原因ヲ探究シ之ガ救濟策ヲ研究シ進ンデソノ救濟具体案ヲ立ツルモノトス

三、調査會活動ノ實際

吾人ノ教育ハ大部分各學科ノ教育教授ソノモノヲ通シテ進行スルモノデアルカラ各科ノ教授ガ充分
ニ徹底スレバ先ヅ以テ任務ノ大部分ハ遂行シ得タモノデアルト思フ、カ、ル見地ニ立ツテ昨年七月
以來第一回ノ調査ニ取リカ、ツタノデアル、而シテソノ結果ガ參考書類トシテ出品致シテアリマス
各學科ノ成績ト此ノ成績ヲ基礎トシテ成立ツタ各學科ノ教授徹底方案ナノデアリマス。

尙更ニ調査會ノ内容ヲ詳述スレバ、調査會ハ又更ニ各學科別ニ分レテ部ヲナシ教科主任ヲ以テ部長
トシ教科部員ハ直チニ之レガ部員トナルノデアル。

學校長ハ豫メ各學科ニツキテ調査要項ヲ定メテ調査會ニ提出シ調査會ハ之レヲ討議決定スルノデス
各部長ハ調査要項ニヨリ問題ヲ選定シ各學級ニ臨ミテ實際ノ調査ヲ行フ各部會ハ答案ヲ基礎トシテ
充分ニ調査シ、ソノ成績結果ヲ明カニソノ缺陷ヲ求メ、ソノ救濟策ヲ立案シ具体案ヲ作成シ調査
會ニ於テ之レヲ全職員ニ發表ス（發表會ハ發表者自身ノ自覺ヲ新タニスルノミナラズ聞クモノヲシ
テ反省ニ強烈ナル刺激ヲ與ヘ實際ニ於テハ非常ナル効果アルモノテアル）發表ニ對シテハ質問、批
評、討議ヲ行ヒ然ル後ニ學級經營ノ實際トナリテ各學級ニ配布セラレンノ實行ヲ期スルコト、ナル
ノデアル

四、實際ノ成績物及救濟具体案トシテ立案セラレタル各學科

教授徹底方案

教育改善案資料甲（自一至二三號參照）

五、大正十二年六月ヨリ七月ニカケテ調査會ハ第二回ノ調査ニ取り掛ツタ、調査ノ方法及要領ハ大体ニ於テ第一回ト同様デアアル、ソノ結果教育改善案資料乙(自一至八號)第二回各學科成績調査ニ現ハレタ通りデアツテ第一回ノ調査ニ比較スレバ可成凡テノ方面ニ向上發展シタ事ハ事實ニ證明セラレタガ、シカシ豫期ノ成績ヲ得ルニハ前途程遠キ感ガスル、コ、ニ於テ調査會ハ更ニ研究ニ一步ヲ進メ學理ト實際トノ方面ヨリ立脚シテ兒童ノ方面ニ研究ノ矢ヲ向ケタノデアアル即チ第二回ノ調査會ノ結果トシテ生レ出タモノガ學習法ノ研究デアルノデス

六、各教科學習法

修身科學習法

一、例話ニツキテ

- 1 其ノ人物ノ時代ヤ境遇(生活ノヤウス)ヲ考ヘテ見ルコト
- 2 其ノ人物ノ全人格(ソノ人ノナシタ仕事ノ全部)ヲ考ヘテ見ルコト
- 3 其ノ人物ノシタ仕事ノ中デ如何ナル点ヲ模範トスベキカ
- 4 コンナ事ヲシタ人ハ外ニマダアルカ

二、訓辭ニツキテ

- 1 コノ訓辭ニ對シ自分ノ行ハドウデアロウ
- 2 コノ訓辭ニ對シ自分ハコレカラドウスルガヨイカ

三、格言ニツキテ

- 1 コノ格言ノ行ニアテハマツタ人ハ誰タナルカ
- 2 コノ格言ニ對シ自分ノ行ハドウデアロウ
- 3 格言ハ何時モ暗記暗誦スル様ニスル

四、公民的ノ教材ニツキテ

- 1 コノヤウナ規則ハ何ンノタメニ出來タカ
立法ノ精神ヲ明カニスルコト
- 2 制度ソノモノヲ明カニ知ルコト
法律規則ヲ調べテ見ルコト

讀方學習法

第一段

- 一、讀ム事 アラマシ讀メルヤウニ
- 二、ドンナ事が書イテアルカ 短ク言ヘルヤウニ(文ノ大意)

第二段

- 一、讀ム事 ヨク讀メルヤウニ
- 二、内 容 (1) ドンナ事が書イテアルカ (2) 感ジタ事
- 三、解 釋 短イ語句ノワケ(必ず文ヲ讀ンデ調べル事)
- 四、書 取 (1) 新シク出タ文字 (2) 前ニ習ツタ文字デ似ヨツタ文字

五、文ノ出來方

ドンナ文カ

第三段

一、解 釋

長イ文ノワケ

二、内 容

(1) 主眼點ヲ見出ス (2) 中ニアル事柄ヲ調ベル

三、書 取

必要ナ難シイ漢字ト假名遣

四、文ノ中ノヨイ所ヲ見出ス事

(1) 幾ツノ段ニ分レテキルカ (2) 各段ノ主意ハドンナ事カ

五、文ノ出來方

第四段

一、普通ノ書振リト異ツテキル所

二、難語句ヲ使用シテ短文ヲ作ル事

三、文ノ出來方

各段ガドンナ様ニナツテマトマツテキルカ

四、熟 語

(1) 熟語ヲツクル事 (2) 反對ノ意味ノ熟語ヲ考ヘル事
(3) 同ジ意味デモ異ツテキル熟語ヲ考ヘル事

文ニヨツテハ作者ノ態度、男カ女カ、年齢、容貌、服装、境遇性質等ヲ考ヘテミル事

綴方ノ學習法 (四年以下)

×ホンタウノ事ヲ、アリノマ、ニ、自分ノ言葉デ書ケ

×多ク讀ミ、多ク綴リ、ヨク練レ

一、平常ノ心得

(1) アラユル所デ自分ノ觀タリ知ツタリ感ジタリシタ事ニヨク注意シテオク事

(2) 自分ヲヨク反省スル事……夜、月末、學期末、年末等……日記ヲ書クモヨイ

(3) ハツト氣ガツイタリ思ツタリシタ事ヲ書キトメテオク事

二、綴ラウトスル時

(1) 靜カニシミジミト今マデノ事ヲ考ヘテ、何ヲ書カウトカト定メル、

(2) 書カウトスル事ヲハツキリ表スニハドンナ事ヲ書ケバヨイカト考ヘル

(3) 順序ヲ定メル

三、綴ル時

(1) オチツイテ、シンミリト、書カウトスルコトヲ視ツメナガラ筆ヲトル

(2) ナルベク、ズンズン書クヤウニ

(3) 書キツマツタラ、幾度モ讀ミカヘセ

四、書キ終ヘタ時

(1) 必ズ二三回讀ミカヘセ

A ヨク人ニ分ルダラウカ……ゴタゴタシタ所ハナイカ

B 同ジ言葉ガ、カサナツテ、キナイカ

C 「、」や「。」、ハ、シツカリウツテアルカ

- D 片假名ト平假名トマヅツテキナイカ
- E ヌケタ字ハナイカ
- F 「」ノ使ヒ方ハヨイカ
- G 「キマス」ト「キル」ガマヅツテハキナイカ

綴方ノ學習法 (五年以上)

×ホンタウノ事ヲアリノマ、ニ自分ノ言葉デ書ケ
 ×多ク讀ミ、多ク綴リ、ヨク練レ

一、平常ノ心得

- (1) アラユル所デ自分ノ觀タリ知ツタリ感ジタリシタ事ニヨク注意シテオク事
- (2) 自分ヲヨク反省スル事……夜、月末、學期末、年末等ニ……日記ヲ書クモヨイ
- (3) ハツト氣ガツイタリ思ツタリシタ事ヲ書キトメテオク事

二、綴ラウトスル時

- (1) 靜カニシミジミト今マデノ事ヲ考ヘテ、何ヲ書カウカト定メル
- (2) 書カウトスル事ヲハツキリ表スニハドンナ事ヲ書ケバヨイカト考ヘル
- (3) 順序ヲ定メル

三、綴ル時

- (1) オチツイテ、シンミリト、書カウトスル事ヲ視ツメナガラ筆ヲトル

- (2) ナルベク、ズンズン書クヤウニ
- (3) 書キツマツタラ幾度モ讀ミカヘセ

四、書キ終ヘタ時

- (1) 必ず二三回讀ミカヘセ

- A 文章ノ筋ハ通ツテナルカ
- B ヨケイナ所ハナイカ
- C 足りナイ所ハナイカ
- D 同ジ言葉ガ重ツテキナイカ
- E 句調ハヨイカ
- F ヌケタ字ヤヌケタ言葉ハナイカ
- G 句讀點「、」「。」ハ落チテキナイカ
- H 文體(常體ト敬體)ハ一貫シテキルカ
- I 「」ノ使ヒ方ハヨイカ

算術學習法

- 一、問題讀解 { 問題ヲ幾度モ讀ンデ題意ヲトラヘル
 { 必要事項ヲ書キ出シテミル
 { 答ノ性質ヲ考ヘル

二、問題分類

今マデニ習ツタ事ノアル問題ト考ヘ合セテドンナ種類ノ問題カ別ケテ見ル
タトヘバ分數カ、比例カ、歩合算カ、求積カ、普通四則カ、又何種類ト何種類トガ
混合シタモノデアルカ

三、立式

算法ヲ工夫スル、若シ頭ノ中デ考ヘテ工夫ガツカナカツタ次ノ様ナ事モシテミル
實驗實測 (長サ、楯目、重サ、時間、面積)
體積、溫度、角度等ノ計器デハカル
製 作 (形態ヲ作ル)
描 圖 (圖ヲ描イテミル)

四、概 算

〔答ハ大略幾何位ニナルカ胸ノ中デ考ヘル〕

五、計 算

〔問題ノ種類ニヨツテ注意スル所ガアルカヲ氣ヲツケテ〕

六、答ノ吟味ヘヨク檢算ヲシテ題意ニ合フカドウカヲシラベル

七、問題構成

問題改作 (一問題ガ出來タラ皆サン身邊ニ起ル種々ノ事柄ヲアテハメテ(數ヲトリ
カヘタリ名數ヲトリカヘタリシテ)ミル
問題ヲ作ル(皆サンノ身邊ニ起ル平生ノ事柄ヲトラヘテ類似ノ問題ヲ作ル)

國史ノ學習法

一、戦争及事變ノ場合

- 1 時。(何時)。第何代何天皇。紀元何年。年號。時代。(ドンナ世ノ中デアルカ)
此時ニ何故ニカ、ル戦争ガ起キタカ。

- 2 場所。(何所デ)此戦争ハ何故ニ此處デ起ツタカ。

- 3 原因。遠イ原因、近イ原因、

- 4 經過。事件ニ關係ノアル人物ヲ書き出シテソノ人ト人トノ關係ヲ調べル
ソノ人々ノナシタル事柄ヲ調べル

- 5 結果。コノ戦争ノ結果世ノ中ハドウ變ハツタカ

二、人物ノ場合

- 1 時。ドンナ時代ニ生レタカ(尙必要アラバ前ノ例ニヨツテ調べヨ)

- 2 場所。生レタ所ハ何處カ(一代ノ事業ニ影響セシ所ハナイカ)

- 3 祖先ヲ考ヘル事

- 4 事 績。其人一代ノ事業。君ノ爲メ國ノ爲メニドレ程盡シテアルカ。

- 5 其人物ノ事業ハ其時代又ハ次ギノ時代ニ如何ナル影響ヲ及ボセシカ

三、文學、宗教、美術工藝等ノ場合

- 1 何時頃ワガ國ニ傳ハツテ來タカ。

- 2 今迄ニ至ル盛衰ノ有様ヲ考ヘヨ。ソシテソレガ何ノ爲メニサウデアルカヲ考ヘヨ。

- 3 文學ナリ、宗教ナリガ人ノ心ニドンナニ影響ヲ與ヘテキルカ。又ソノ現ハレタル事實ハドウカ

四、經濟方面

以上ノ事柄ヲ調べル時ニハ常ニソレガ經濟ニ影響スル所ハナイカト考ヘテ見ルヲ忘レヌヤウニ



地理ノ學習法

◇地圖ヨリ出デテ地圖ニカヘレ

一、區分

區分圖ヲ作ツテ見ヨ

二、地勢

◇地勢ヲ人體ニタトヘテ「山脈ハ骨格、平野ハ肉、川ハ血管、雨ハ滋養、交通ハ神經デアル」トイフテキルヨクソノ意味ヲ考ヘナガラ地圖ニ向ヘ。

1 山岳

山脈ノ名ハ。山脈ノ走ル方向ハ。脈中ニナントイフ山ガアルカ。山ノ高サハ。附近ニ溫泉ハナイカ。名高イ神社佛閣ハナイカ。産物ハ。

▽ソノ山脈ガソノ地方ノ交通ヤ、氣候等ニ如何ナル影響ヲ與フルカヲ考ヘ、尙又ソレ等ガソノ地方ノ文化ニ大ナル影響ヲ與フルモノナル事ヲ考ヘナガラ地圖ヲ見ヨ。

2 河川湖沼

川ノ名ハ、長サハ、廣サハ、水量ハ、流レハ(緩カ、急カ)

交通上ニ利スル所ハナイカ。水力利用ノ事業ハナイカ。沿岸ニ都會ハナイカ、

▽川ヲ中心トシテ人ノ集マルハ蟻ガ砂糖ノ所(集ルヤウナモノダ。ソノヤウナ事ヲ考ヘナガラ地圖ヲ見ツメテゴラン。

3 平野、川ト平野。廣サハ、産物ハ、

4 海岸、出入ハ、半島、灣、港、島等ノ名ハヨク暗記スルヤウニ。

平野ガ海岸マデノビテキルカ。山脈ガ海岸ニセマルカ。水陸ノ連絡ガヨイカ。港市。保養地ニ適スルカ。

三、氣候、位置(眞鍋カラ北カ、南カ、東カ、西カ)地勢ヨリ氣候ヲ考ヘテ見ヨ

四、産業、産業分布圖ヲ作レ、

コノ産業ガゴ、ニ何故ニ發達セシカヲ考ヘヨ、

五、交通、交通圖ヲ作レ

鐵道ノ名ハ、起点ハ、終点ハ、支線ハ、航路ト寄港地、

六、都邑、都邑圖ヲ作レ

此町ガ發達シタ事ニツイテヨクソノ事情ヲ考ヘテ見ヨ。

- 1 位置ガヨイカ(交通上ヨリ見テ、政治上ヨリ見テ、産業上ヨリ見テ、軍事上ヨリ見テ)
- 2 産業ハ。
- 3 遊覽地トシテ。
- 4 信仰上ヨリ見テ、
- 5 コノ都市ノ將來ハ

理科學習法 (植物科)

◇實物ヲ調べ實物ガドウシテモ得ラレナイ時ハ本ヤ參考畫デシラベル

◇實物ヲ調べ時ハナルベク其ノ生物ガ澤山生ヒテキル場所ニ行キ其ノ土地ノ様子ヲヨクミル事

◇數ヤ形ヲ調べ時ハ一ノ物デナク、多クノ物ニツイテシラベ統計シテキメル事

一、觀察 人カラ聞イタリ本デ見タ事ナドハ一切忘レテ其ノ物ヲ正直ニ調べ結果ハ正シク記入シテ

オク

一、花

(イ) 花瓣トガク、形、色、數、花ビラノツキ方

(ロ) 雄蕊ト雌蕊、數、形、色

(ハ) 其ノ他

(ニ) 花ノ排列圖ヲ描イテ特徴ヲ記憶スル事

二、果實

(イ) 成熟スルマデノ經過ヲヨクミテ記入シテオク

(ロ) 構造ヲ調べル

三、根、莖、葉ノ順ニ調べ結果ハ正シク記入シテオク事

二、考察 ナニガ、ドウシテ、ナゼカノ順序

◇調べタ結果カラ次ノ様ニ研究スル問題ヲ見ツケ出シテ考ヘル事

1 此ノ植物ト密接ナ關係ヲモツ物ガアルカ、若シアルトスレバ何故カ

2 ドンナ方法デ繁殖スルカ

◇一ノ生物ヲ調べタラ何時デモ人生トドンナ關係ガアルカヲ調べル事

1 人生ニ對シテ利益ガアルカ、人生ノ爲メニ利用スル所ハナイカ

三、分類

類似シテキル植物ヲ出來ルダケシラベテ其ノ名ヲ書き入レヨ、

理科學習法 (動物科)

◇實物ヲ調べ實物ガドウシテモ得ラレナイ時ハ本ヤ參考畫デ調べヨ

◇實物ヲ調べ時ハ其ノ生物ノ住ンデキル所ニ行キ、發生、生活ノ有様ヲ觀タリ、何故ソナ土地ヲ

好ムカラ考ヘヨ

◇數ヤ形ヲ調べ時ハ一ノ物デナク多クノモノニ就イテシラベ統計シテキメルコト

一、觀察 人カラ聞イタリ本デミタ事ナドヲ忘レテ其ノ物ヲ調べテ結果ハ正シク記入シテオクコ

ト

(1) 体、形、色、運動ノ仕方

(2) 口、目、耳、其ノ他

(3) 胸部、腹部

(4) 排列圖ヲ描イテ其ノ特徴ヲヨクオボエヨ

(5) 其ノ他調べタイ事ガアツタラ調べテ結果ハ正シク記入シテオケ
二、考察 ナニガ、ドウシテ、ナゼカノ順序

◇調べタ結果カラ研究問題ヲ見ツケ出シテ考ヘルコト

例

- (1) 何故ニコンナ体ヲモツノデアラウカ
- (2) コノ動物ガ他ノ動物ト比ベテ特ニ發達シテキル處ハドコカ、ソレハナゼカ
- (3) ドンナ方法デ繁殖スルカ
- (4) 其ノ他

◇一ツノ生物ヲ調べタラ何時デモ其ノ生物ト人間トハドンナ關係ニアルカヲ考ヘヨ

- 1 人生ニ對シテ利益ガアルカ又害ガアルカ若シアリトスレバドンナ方法デ驅除スルカ
- 2 人生ノ爲ニ利用スルトコロハナイカ

◇考ヘテワカラス時ハ質問事項トシテ記入シテオケ

三、分類

類似シタ動物ヲ出來ルタケ調べテ其ノ名ヲ記入セヨ

理科學習法 (其ノ一)

礦物科

◇實物デ調べ實物ガドウシテモナイ時ハ本ヤ參考書デ調べル

1 産出 (ドンナ所カラ出ルカ)

2 性質 (ドンナモノカ)

見テシラベルコト

形、結晶、光澤

實驗シテシラベル

硬サ(ガラス、小刀)熱シテミル、粉ノ色

3 其ノ他シラベタイコトガアレバ

◇整理 (シラベタ處ヲマトメル)

- 1 シラベタ中大切ト思フ性質ヲ書イテヨクオボエル
- 2 調べタ結果カラ研究問題ヲ見出シテ、考ヘナサイ
- 3 ワカラナイ所ハ質問シナサイ

◇種類

- 1 ドンナナカマガアルカ
 - 2 コレト同ジモノカラデキテキテ色ヤ形ノ全クチガツテキルモノガアルカ
- ◇人生トノ關係
- 1 何カ人間ニヤクタツトコロガアルカ

化學科

◇教科書ヲヨク讀ンデシラベルコト

見テシラベルコト

(1) ドンナ氣體カ(色、臭)

性質

實驗シテミルコト

(1) ソノ氣體ノ中デ物ヲ燃スコト

(2) 空氣ヨリ重イカ輕イカ

(3) 其ノ他シラベタイコトガアレバ

◇實驗觀察

1 本トシラベタ事ト同ジデシタカ

2 ワカラナイトコロハ質問シナサイ

◇整理

1 調べタ性質ノ中大切ト思フトコロヲ書イテヨクオボエル

◇人生トノ關係

1 ドンナ處ガ人間ノタメニナルカ、マタ害ニナル處ガアルカ

理科學習法 (其ノ二)

礦物科

◇實物デ調べ實物ガドウシテモナイ時ハ本ヤ參考書デ調べル

産出

◇(イ) ドンナ所カラ出ルカ (ロ) 出ル時ノヤウス (ハ) 出ル土地

成分

◇(イ) ドンナ元素カ (ロ) ドンナ元素カラ出來テキルカ

性質

(イ) 色澤、形、結晶、銹 (ロ) 硬サ、粉ノ色、重サ、延性、展性、藥品、化合

◇其ノ他シラベタイ事ガアレバ

◇整理

1 本調べタ結果カラ研究スル問題ヲ見出シテ考ヘナサイ

2 考ヘテワカラストコロハ質問スル

(1) 製錬法

(2) 合金

(3) 人生トノ關係

何ニ利用サレテキルカ

ソレハナゼデスカ

化學科

◇教科書ヲ讀ンデ調べルコト

1 産 出

ドンナ所カラ出ルカ、出ルアリサマ、産地

2 成 分

ドンナ元素カ、ドンナ元素ノ化合物カ

3 性 質

見カケノ上

形、結晶、色、臭

實驗ノ上

水ニ溶ケルカ、熱スル時ハ、燃エルカ、化合スルカ、其ノ他

4 其ノ他シラベタイ事ガアレバ

◇實驗觀察

1 本デシラベタイ事ト實際ハ同ジカ

2 考ヘテワカラヌ處ハ質問

◇整 理

1 調べタイ事ノ中大切ト思フ處ヲ書イテヨクオボエル

◇人生トノ關係

1 人間ノタメニ利益スル處ガアルカ又害ガアルカ

2 更ニ利用スル處ガナイカ

理科學習法 (其ノ三)

礦 物 科

◇實物ヲ調べ實物ガドウシテモ得ラレナイ時ハ本ヤ參考書ヲ調べヨ

1 産地ト産出状態

2 鑛石ト其ノ成分

3 合 金

4 鑛山ト製鍊法

5 鑛 床

◇實驗シテ調べルコト

1 形、結晶

2 次ノ表ヲ作レ

名	色	澤	條	痕	硬	度	割	レ	方
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

◇整 理

1 疑問ノトコロヲ質問スル

2 各鑽石ノ特徴ヲ明ニスル

◇人生トノ關係

化學科

◇實驗觀察

- 1 存在
- 2 製法
- 3 成分
- 4 性質

見カケノ上ニ色、臭、氣體カ固体カ……

實驗ノ上ニ水ニトケルカ、點火スル時

5 其ノ他……

◇整理

1 調べタコトノ中カラ研究スル問題ヲ見出シテ考ヘヨ

2 疑問ノ點ヲ質問トシテ記入シテオケ

◇人生トノ關係

注意

教科書デ調べテワカラヌ處ハ參考書デ調べル

裁縫科學習法

二、用意

- (1) 手ヲキレイニ洗ヒマセウ
- (2) 入用ノ品ヲ忘レズニ調べマセウ
- (3) スベテノ物ヲキチント置キマセウ

二、教室ニハイツテハ

- (i) 必ず運針ヲ致シマセウ
- (2) 姿勢ヲ正シクシマセウ
- (3) 工夫シテ速クキレイニ縫ヒマセウ
- (4) スベテヲ正シクシマセウ

三、オ稽古ガ終ヘタナラ

- (1) 今日ノ結果ハドウデシタカ
- (2) 後始末ヲヨクシマセウ

節約利用ヲ第一ニ、時間 裁屑 糸屑

當配ノ材數

期學三第	期學二第	期學一第	
1 腰紐クケ	1 各種ノ縫ヒ方	1 運針	尋 四
2 單衣前掛	2 糠袋	2 糸ノ結び方	尋 五
3 二ツ身單衣	3 風呂敷	3 糸ノツギ方	尋 六
4 三ツ身單衣	4 襪ノ掛ケ方	4 糸ノ留メ方	高 一
1 一ツ身單衣	1 本裁襦袢	1 一ツ身襦袢	高 二
1 一ツ身裕	2 一ツ身單衣	2 中裁襦袢	
1 女物袴	1 本裁女物單衣	3 綿布ノ繕ヒ方	
1 本裁女物裕羽織	1 四ツ身裕	2 子供帶	
	2 腹合帶	1 本裁男物單衣	
	1 一ツ身綿入一	2 本裁女物單衣	
		1 本裁女物裕	

家事科學習法

- 一、ドンナ事ヲ調ベルノカ
- 二、教科書ヤ其ノ他調ベタ事ヲ疑問ノ點ハナイカ
- 三、左ノ四項ニ叶ツテキルカ又欲ケテキル點ガアルカ

イ、衛生上(身體トノ關係)
 ロ、經濟上(時間、勞力、費用)
 ハ、作法上(交際上ノ便否)

ニ、道德上ハドウカ
 四、自分ノ家庭ノ習慣又ハコレ迄ニ見聞シタ點ト相違スル所ハナイカ、アレバ比較的何レガ優ツテキルカラ調ベル

實習上ノ心得

- 五、自分ノ家庭ニ直チニ實行ガ出來ルカ、出來ナケレバ如何ニ工夫シタラヨイカ
- 一、必要ナ品物ヲ手落ナク揃ヘマセウ
- 二、身仕度ハキリツトイタシマセウ
- 三、手ヲ洗ツテ始メマセウ
- 四、身體ノタメヲ計リマセウ
- 五、清潔整頓ヲ致シマセウ
- 六、品物ノネウチダケニ使ヒマセウ
- 七、イツモ勞力ヤ時間、費用等ヲ考ヘテシマセウ
- 八、廢物利用ヲイタシマセウ
- 九、簡單ニ生キル工夫ヲ致シマセウ

以上各科ニ亙ツテノ學習法ハ之レヲ騰寫シテ兒童各自ニ配布シテ置ク、ソシテ充分ニ學習ノ方法ヲ會得サセルコトニ勉メル、

兒童ハ各學科ニツキテソノ學習ノ方法ヲヨク了解スルニ至リ自ラ研究シ調査スルコトニナル、當分ノ中ハ兒童ノ研究資料トナリテ參考トナルモノハ教科書デアアルガ次第ニ兒童ニ適當シタ參考書ヲ購入シ兒童文庫ニ備付ケテ自由研究ノ資料ニ供スルコトスル、尙學校ノ備品ハ廊下或ハ教室ニ適當ニ分類配列シテ陳列シ置キ研究調査ノ資料ニ供スル、

家庭ニアツテハ父兄モ母姉モ兒童ノ顧問トナリ相談人トナリテ兒童ノ質問ニハ答フルコトスル、放課後ノ山野、沼澤ノ大自然ハ彼レ等ガ自由ノ研究所トシテ開放サレル教師ハ隨時隨所ニ彼レ等ノ指導者トナツテ適當ニ彼レ等ヲ啓發シ、彼レ等ノ研究心ニ油ヲ注グ、

教授時間ハ研究發表、質疑應答、ソシテ彼レ等ノ研究ノ及バザル所ハ補説スル、特ニ彼レ等ニ感情的陶冶ヲナスベキ教材ハ充分ニ教師ノ活躍ヲ要求スル、

コレニヨツテ學習法ハ眞ニ有意義ノ活動ガ出來ルノデアアル

八 北條町教育改善案拔萃

筑波郡北條尋常高等小學校

大體二 緒言

世界大戰ハ、歐米各國ノ缺陷ヲ遺憾ナク暴露シ、各國民ヲシテ從來ノ諸政策諸設備等ガ如何ニ不完全ニシテ、又如何ニ自然ニ反セルカヲ知悉セシメタ、此結果トシテ諸國民ノ意圖ハ、悉ク現状ノ改造ニ趨キ、政治ニ、實業ニ、教育ニ、舊來ノ弊風ハ、猛烈ニ打破セラレ、各國政府ハ、競ツテ新政策ヲ樹立シ、改造後ノ新世界ニ優者タランコトヲ期シ、甚ダ是レ努ムルニ至ツタノデアアル。翻ツテ我が帝國ヲ顧ミルニ、世界大戰ハ驅ツテ、一躍我ヲ三大強國ノ班ニ列セシメタ、而シナガラ是レハ主トシテ過去ニ於ケル武力ノナセル業ニ過ギナイノデアアツテ、是レヲ諸ノ文化的施設及ビ經濟的實力ニ就イテ見ル時ハ、誰カ我國ヲ世界ノ最優國ト斷ズルノ勇ガアラウ。諸種ノ統計又ハ、現状ハ餘リニ切實ニ其ノ貧弱ヲ語ツテキル。就中、國民文化向上ノ基礎タル初等教育ノ現状ニ至ツテ、不備又甚ダシク、例ヘバ、義務教育年限ニ就イテ見ルモ、歐州諸國ノ八ヶ年乃至九ヶ年ナルニ比シ、國語文字ノ學習上、最モ困難ヲ感ズル我が國ノ現状ガ、僅ニ六ヶ年ナルニ實ニ驚クニ堪エタル事實デアアル、是ニ至ツテ、教育、就中初等教育ノ改善ハ最モ緊急事タル事自明ノ理ニシテ、今更暇々スルヲ待タナイ。抑々、國家ノ隆盛ハ、決シテ少數ノ偉人ヲ以テナサル、モノデハナイ。政治、外交、實業、アラユル方面ニ於テ、實權ハ少數ノ天才家ヨリ、多數國民ノ手ニ移リツ、アル。所謂天才主義ヨリ、民衆主義ニ轉化セ

ントシ、又ハ轉化シツ、アル。此處ニ於テ、國民ノ教養ノ如何ハ、國運ノ消長ニ比例シ、國家ノ存亡ヲ支配スル大問題タラザルヲ得ナイ。是レハ、戰前ト雖モ同様トハ云ヘ、戰後殊ニ歐米各國民ニ主張セラレ、各國政府ガ猛然此事業ニ着手シタ所以デアル。此ニ於テ、吾人亦此主義ヲ指針トシ、此處ニ本町ノ地理實狀ヲ精査シ、過去ニ鑑ミ、現狀ヲ直視シ、將來ヲ思ヒ、更ニ目ヲ世界ノ大勢ニ奔セ、彼此參酌、以テ大國民養成ノ大眼目ニ猛進スヘク、本改善案ヲ作成シ、是レニヨリ、最モ本町ニ適當ナル教育施設ヲナスノ指針タラシムル所以デアル。

本改善案ヲ調査スルニ當リ、町長西尾貞一氏ハ、有益ナル助言ヲ與ヘラレ、町役場員諸氏ハ、特ニ諸種ノ材料ヲ提供セラレ、學校職員關總六、結束寬、根本政雄、谷田部謙之丞、中澤直隆、古德義光、曳野かの、寺門たま、石島つる、堀畑茂、大山本芳ノ諸氏ガ、特ニ、大正十二年四月以來、熱誠調査研究ニ從事シ、燒クガ如キ炎熱ノ夏季休業中ニモ拘ハラズ、毎夜深更ニ至ルマデ、東奔西走懸命ノ奮闘ヲ續ケラレタル事ヲ記シテ、此處ニ厚ク謝意ヲ表ス。

各事項ノ敘説ノ足ラザル所ハ、例ヘバ理論ニ走リ具休案ヲ掲ゲザル等同一事實ガ各部分ニ散在シ、各部門ニヨリ説明シタルヲ以テ、各事項ニ就イテ其ノ完テ見ントセバ、各部門ニ散在セル、其項ニ關スル部分ヲ綜合セラレタシ。

大正十二年十二月五日

筑波郡北條尋常高等小學校長 石井定吉

右ハ教育改善案發表會ニ於テ、本校ノ提出シタル教育改善案ヲ要約シテ發表シタルモノナリ。今限リアル紙數ニ於テ改善案全部ヲ到底記載スル能ハズ。サレバ此處ニハ右要項ノ順序ニ從ヘ、本調査ノ基

礎タル教育方針ト吾人ノ第一義的使命ナル小學教育ノミヲ簡約シテ記載スルコト、セリ。

◆教育改善案要項

第一編 教育方針

一、本町ノ位置 地利、生業及ビ町勢ヲ克ク考察シテ常ニ時勢ノ進運ニ後レザルノ教育施設ヲナスヲ旨トス。

二、農商工三業ノ併進發達ト移民志氣ヲ涵養セントス。

三、圖書館ヲ擴張シテ讀書趣味ヲ養成シ、智徳ヲ増進シ、各自ノ職業ニ利セシメントス。

第二編 小學教育

- 一、組織 校地ノ擴張、校舍ノ改築、校具ノ充實、學齡兒童保護ノ擴充、托兒所ノ設置、職員ノ待遇
- 二、教授 分團、体験、課外讀物、家庭課業、教授時間割、學級編制、學級擔任ト學科擔任
- 三、訓練 國民精神ノ訓練、國際的訓練、國民精神作興ニ關スル詔書ノ服膺實踐
- 四、養護 身体檢査成績ノ活用、保健日々行事、トラホーム根治、人体寄生虫ノ驅除、口腔衛生
- 五、學校ト家庭 家庭教育、環境ノ純化
- 六、教育研究

第三編 補習教育

- 一、季節教授ト通年教授ノ併設
- 二、補習學齡者ノ全就學

三、公民教育

四、實驗、實習

第四編 中等教育

一、農學校、實科女學校ノ設置

第五編 社會教育

一、各種會本領ヲ發揮セシメ互ニ協力シテ、從來ノ陋習ヲ打破シ、人道ヲ明カニシ、能率ヲ増進シ徳ト富ノ向上ヲ期ス。

第六編 實行法

教育改善委員ヲ設ケテ實行ヲ期ス。

第一編 北條町教育方針

第一章 當町發展ノ基礎

序説。人類社會ノ進歩ノ原因ハ、決シテ容易ニ云フ能ハズ。然レドモ之ヲ大別スレバ、物質的原因及ビ精神的原因ニ大別スルヲ得ベシ。由來西洋ニ於テハ、物質文明ヲ重ジ、精神之ニ從ヒタル狀ニアリ。東洋ニ於テハ、物質ヲ賤シミ、獨リ精神ニヨラントス。東西文化開ケテ此處ニ五十年、彼ハ偉大ナル科學ヲ持チ、偉大ナル資本ニヨツテ、東洋ヲ壓セントスレト、半面其文明ハ漸ク動搖セントシ極端ナル利己主義ハ、世界大戦ヲ産ミ、文化ハ百年ノ前ニモトリ、國民皆塗炭ニ苦シミ、漸ク東洋精神文化ヲ慕フニ至レリ。近時、東方精神文化ハ、續々西洋諸國ニ移植セラレ、或ハ支那古典ノ翻譯、

又漸ク盛ナリ。然ルニ、又東洋五十年ノ精神文化ハ、經濟上ノ審力ヲ鈍ラシ、東洋ノ天地ヲ、白人ノ手ニ委セラレントスルニアタリ。飄然覺醒シ、歐洲物質文化ニ傾倒シ、東洋本邦ノ精神ヲ忘ル。是社會的紛争ヲ増スノ原因ニシテ、途ニハ、現在ノ歐洲ノ亞流ヲクマンノミ。故ニ物質ニノミ偏ス可ラズ精神ニノミ依ル可ラズ、兩者各、其中ヲ執ラザレバ亡ブ、是レ一國ニ於テノミ依ル可ラズ。一町村又然リ、故ニ當町發展ノ基礎ヲ論ズルニ、經濟的、精神的ノ二方面ニ就キ、嚴密ナル調査ヲ施シ、且ツ之ヲ根據トシテ、其實現ニ對スル具体案ヲ作成シ、各編ニ於テ之ヲ論究シ、之ヲ實現セントスルモノナリ。

一、生業ニ關スル考察

本町戸數ハ、明治三十八年ニ於テハ六百七十七戸ナリシガ、大正十一年ノ調査ニ依レバ七百五十五戸トナリ、十八年間ニ百三十八戸ヲ増加シタリ。是レ時勢ノ進運ト、地利トニ依ルモ、筑波鐵道開通以來頓ニ増加シタルヲ見ル。隨ツテ生業ノ種別ニヨリ増減アルヲ免レズ、今各種ノ生業ニ就キ其狀勢ヲ概觀シ、更ニ之ガ將來ノ發展ヲ考察セントス。

1、農業 明治三十八年ニハ三百五十六戸アリシガ、大正十一年ニハ、三百三十六戸トナレリ、

(詳細ナル狀態ハ別圖ニアリ)一般戸數十八年間ニ百三十八戸ヲ増加シタルニモ關ラズ、農家戸數ハ二十戸ヲ減ジタリ。將來モ此趨勢ヲ免レザルベシ。由來北條米ノ美稱ヲ、東京市場ニ擅ニシ、他地方産ノ同等級ニ比シ、一石一圓ノ高價ヲ有スルニモ關ラズ、漸次ソノ生産者ヲ減少セントシツ、アリ。養蠶業ニ就イテ見ルモ、當地方ハ、本邦中最モ早く開ケタル所ニシテ、現在大約年産

額七千五百貫ニ達シ、然モ品質頗ル優良ナリ、我ガ國中ニ冠タリト稱セラル、此ノ豊沃ノ地ニ於テ、現在ソノ數ガ示ス如キ農業衰微ノ傾向アルハ、當町ノ將來ヲトスル上ニ、將マタ國家百年ノ大計ヲ立ツル上ニ於テ、最モ寒心スベキコトアラズ、而シテ世界大戰後、各國悉ク食糧問題ニ注目スルニ至リ、我ガ國マタ幾多社會改良家、政治家、教育家、學者等ニヨリテ幾多ノ農村振興策ヲ論議セラレツ、アリ。此等ノ論議ヲ集約スルニ、農村頹勢ノ原因トシテ大体次ノ如キヲ擧グ

イ、經濟的原因 (1)耕作地面積ノ過少 (極端ナル小農制度) (2)農家負擔ノ過重 (3)收入ノ過少

(4)勞銀ノ過大 (5)生活費ノ向上

ロ、精神的原因 (1)教育機關ノ不備 (2)娛樂機關ノ皆無 是等ノ論點ヨリ、是ガ救濟策ヲ講ゼザル可ラザルヲ以テ、經濟調査ヲ細密ニ施シ、斯道ノ大家ヲ招シ、意見ヲ徵シ、老農ト談ジテ具體的救濟ニ入ラントス。(具体案ハ各其項ニ示ス) 又精神的原因ニ至リテハ、吾人教育者ノ指導如何ニ待ツ故ニ、比較的易ク實行スルヲ得ヘシ。(救濟施設ニ就キテハ各々其項參照セラルヘシ。)

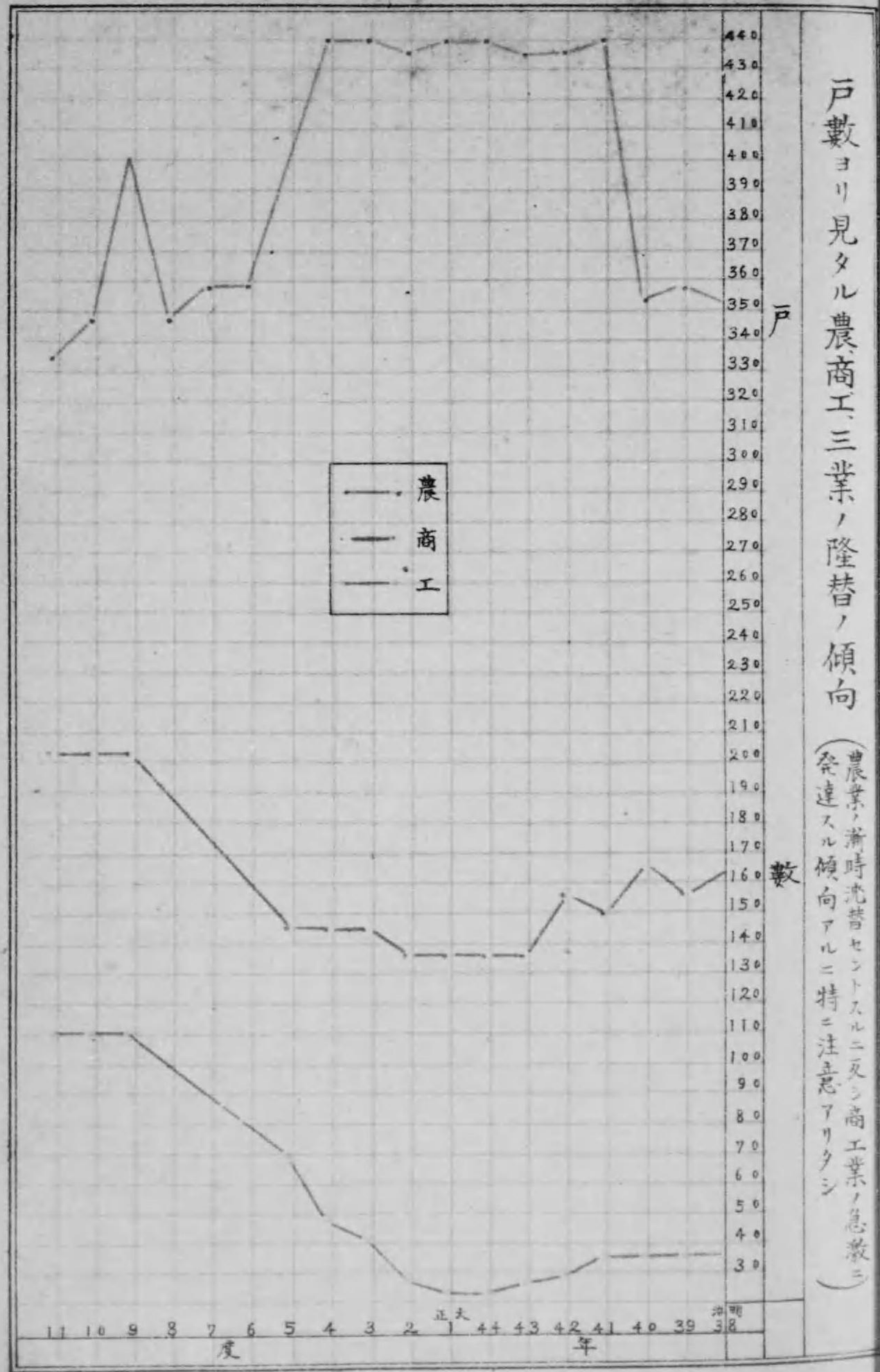
2、商業 商業ニ從事スルモノニ就キテ見ルニ、明治三十八年ニ於テハ、百六十二戸ヲ算シタリシヲ、大正十一年ニハ百七十二戸トナリ、僅ニ十戸ノ増加ニ過ギズ、然レドモ筑波鐵道ノ開通ト今後不動坂道路ノ改修完成ノ曉ハ、當町ハ筑波山以南(筑波町、田井村、田水山村、菅間村、作岡村、大穂村、小田村及ビ新治郡小櫻村ノ八町村ノ商業中心地トナリ、漸次隆昌ニ赴カントスルノ傾向アリ故ニ是等ノ中心地トシテ愧ヂザル商業上ノ諸施設、商家並ニ商家子弟ニ對スル商業道

德ノ鼓吹、及地方特産ニ係ル農工作品ニ就キテ、商家ノ義狹的進取的活躍ヲ、催告スルコトヲナス。

3、工業、工業家ハ明治三十八年ニハ三十八戸ナリシガ、大正十一年ニハ九十三戸ニ増加シ、現在ハ小規模ノモノ、ミナルモ、將來ニ於テモ又此ノ三者相關聯シテ進マザルベカラズ。今次東京市筑波町間ニ、高速度電車敷設ノ計畫アリ、開通ノ曉ニハ、ソノ影響ヲ受クルコトマタ甚大ナルモノアルヤ必セリ。カクテ交通機關ノ完成ニツレ、東京トノ時間的距離ノ増々縮少セラレ、又ハ四通八達スルニヨリ、加フルニ、名山筑波山ヲ負ヒ、近ク霞ヶ浦ヲ控フルニヨリ、是等ニ對スル各國ノ旅客商人ニ、宣傳スルノ機會ヲ利用シ、大工業ヲ起ス機運ヲ作ラン事ニツトメ、又各戸ニ特殊ノ手工業ヲ奨勵シ、是ヲ全國的ナラシムル事ニ努メントス。故ニ小學教育、補習教育ニ於テ、北條町商業組合ニ於テ、將又青年會、處女會、同窓會、北條町教育會、北條町在郷軍人分會、庚申講(戶主會)十九夜講(婦人會)等各種ノ團體ハ一團トナリ、是等ニ對スル研究及斯道專門家並ニ實際家、當町先進者ノ指導應援ニヨリ、斯業ノ進歩發展ヲ圖ランコトニ努メツ、アリ。

二、海外雄飛

現在本町農業家(殊ニ自小作農)及附近農村ニ就イテ見ルモ、統計ノ記載ヲ略ス(青年ハ他ニ出デ老人女子供ノ殘留スル傾向ノ漸次大ナルヲ見ル。是レ、農村(又ハ小サク農家)ニ生産ヲ少クシ、消費ヲ多クシ、農村ノ破滅ニ導ク最大原因ニシテ、余等之ヲ認ムルコト世ノ諸家ト同ジ。故ニ此傾向ヲ防ギ、又一方、次男、三男ハ一家ヲ持チ、或ハ自小作百姓ヲ營ムハ、現在耕作地面積過少ガ、



農村疲弊ノ一大原因ヲナセル事ヲ、更ニ此原因ヲ加フルニ至ルニヨリ、本町民中次男三男者ニシテ相當ノ素質ヲ具備スル者ハ、進ンテ海外ニ雄飛セシメントス。現ニ他郷ニ在リ、相當ノ地位ヲ占メ以テ雄飛シツ、アル者ハ左ノ如シ。

1、殖民地其他海外ニ在ル者

朝鮮	三〇人
關東洲	九人
樺太	五人
南米	一人
北米	四人

2、其他他郷(内地)ニ在ル者

第一章 小学校教育	男 五五〇人
第二章 學齡兒童保護	女 四五四人

一、校舍ノ改造 二、設備ノ充實 三、出席歩合ノ向上 四、教員ノ優遇

北條町教育會保護者會ニ依リ、學齡兒童全体ノ義務教育完了ヲ期ス。

第三章 托兒所ノ設立

學齡以前ノ兒童ノ安全ナル遊園、完全ナル教育所ヲラシメントス。

第四章 補習教育

補習學齡者全部ノ就學ヲ期シ、通年教授トス。

第五章 各種團體ノ活動

各團體協力シテ、本町ノ改善發達ヲ期ス。

第六章 圖書館ノ擴張

現城山圖書館ノ擴張ヲ期ス。(第四編第三章參照)

第七章 中等學校ノ設立

本町ニ農學校女子技藝學校ノ設立ヲ期ス。

第八章 社會改善

風教、生活ノ改善ヲ期ス。(第四編第二章參照)

第九章 經濟

本町富力ノ増進ヲ計ランガタメ、左ノ經濟機關ノ活動ヲ敏捷ナラシム。

- (1) 北條町農會
- (2) 北新信用組合
- (3) 北條町商業組合
- (4) 同業組合

北條町費教育費對照表

年度別	北條町費	教育費	町費平均額	戶數	教育費平均額
明治四十年度	三,四八三,五三〇	一,四四七,四〇〇	〇,四一〇	五,六七〇	二,三三〇

明治四十一年度	六六七五〇	一八六八五〇	〇三〇、〇	九九五〇	三〇一〇
明治四十二年度	四五〇三三〇	二二二四七〇	〇四九、四	七二八二	三五九六
明治四十三年度	六五〇三九〇	二七五二六〇	〇三五、〇	一〇四九四	三六七〇
明治四十四年度	六〇〇〇〇〇	三三八二七〇	〇三九、七	九五四	三七八一
明治四十五年度	六〇〇〇〇〇	三二八六八〇	〇四八、三	一〇四七六	五〇六三
大正二年度	六〇〇〇〇〇	三二二一〇〇	〇四九、五	九八七一	四八七六
大正三年度	六五〇〇〇〇	三〇九四〇〇	〇四七、六	一〇一四〇	四八三四
大正四年度	六七〇〇〇〇	三二七〇〇〇	〇四七、四	一三〇七七	四八八三
大正五年度	七九〇〇〇〇	二二八二二〇	〇二八、六	一一八三	四八六三
大正六年度	七六五〇〇〇	三四三九三〇	〇四四、九	一一三三三	四九六三
大正七年度	九五五〇〇〇	四二八五六〇	〇四四、七	一三五九六	六〇七九
大正八年度	一一〇〇〇〇〇	五〇六八八〇	〇四五、二	一五五九八	六〇四〇
大正九年度	一八九〇〇〇〇	八九一七〇〇	〇四七、一	二六四三四	二二四七八

大正十年度	一九〇〇〇〇〇	九六三七五〇	〇四八、三	二七五五二	一三四七三
大正十一年度	二四九〇〇〇〇	一〇四八八〇〇	〇四二、八	三四四九三	一四七七二
大正十二年度	二八九一〇〇〇	一〇七三三〇〇	〇四九、〇	二六七七〇	一四一三〇

經費 (今後九ヶ年ノ豫算案)

町費	大正三年度	二、八五、〇	全十年度	二五、〇〇〇	全十四年度	二七、〇〇〇	全十五年度	二八、〇〇〇	全十七年度	二九、〇〇〇	全十九年度	三〇、〇〇〇	全廿二年度	三〇、〇〇〇
小學校教育費	一〇、七三九	一一、七五〇	二五、七五〇	一六、五〇〇	一七、五〇〇	一八、五〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
補習校教育費	二七三	三五〇	五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	
地方改良費	四〇	四〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	
青年處女會補助	三〇	五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
學校改良積立金	一、五九九	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
義務教育費	二、六〇五	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	
北條會費	六五〇	八〇〇	八五〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	

第二編 小學教育
第一章 組織

- 一、校地 (1)位置ノ變更 (2)面積ノ擴張 (3)運動場ノ改造 (4)學校園ノ改造 (5)農業實習地ノ擴張
- 二、校舍 一部ノ改造(特別教室ノ増築)
- 三、校具 (1)理科器械標本 (2)体育機械 (2)裁縫家事手工農業諸科用具ノ充實
設備充實費

校舎改造費	教室増築費 及其他	教具費	圖書費	理科器械費	体操器械費	家事用具費	裁縫用具費
五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
	一〇、〇〇〇	四一〇	一五〇	二〇〇	二五〇	五〇	三〇
	一〇、〇〇〇	四七〇	一〇〇	二〇〇	一五〇	五〇	三〇
			一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇	三〇
		一六〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇	三〇
	五、五〇〇		三〇〇	二〇〇			三〇

四、學齡兒童 (1)貧困兒童虛弱兒童ノ救済 (2)優良兒ノ爲ニ (3)盲聾兒ノ爲ニ

尋一生活ヨリ尋六生ニ至ル入學後ノ情況調査

學年	尋一入學 兒童數		半途入學 兒童數		半途轉學 兒童數		不進級ノ 兒童數		病 死		現 在		備考
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
尋三	四九人	四四人	二人	二人	三人	二人	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	四八人	四四人	
尋四	四六人	四五人	三人	二人	二人	一人	一人	ナシ	ナシ	ナシ	四八人	四八人	
尋五	四三人	四六人	ナシ	二人	三人	六人	一人	一人	ナシ	一人	四七人	四四人	
尋六	四五人	四五人	三人	三人	四人	四人	三人	三人	三人	三人	四一人	四八人	

手工用具費	農具	其他
五〇	一〇	
五〇		
五〇	二〇	
五〇	二〇	
五〇	二〇	
五〇	二〇	

尋一		尋二	
女	男	女	男
三六八	五四八	五一八	四七八
一人	一人	一人	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
二人	二人	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	一人	ナシ	ナシ
ナシ	五六八	五二八	四七八
三九八			

尋一		尋二		尋三		尋四		尋五	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
六〇	四一	四一	四七	四九	五二	四九	四九	四一	四八
八三	六八	六一	六〇	四一	四一	四九	四九	四九	四九
六二	五二	八三	八三	六八	六二	五二	四九	四九	四九
六六	五九	六二	六二	五二	五二	四一	四一	四七	五二
七四	七四	五九	六六	六二	五九	六八	六八	六〇	四一
七七	七二	六六	七四	六二	六二	五二	五二	六二	六八
七四	七四	七二	七二	五二	五二	六二	六二	六八	六八
七四	七四	七二	七二	五二	五二	六二	六二	六二	六二
七四	七四	七二	七二	五二	五二	六二	六二	六二	六二

尋六		合計	
女	男	女	男
四六	四六	二八一	二九二
四一	四一	三〇三	三二九
四九	四九	三〇七	三五〇
四九	四九	三一七	三六七
四七	四七	三二六	三九二
六〇	六〇	三四六	四二二
八三	八三	三五二	四三六

右者大正十八年ニ至ル六ケ年間學齡兒童各學年配當豫定數ナルガ今後六ケ年間ニハ多少ノ増減アルベシ。

五、學校職員 (1) 教員ノ獎勵ト優遇 (2) 選定標準 イ、職員ノ住宅ヲ學區内ニ點在セシメテ兒童監督及青年處女其他社會教育ニ便ナラシム ロ、職員ノ向上發展ニ關スル方案
 教育ノ効率ヲ高メ、國民教養ノ實績ヲ擧ゲンガタメニハ、幾多ノ方面ニ亘リテ改善ヲ要スルモノアリト雖モ、就中小學校職員トシテ永ク向上發展シ得ル途ヲ開キ始終倦ムコトナク修養研究ヲナシ、常ニ其ノ職務ニ努力シ、衷心ヨリノ歡喜ヲ以テ生涯ヲ斯道ニ捧グルニ至ラシムルコトヲ圖ルハ、最も重要ナリ。而シテ之ガ爲ニハ、左ノ方法ニ依ルヲ要ス。
 本町小學校職員ノ休職退職ノ場合ニ於テハ、其年數ト功績トニ應ジテ本町ヨリ相當ノ慰勞金ヲ給スルノ道ヲ開クコト。

六、左記事項ニ就キ獎勵ノ法ヲ講ス。
 (1) 職員ノ成績ノ優良ナルモノ (2) 職員ノ工夫考案作製セル教具器具掛圖等ノ優良ナルモノ (3) 職員

ノ研究調査セル調査物又ハ教育意見等ノ優良ナルモノ。

第二章 教授

施設現狀

一、教授ノ方針 實力養成ヲ主眼トシ、兒童ノ向上の努力心ヲ喚起シ、優中劣各階級ノ兒童ガ各内部的慾求ニ基イテ、自由ニ發動的ニ能力本位ノ學習ガ出來、自己ノ知的生活ヲ擴張シ得ラルルニ至ラシムルヲ以テ目的方針トス。

二、各科教授法

三、教授上各種ノ施設

1 教材ノ研究調査 2 教授科目 3 教授案 4 教授法ノ研究會 5 授業參觀 6 交換教授 7 特殊指導 8 直觀施設 9 揭示教授 10 校外教授 11 修學旅行 12 見學 13 各種ノ會合 14 學校兒童文庫ト課外讀物、兒童ノ課外讀書ニ使スルタメ、學校ニ兒童文庫ヲ置キ、教師ノ指導ノモトニ館内デ一定時間兒童ニ、自由ニ讀マシメツ、アリ。圖書購入費ハ、町教育會ヨリノ補助金並ニ、有志ノ寄附金ヲ以テコレニ充テツ、アリ。ソノ主ナル寄附金ハ、大正十年九月二十六日當町出身和歌山縣內務部長法學士稻葉健之助氏ヨリ、母堂死去ノ際本校兒童文庫中へ、金壹百圓寄附セラレタルニヨリ、兒童課外讀物並ニ、青年處女讀物トシテ、大正新立志傳、偉人ノ青年時代、乃木大將、課外研究理科叢書、子供ニ聞カセル話其他數十冊ノ書籍ヲ購入シ閱覽セシメツ、アリ。又大正十二年十一月十六日本校訓導團總六氏ヨリ、母堂死去ノ際金三十圓兒童文庫中へ寄附セラレタルニヨリ、趣味ノ課

外讀本、アメリカ小學讀本、イギリス小學讀本等參拾余冊購入シ閱覽セシメツ、アリ。15 休暇中ノ指導 16 實習地ノ理科園學校園 17 成績品ニ就イテ 18 學用品ノ檢閲 19 教授力ノ調査 20 成績考査 21 能力査定 22 家庭トノ聯絡 23 家庭課業 學校デ學習シタモノヲ復習筆記シテ把住ヲ確實ニシ、又學校課業ノ豫習ヲナシ、且獨立シテ自習スル習慣ヲ養フコトヲ目的トス。兒童ノ家庭課業モ亦年齡學年ニ應ジテ、其ノ時間ニ長短ヲ置ク必要アリト考へ、學校ニテ示シタル大体ノ標準左ノ如シ。

第一學年 三十分、第二學年 三十分、第三學年 一時間内外、第四學年 一時間内外、第五學年 一時間半、第六學年 一時間半、高等科 二時間、早朝、歸宅後又ハ入浴後等ニ勉強セシム。復習スベキ教科、算術、國語、圖畫、習字、理科、24 爲スコトニヨツテ學バシメル 25 高學年ノ學科擔任制、小學校ニ於ケル學科擔任制ノ採用ニ就キテハ、世論未ダ一定セズト雖モ、現狀ヨリ考察スル時、高學年ニ於テハ、是非此制度ヲ採用スベシト思惟ス。然レドモ、コノ制度ニ各々、長短アリ。故ニ我校ニ於テハ、先ヅ高等科第三學年ニ之ヲ適用加味シツ、アリ。而シテ、教授、訓練等學級全体ニ關スル責任ハ、一人ノ主任教師ニ委ネ、少クトモ基本的教科ハ當該主任ノ受持トセリ。26 教材ノ相關 27 持上リ法

改善案

一、修身科教授改善案、徳目注入のナ教授、實行ヲ背景トセザル、口先ノ修身教授ハヤメタシ、教師自身ノ修養シ、體驗シタルコトニヨリ、教師ト兒童トノ人格ノ接觸交渉ナラザルベカラズ。

二、算術教授改善案、改革スベキ諸点左ノ如シ。

1 事實問題カラ形式算ニ 2 校外教授ヲナスコト 3 實驗的教法ヲ加ヘルコト 4 教授ハ具体カラ抽象ニ 5 代數的取扱ヲモナスコト 6 グラフ教授ノ加味 7 空間的教授ヲ系統的ニナスコト 8 兒童ニ問題構成ヲ課スコト

三、國語教授改善案、兒童ノ能力個性ニ適應シタ方法ヲ取り、兒童ヲシテ如何ニ學バシメンカトイフ

兒童中心主義、所謂兒童自身ニ目的ヲ立テ學習セシメ其方法解決ノ仕方等ニツキ指導ヲ與ヘントス
四、歴史教授改善案、唯事實ヲ傳ヘルノミノ歴史教授ニ止ラズ我國體ニ立脚シタル教授タラシメタシ又本科ハ情操陶冶ノ重要ナ教科故、美的感情、宗教的感情、道德的感情、靈的感情ノ旺盛シタル教授ヲ高唱シタシ。且、又今日ノ日本ハ世界的ノ日本人ヲ要求スル故、高等科ニハ世界歴史ノ大要ヲ授ケタシ。

五、理科教授改善案、1 小學校理科教育ガ第四學年ヨリ始メテ行ハル、ガ、兒童ハ既ニ入學以前ヨリ

自然物、自然現象ヲ伴侶トシテ、觀察シ、思考シツ、アル故、小學校ニテモ低學年ヨリ自然科ヲ設ケタシ。2 實物標本、又實驗用具ハ、可成多數設備シ、兒童各自ガ自由ニ觀察シ、實驗シ得ル如クシタシ 3 理科室ヲ設置シタシ

六、地理教授改善案、1 地理教授ニ於テハ郷土ニ出發点ヲ求メ、又郷土ニ歸着点ヲ求メツ、教授シテ行キタシ。2 生キタ地理教授ヲナサンニハ、到ル處足跡ヲ印スルコトハ理想ナレド、コレハ到底不可能故、セメテ直觀方便物ヲ多量蒐集シタシ。3 地圖ノ讀解力養成 4 自學自習ノ態度養成ニ最モヨ

イ學科故、參考書、其他ノ教便物ヲ與ヘ、十分自學自習ノ習慣ヲ養成シタシ。

七、手工教授ニ就イテ、輒近歐洲ニ於テハ經驗的知識ト、生産的技術トヲ重ンジ、從來ノ靜肅ナ學習

課業ニ代フルニ諸種ノ能動的作業ヲ以テ學校教育ノ中心トシ、社會文化ノタメニ貢獻スル人物ヲ養成スベシトスル、勤勞教育論ガ盛ニ唱導セラル、ニ至リ、益々本科ヲ重視スル傾向ヲ生ゼリ、思フニ我國ノ發展ハ、將來工業ノ進歩ニ俟ツ事情頗ル多ク、本科ハ圖書科ト相俟ツテ、小學校教科中重要ナ地位ヲ占メルモノトセザルベカラズ。カ、ル見地ヨリシテ、將來本校ニテモ校舍改築ヲ期トシ手工教室ヲ特設シ以テ本科ヲ加設セントス。

八、自然科ニ就イテ

九、メートル法度量衡ノ普及法、大正十年四月法律第七十一號ヲ以テ我國ノ度量衡ヲ「メートル法」ニ改正セラレタリ、コレ實ニ度量衡ノ一大革新ニシテ、愈々我國ノ世界的トナレルヲ、喜ブトモニ此ノ改新ノ困難ニシテ短日月ニ其ノ目的ヘ到達ノ不可能ヲ思ヒ吾々小學校教師ノ責任尙一層重キヲ加ヘタルコトヲ感ズ、故ニ目的ヲ永遠ニ置イテ、着々改革ノ歩ヲ進メントス、其ノ普及法トシテハ、1 小學校ニ於テメートル法ノ觀念ヲ打チ込ムコト。イ、メートル法度量衡各學年配當表、ロ、用器ノ設備、2 メートル法ノ豫備訓練、イ、メートル法ニ關スル講演會開催。ロ、計量展覽會ハ、メートル法ニ據ル衣服裁縫講習會開催。

一〇、時間割、從來授業時間割表ガ器械的ニ、因襲的ニ作製セラレタルコトハ、學校教育ニ於テ甚ダ忌ムベキコトデアル。思フニ兒童ノ個性、並ニ能力ヲ尊重セラル、今日生理學及教育學上ヨリ考慮

シタル。經濟的衛生的ナ時間割表ノ作ラル、コトハ、目下ノ急務デアル。
左ニ其ノ例ヲ示サン。

(1) 春秋期

分卅=分廿	究研習自
分五十	憩 休
分 十	會 朝
分十五	時 一 第
分 十	憩 休
分十五	時 二 第
分 十	憩 休
分五十四	時 三 第
分 十	憩 休
分十四	時 四 第
分五	憩 休
分十四	動運食晝
分 十	備 準
分五十四	時 四 第
分五十	憩 休
分五十四	時 五 第
分十二	業 作

(2) 冬 期

分卅=分廿	究研習自
分五十	憩 休
分 十	會 朝
分十五	時 一 第
分 十	憩 休
分十五	時 二 第
分 十	憩 休
分五十四	時 三 第
分五	憩 休
分十四	動運食晝
分 十	備 準
分五十四	時 四 第
分五十	憩 休
分五十四	時 五 第
分十二	業 作

(3) 夏 期

分卅=分廿	究研習自
分五十	憩 休
分 十	會 朝
分十五	時 一 第
分 十	憩 休
分五十四	時 二 第
分 十	憩 休
分五十四	時 三 第
分五十	憩 休
分十四	時 四 第
分五十	憩 休
分十四	時 五 第
分十二	業 作

一、分團、一分團式教育ノ特色 イ、兒童ヲシテ、常ニ目的アル學習ヲナサシメンガ爲ニ、學習ノ動機ト學習ノ過程トヲ重視スル点。ロ、現今ノ劃一教育ヲ脱シタル点。ハ、知能ノ傳達ト共ニ學習法ノ訓練ヲ重視シ、兒童ノ發達段階ニ應ジテ教法、發展法、獨立研究法ノ三段階ヲ定メ、論理的ニ研究セシメテ創作的能力ノ發展ヲ企圖シタル点。ニ分團式教育ヲ施スタメノ吾人ノ立脚点。

イ、自爲力、ロ、筋肉活動、ハ、兒童ノ努力、三我校ノ現在實施方法、イ、各分團優中劣ノ兒童六人ヲ一組トシ一分團トナス。ロ、分團長指導ノ位置ニ立チ劣等兒ヲ導ク。ハ、分團研究ノ場合ト一齊教授ノ場合トヲ區別シ、分團毎ニ机ヲ一組トシテ自由探究ス。ニ、作業ハ各分團責任ヲ以テコレニ當ル。ホ、成績向上、教授參考資料トスルタメ考查ヲ行フ。

第三章 管 理

施設現狀、諸規定略ス。

改善案

- 一、就學出席督勵法、1 法令上執ルベキ手段 2 督勵區域ノ分擔 3 就學勵行規約ノ設定 4 警察トノ協力 5 子守ノ儘ノ出席
- 二、學級編制、1 能力別 2 補助學級
- 三、設備改修、1 湯呑所 2 洗面所 3 洗足所
- 四、教授用具、1 塗板綠色トス 3 揭示板

第四章 訓練

施設現狀

- 一、訓練ノ方針
- 二、訓練要綱

- 1、一般的訓練。イ、全校訓練、一、教育勸語及ビ詔書ノ取扱 二、校訓 三、訓練要目 四、通學分團 五、兒童心得
- 六、朝會 七、合同訓話 八、合同体操 九、鎮守参拜 十、儀式
- ロ、學級訓練 一、學級訓 二、訓練要目實踐指導 三、反省會 四、教室內兒童動作 五、晝食
- ハ、個人訓練 一、個性觀察 二、檢閱 三、賞罰 四、學用品取扱 五、看護監督 六、貯金
- 2、特殊的訓練。イ、作法的訓練 一、敬禮 二、容儀 三、方言矯正 四、弔慰 五、遺失品ニツイテ
- ロ、作業的訓練 一、教室整理 二、掃除 三、教室當番 四、兒童看護當番 五、學校園
- ハ、自治的訓練 一、學校自治會 二、學級自治會 三、級長會 四、部長會
- ニ、其他 一、模範日 二、衛生日

三、訓練上注意スベキ諸機會、及ビ家庭トノ連絡。

- 一、學藝會 二、運動會 三、父兄懇話會 四、母誼會 五、展覽會 六、遠足會 七、修學旅行 八、一坪農藝品評會 九、同窓會 十、卒業生會 十一、家庭訪問 十二、兒童手帖

改善案

- 一、國民的訓練ヲナスコト。
- 二、國際的訓練ヲナスコト。
- 三、奉公的訓練ヲナスコト。
- 四、正確ノ訓練ヲナスコト。
- 五、唱歌科ト連絡シテ、訓育上並ビニ社會矯風上ノ一大勢力ヲ作ルコト。
 - 一、校歌ヲ作成シ、本校ノ精神ノ藝術的表現ヲナス。
 - 二、全校兒童ノ合唱會、イ、一學年度内ニ全校兒童ニ共通シタル、同一歌詞ヲ五六授ケル、ロ、休日、歸校ノ後、家庭ニアル時、同一唱歌ニヨリ長幼相親ノ實ヲ舉クル。ハ、コノ風一般ニ及ンデ野卑ナル俗歌ヲ驅逐スル。
- 五、特別兒童ノ取扱、1、善良兒童ノ利用 2、不良兒童ノ取扱
- 六、御眞影ニ對シ奉リテノ心得。
 - 1、奉安所、大正十一年學制發布五十年記念トシテ、其建立ヲ決議シ、兒童ヨリモ各々、奉仕的ノ意味ヲ以テ、金圓ヲ建設費中へ寄附シ、大年十二年八月ソノ落成ヲ見タリ。

- 2、每朝會ニアタリ、全校一齊ニ、奉安所ニ向ツテ最敬禮ヲ行フ。
- 3、歸校ノ際、學級毎又ハ、個人ニテ最敬禮ヲ行フ。

七、大詔奉體實行案。

- 1、各兒童ニ印刷物ヲ、所持セシム。
- 2、國語、修身、歴史ノ諸科ニ於テ、之ガ教授ヲ行フ。
- 3、毎月一日、早朝鎮守參拜境内掃除。
- 4、毎月十日始業前、各學級ニ於テ誦讀。
- 5、作業時ニ於テ、自助獨立、自治、犧牲奉公、隣保共助、社會共存、勤儉力行ヲ自覺セシム。
- 6、体操科ニ於テ身體鍛練体位ノ向上、元氣ノ振作ニカム。
- 八、日々訓練行事、各學級、訓練ノ爲日日行事ヲ定メ、之ガ勵行ヲナス。

- 尋五月 清潔デー 火整頓デー 水美化デー 木整理デー 金學級會 土反省デー
- 尋六月 月整頓デー 火靜肅デー 水勤勉デー 木運動デー 金研究デー 土美化デー
- 高三 月研究反省 火帳簿雜記帳檢閱 水工夫工作 木運動日 金學級自治會 土清潔整頓美化

環境ノ純化

兒童ノ環境ニハ生キタル人間社會ト、死シタル物質界トノ二通リアル、其ノ人就イテモ物ニツイテモ環境ノ範圍ハ頗ル廣イ、而シテ家庭ト此ノ環境トノ間ニハ、劃然タル限界ガナイノデアル、即チ家

庭ト環境トノ間ハ、頗ル漸進的ニ移リ變ツテ行クノデアル。又天空ヤ庭園ヤ野原ヤ市街廣小路等モ、親シク兒童ヲ感化スル事偉大ナルモノデアル、家庭ヲ知識ノ寶庫トスルト云フ點モ、大イニ考ヘネバナラヌ、室内ノ額ヤ裝飾品等ハ總テ兒童ヲ感化スルモノデアル、家庭ノ教育習慣程兒童青年ヲ強ク刺戟スルモノハナイ、美育ノ環境ニ就イテハ、主ナルモノハ、繪本又音樂デアル、兒童ハ直觀ニハ熱烈ナル執着心ヲモツテキル、父兄モ先天的ニ非教育的繪本ヲ兒童ニ見セテハ、ナラヌトイフコトヲ知ツテキル、夫レ又ニ教育的繪本ハ有効ナモノデアル、美シキ詩歌ガ如何ニ兒童ヲ感化スルカ何人モ認ムルモノデアル、故ニ本校ハ常ニ兒童ニヨリヨキ環境ヲ與フベク腐心シテキル。

第五章 養護

施設現狀

- 一、方針、身体ノ均齊發育上ノ障害充分豫防シ、兒童体力ノ増進ヲ圖リ、剛毅ナル精神ヲ涵養スル。
- 二、方法、1、消極的養護施設 イ、校舍及教室ノ設備 一、通風 二、採光 三、採暖 四、其他 ロ、清潔法 一、日常清潔法 二、定期清潔法
- ハ、學習上ノ衛生 一、學習時ト休憩時 二、時間表ト學科配當 三、姿勢ト机腰掛ノ留意 四、各學科教授上ノ衛生。
- ニ、疾病ニ關スル施設 一、トラホームニ就イテノ施設 二、救急療法ノ設備 三、養護及看護當番 四、校外監督當番
- ホ、一般衛生施設 一、校醫視察 二、身体檢査統計表活用 三、服裝ニ關スル注意 四、運動具、玩具ノ檢査 五、清潔檢査
- 2、積極的養護施設 イ、体操科 一、教師ノ研究及職員体操 二、職員、兒童ノ服裝 三、運動具。
- ロ、体育施設 一、細目ヲ定メ月曜日ノ短時間ノ体操 二、朝會ノ際ノ呼吸運動 三、大、小運動會 四、距離標準ソノ他ヲ考慮シタル遠足會 五、登山 六、家庭体操ノ獎勵 七、林間聚落。

改善案

- 一、衛生方面 1、缺陷兒童ノ取扱 イ、ヘルニヤ ロ、テンカン ハ、陰性結核 ニ、其他
- 2、入學兒童豫備検査ヲナス事 イ、第一回ヨリ第二回迄三箇月間、治療期ヲ置ク ロ、第二回検査ノ際新人兒童ノ父兄ト懇談、學校醫ノ注意、缺陷兒童取扱簿ノ記入ヲナス。
- 3、腰掛及机ノ改善及配當ニ注意、各兒童下腿ノ長サヲ基礎トシタル腰掛、及机ヲ配當ス。
- 4、眼疾ニツキ一層注意ヲナス。
 - イ、トラホーム豫防ノ勵行、及消毒液ノ設備根治ノ方法實行。
 - ロ、近眼豫防勵行、1文字 2姿勢 3暗所ニ於ケル讀書ヲサケル休息。
- 5、口腔ノ衛生
 - イ、衛生デーニ於テ、口腔ノ検査ヲ加ヘ一般兒童ヲシテ齒牙ノ清潔ニ注意セシム。
 - ロ、食後、就床前含嗽ヲスルコト。
- 6、人体寄生虫驅除
 - 校醫及ビ保護者ト協力シ徹底的ニ驅除法ヲ實行セントス。
- 7、湯吞所ノ設置
- 8、腹式呼吸法獎勵
- 9、林間學校設置、一、光線ト空氣供給 二、適當ナル運動 三、學課ノ輕減 四、適當ナル場所ヲ選定シ三週間以内之ヲ行フ 五、設備器具ノ用意。

- 二、体育方面 1砂場ノ改造 2肋木一部修繕 3バツクノ増加 4平均臺ノ増加 5遠足會ノ勵行 6家庭体操獎勵。
- 三、身体検査成績ノ活用。
 - 尋一ヨリ逐年身体検査表(グラフ)ニ記入シテ揭示シ体位向上ヲ自覺セシム。
- 四、印刷物ノ配布。1保健毎日行事 2トラホーム豫防心得 3夏季冬季休業中ノ心得 4家庭体操ノ方法。

兒童身長平均累年比較表

年度	七歳	八歳	九歳	十歳	十一歳	十二歳	十三歳	十四歳	十五歳
標準身長	三、五二	三、六七	三、八二	三、九七	四、一二	四、二五	四、三二	四、四〇	四、五三
大正元年	三、五〇	三、六五	三、八〇	三、九五	四、一〇	四、二四	四、三二	四、四〇	四、五三
大正二年	三、五〇	三、六五	三、八〇	三、九五	四、一〇	四、二四	四、三二	四、四〇	四、五三
大正三年	三、五二	三、六七	三、八二	三、九七	四、一二	四、二五	四、三二	四、四〇	四、五三
大正四年	三、五二	三、六七	三、八二	三、九七	四、一二	四、二五	四、三二	四、四〇	四、五三
大正五年	三、五二	三、六七	三、八二	三、九七	四、一二	四、二五	四、三二	四、四〇	四、五三
大正六年	三、五二	三、六七	三、八二	三、九七	四、一二	四、二五	四、三二	四、四〇	四、五三

年 度	標準胸圍		大正五年		大正六年		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年		大正十二年	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
七 歲	一、七五	一、八二	四、六四	四、七五	四、五八	四、六二	四、五九	四、六三	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四	四、六四
八 歲	一、八三	一、九一	五、〇五	五、一六	四、八六	四、九〇	四、九四	四、九八	五、〇二	五、〇六	五、一〇	五、一四	五、一八	五、二二	五、二六	五、三〇	五、三四	五、三八
九 歲	一、八九	一、九七	六、〇五	六、一六	五、八六	五、九〇	五、九四	五、九八	六、〇二	六、〇六	六、一〇	六、一四	六、一八	六、二二	六、二六	六、三〇	六、三四	六、三八
十 歲	一、九五	二、〇三	六、四一	六、五二	六、二二	六、二六	六、三〇	六、三四	六、三八	六、四二	六、四六	六、五〇	六、五四	六、五八	六、六二	六、六六	六、七〇	六、七四
十一 歲	二、〇三	二、一〇	六、七九	六、九〇	六、六〇	六、六四	六、六八	六、七二	六、七六	六、八〇	六、八四	六、八八	六、九二	六、九六	七、〇〇	七、〇四	七、〇八	七、一二
十二 歲	二、〇八	二、一五	七、二二	七、三三	七、〇二	七、〇六	七、一〇	七、一四	七、一八	七、二二	七、二六	七、三〇	七、三四	七、三八	七、四二	七、四六	七、五〇	七、五四
十三 歲	二、一四	二、二一	七、八八	八、〇〇	七、六八	七、七二	七、七六	七、八〇	七、八四	七、八八	七、九二	七、九六	八、〇〇	八、〇四	八、〇八	八、一二	八、一六	八、二〇
十四 歲	二、二二	二、二九	八、五七	八、七〇	八、四〇	八、四四	八、四八	八、五二	八、五六	八、六〇	八、六四	八、六八	八、七二	八、七六	八、八〇	八、八四	八、八八	八、九二
十五 歲	二、二八	二、三五	九、〇五	九、一八	八、七八	八、八二	八、八六	八、九〇	八、九四	八、九八	九、〇二	九、〇六	九、一〇	九、一四	九、一八	九、二二	九、二六	九、三〇

年 度	標準體重		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年		大正十二年		大正十三年		大正十四年		大正十五年	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
七 歲	四、五〇	四、六〇	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八	三、五〇	三、五八
八 歲	四、九〇	五、〇〇	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九	三、七二	三、七九
九 歲	五、三〇	五、四〇	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八	三、九一	三、九八
十 歲	五、七〇	五、八〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇	四、一三	四、二〇
十一 歲	六、一〇	六、二〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇	四、三三	四、四〇
十二 歲	六、五〇	六、六〇	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二	四、五五	四、六二
十三 歲	七、〇〇	七、一〇	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六	四、七九	四、八六
十四 歲	七、四〇	七、五〇	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八	四、九一	四、九八
十五 歲	七、八〇	七、九〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇	五、〇三	五、一〇

- 二、實習地ノ種類。桑園。一五坪。蔬菜園二〇坪。普通作物園一七五坪。水田一五〇坪。合計三百六十坪。
- 三、實習指導。教科トノ聯絡。觀察。趣味養成。教師率先。農具使用上ノ注意。作業ニ忠實。家庭實習。實習帳ノ記入。
- 四、農具ト服裝。學校園經營ト聯絡ヲハカル。

改善案

- 一、實習地設置 1 肥沃ナル土質 2 學校ニ近キ所 3 多人數ノ目ニフル、所。
- 二、區分、一、普通作物栽培地 二、水田 三、練習區 四、見本園 五、果樹園 六、實驗區 七、菜園。

- 三、實習課程、課程表作成ニヨル。
- 四、實習用具ノ増加。
- 五、實習獎勵法實行、一、趣味多キ作物 二、花卉栽培 三、試食會 四、動物飼育。
- 六、服裝ノ改良。

第八章 學藝會

施設現狀

學藝會ノ現狀。

- 一、目的、平素教養シ來ツタ知識及技能ヲ衆人ノ前ニ發表セシメテ、一ハ獎勵ニ資シ、一ハ教師修養上ノ參考ニ資シ、合セテ會合的訓練ヲナス、家庭トノ聯絡ヲ圖ル。
- 二、學藝會ノ種類 イ、全校學藝會 ロ、學校學藝會 ハ、學年學藝會 ニ、性別學藝會 ホ、優秀別學藝會 ヘ、發達別學藝會

ト、部落別學藝會

- 三、學藝會ノ價值觀 イ、發表ニ慣レシム ロ、合同的訓練ヲナス ハ、趣味ノ涵養 ニ、教師ノ反省 ホ、學校家庭ノ連絡
- 四、本校方針 イ、質實清楚 ロ、平素發表 ハ、發表正確 ニ、純正快活 ホ、公平平等。
- 五、材料選擇ノ標準 イ、發達程度考慮 ロ、性及能力ニ適合 ハ、特殊ノ教科ニ偏セズ ニ、演技趣旨ノ明確 ホ、高尙ニシテ興味アリ、價值アルモノ及兒童ノ工夫ニヨルモノ。
- 六、學藝會準備 イ、期日ト會場 ロ、役員決定 ハ、演技番組ノ調製。
- 七、學藝會實施 イ、入場 ロ、開會 ハ、演技 ニ、成績品ノ提出 ホ、演技中ノ衛生 ヘ、休憩 ト、職員ノ演技 チ、閉會
- リ、解散 ヌ、整理 A 各係批評會 B 合同批評會 C 成績ノ發表 D 記錄。

改善案

- 一、隣校ト聯合シテ開ク事。
- 二、毎學期一回學校學藝會ヲ開クコト。
- 三、一學期間必ズ一回學級學藝會ヲ開クコト。
- 四、方法ハ現狀施設ニヨル。

第九章 成績品展覽會

施設現狀

- 一、我校ニ於ケル成績品展覽會ノ現狀。明治三十二年二月第一回ヲ開キ、大正十二年六月第二十七回ヲ開ク。
- 二、創立趣旨
- 三、會誌

改善案

- 一、出陳スル成績品ハ全教科ニ亘ルコト。
- 一、算術科、考查答案、算術學習帳圖表等、國語科イ、讀方、讀方考查答案、讀方學習帳、ロ、綴リ方、作文童謡等、他ニ草稿帳、ハ、書キ方、平素ノ成績綴、
- 二、歴史科、歴史學習帳、年代表自由研究、三、地理科、地理學習帳、地圖自由研究、四、理科、理科學習帳、實驗日誌、自由研究、五、手工科、平素ノ成績物、六、圖畫科、平素ノ成績物、七、裁縫科、平素ノ成績物、
- 二、賞品ハ之ヲ與ヘズ其ノ名譽ヲ表彰ス。

第十章 運動會

施設現狀

一、我校ニ於ケル運動會ノ現狀。一、運動會記録。二、プログラム一覽表。

改善案

- 一、大体ニ於テ現在施行ノモノヲ助長スル事。
- 二、賞品ハ之ヲ全廢シテ優勝旗ニ變ヘルコト。1 全校兒童ヲ總テ紅白二組トシテ演技ヲ行ハシムルコト、2 優勝旗ノ調製

第十一章 父兄母姉懇話會

施設現狀

一、創立趣旨 明治三十二年二月第一回ヲ開キ大正十二年二月第二十五回ヲ開ク。

二、會誌

改善案

- 一、懇話會ハ左ノ三種ニ區別シテ行フコト。
- 1、學校懇話會、年一回以上行フ事。
- 2、學級懇話會、各學級ニ於テ毎學期行フ。
- 3、部落懇話會、十九夜講等ノフル場合其ノ部落ニテ行フ。

第十二章 童謡教育ノ實際

一、童謡ヲ取り入ル、マデ、童謡ノ意義、童謡ノ本質、童謡物與ノ根源、童謡ト子供ノ本質、童謡ノ教育的位置。

二、童謡教育ノ實際、童謡指導系統案、實際指導例、「ポブラ」發刊。

三、兒童作品

第十三章 卒業生指導

一、職業選擇指導

生徒學校ヲ卒業スルヤ何等職業ニ對スル知識ナキト、自己ノ適不適トヲ考察スル事ナキ弊風ヲ革メ職業選擇ニ對スル助言ヲ與フ、是ガ基本材料トシテ在學時代ノ學業成績簿、個性調査簿、操行査定簿其他參考トナルベキ材料ヲ蒐集シ又職業指導簿ヲ作成シテ備付ヲナス。

- 二、職業ニ關スル各種講習會ノ開設。
各種職業ノ改善發展ヲ期スル爲、延イテハ、地方産業ノ開發ニ資スル爲各種ノ講習會ヲ開ク。
- 三、實地指導
實際ニ臨ミテ機械運轉器具ヲ使用シ實際上ノ技能ヲ與フ。
- 四、競 技 會
技術ノ進歩程度ヲ競争スルタメニ開催シ、其技術ノ優秀又平常ニ於ケル狀況等ヲ參酌シテ等級ヲ定メ、賞品ヲ與フ、藁細工競技、珠算競技、工藝品ノ製作、各種學科ノ競技、
- 五、新職業ノ獎勵、副業紹介、
- 六、北條學生會、専ラ中等學校以上ノ學生ヲ以テ組織ス。

九、小學校教育改善案

結城郡西豐田尋常高等小學校長 木村左門

目 次

- 第一章 沿革 第一節 沿革史 第二節 歷代校長ト學校
- 第二章 校舍沿革並ニ校勢概覽
 - 一、校舍沿革 二、學事一覽 三、村人口ト就學歩合 四、就學兒童增加率 五、出席歩合年度比較
 - 六、修學並ニ出席ノ狀況 七、村費ノ年度比較 八、教育費ノ村費ニ對スル歩合 九、自發的寄附年度別一覽 十、受賞者十ヶ年ノ比較 十一、青年指導ノ經過一覽 十二、諸會合增加一覽 十三、小學校每月行事一覽
- 第三章 內容改善ノ真髓
 - 第一節 緒言 第二節 學校職員
 - 一、小學校長 二、職員 三、教師ノ職務及ビ服務 四、本校職員ノ服務心得
 - 第三節 校長ト職員 第四節 敷地並ニ校舍
 - 一、校地並ニ桓根利用 二、新築校舍略圖 三、敷地並ニ校舍ノ概要

- 第五節 教授用具並ニ其他ノ設備
- 一、概要 二、教育費ノ村費ニ對スル歩合 三、寄附行爲ノ主ナルモノ
- 第六節 校長並ニ役場吏員ト學校職員 第七節 村民……(信念、施設)
- 第八節 各種團體ト小學校 第九節 兒童
- 第十節 學校施設ノ徹底方案 第十一節 小學校長ト學務委員ノ提携
- 一、提携ノ要諦 二、小學校長ト學務委員 三、學務委員ノ職責
- 第四章 勸語趣旨徹底ニ關スル施設
- 第一節 學校ニ於ケル施設 第二節 村ニ於ケル施設
- 第三節 國民精神作興ニ關スル大詔趣旨徹底ニ關スル我校ノ方針並ニ施設
- 第五章 校務分掌
- 第一節 總 則 第二節 學級担任 第三節 教務係 第四節 庶務係 第五節 統計係
- 第六節 器具器械係 第七節 圖書係 第八節 記錄係 第九節 衛生係 第十節 貯金係
- 第十一節 攻玉會係 第十二節 責善會並ニ同窓會ニ關スル事務 第十三節 運動係
- 第十四節 風紀係 第十五節 大字兒童取締規程 第十六節 臨時偶發事項ニ關スル事務
- 第十七節 兒童看護當番並ニ揭示係 第十八節 參觀人ノ應接 第十九節 入退學取扱事務
- 第二十節 出席獎勵
- 第六章 日直ト宿直 一、御眞影奉護規程 當番職員ノ心得

第七章 日誌並ニ記錄……日誌ノ種類並ニ記述内容

第八章 職員會議

- 一、校長ノ教育上ノ意見示達 二、會議定日 三、會議事項
- 四、會議事項ノ處理 五、會議ニ對スル職員ノ心得 六、記錄

第九章 研究會

- 一、研究會定日 二、批評會 三、記錄 四、五、教授者ノ心得

第十章 他學級並ニ他校參觀

第十一章 教授

- 第一節 教則研究 一、一般的研究 二、時代的研究 三、地方的研究
- 第二節 教授ノ方針 第三節 教授上ノ施設 第四節 各科教授上ノ注意
- 第五節 教授時間割 第六節 成績考查 第七節 劣等兒取扱方針
- 第八節 優等兒取扱方針 第九節 學業獎勵法 第十節 優劣兒ニ對スル教師ノ信條
- 第十一節 長期休業中ノ兒童取扱 第十二節 參觀ノ心得
- 第十三節 研究教授並ニ研究事項打合會 第十四節 教材ノ研究 第十五節 教法ノ研究
- 第十六節 教授細目並ニ改善案 第十七節 教授後ノ整理
- 第十二章 訓練
- 第一節 訓練ノ方針 第二節 訓練要目ノ大要 第三節 訓練要錄

- 第四節 兒童操行錄規程 第五節 個性調查規程 第六節 學校ト家庭
- 第七節 教員 第八節 實施事項……一、全校訓練 二、學級訓練 三、個別訓練 四、兒童ノ作業 五、獎勵事項 六、取締 七、家庭トノ聯絡 八、訓育諸特設日 九、敬神崇祖 十、兒童ノ社會奉仕事業
- 第九節 兒童ノ管理 第十節 大字風俗人情調査
- 第十三章 養護
 - 第一節 主義 第二節 養護上ノ施設……一、積極的方面 二、消極的方面 三、結果考查
 - 第三節、補足
- 第十四章 檢閲
 - 第一節 校長ノ檢閲 第二節 訓導ノ檢閲 第三節 校長ト訓導トノ檢閲
 - 第十五章 學校中心タル教化事業ノ施設
 - 第一節 調査要所 第二節 卒業生ノ指導 第三節 責善會會則 第四節 責善會內容一覽
 - 第五節 青年會 第六節 處女會 第七節 自強會 第八節 村教育會 第九節 村內一般諸會 第十節 西豊田村少年團 第十一節 部長會 以上
 - 第十二章 訓練篇拔萃

訓練方針

勅語詔書ノ趣旨徹底、正確ナル道德的見識ノ涵養、道德的感情陶冶、道德的意志ノ鍛鍊、正當ナル意志ノ活動、訓練要目ノ實踐躬行

訓練要目ノ大要

- 内部的陶冶 自律……恩義ヲ忘ルナ、誠實、親切、元氣ナレ
- 外部的整理(他律)……規律ヲ守レ
- 訓育要録……五ヶ條ニ兒童操行錄規程、六ヶ條
- 個性調査規定……六ヶ條並ニ附録様式
- 學校ト家庭……學校ト家庭トノ連絡、全連絡要覽
- 教員……三ヶ條ノ心得

實施事項

全校訓練

御影禮拜、校訓實行、朝會、合同体操、校庭訓話、儀式、勅語詔書捧讀會、兒童會、神社參拜、神社境內ノ掃除、大神宮佛前ノ禮拜、墓地掃除

學級訓練

校訓實行宣誓、檢閲、善行錄制定、實行會

個人訓練

担任訓導指導、校長ノ指導、兒童作業……級長其他世話係、部長組長、交通巡查、掃除當番、天氣豫報ノ周知、兒童間ノ弔慰

慈善、家事ノ手傳、勤勞作業、農業趣味ノ養成、

獎勵事項……個人獎勵、團體獎勵、役員兒童ノ表彰

養雞、養兔、桐柿栽培、品評會、二蛾飼育、實習地、山羊飼育、一坪農業

取 縮……校外視察、看護並ニ看護補助

家庭ト連絡……通信簿、家庭訪問、懇談會、保護者招待會

訓育特設日……勤勞日、節約日、衛生日

社會奉仕……天氣豫報周知、指導圖標設置、裏道草刈、文書配布、公德箱設置、交通巡查

兒童管理……登校及ビ降校、禮儀及行為、答儀及ビ服裝、教室ノ出入、兒童ノ席次、姿勢及ビ舉手

机内ノ整理及學用品ノ整理、食事

各大字人情風俗調査

第十二章 訓練本論 (主要部拔萃)

第一節 訓練方針

教育勅語或申詔書並ニ國民精神作興詔書ノ趣旨ニ基キ、正確ナル道德的識見ノ涵養、並ニ道德的感情ノ陶冶、道德的意志ノ鍛鍊ヲ期シ、正當ナル意志ノ活動ヲシテ益々大ナラシメ、常ニ本校訓練ノ要目ヲ實踐躬行セシメ、以テ忠良ナル國民タラシメントス。

第二節 訓練要目ノ大綱

大綱

内部的陶冶(自律)……恩義ヲ忘レルナ、誠實ナレ、親切ナレ、元氣アレ
外部の整理(他律)……規律ヲ守レ

第三節 訓育要錄

一時ニ多クヲ望ムハ、却テ其ノ効ヲ收ムル能ハザルガ故ニ、學年相當ニ主トシテ應サントスル、訓育事項ヲ確立シ、訓育ヲナスベシ。

第一條 兒童訓育ニツキ施サントスル事項ヲ校長ノ檢印ヲ受ケテ記入ス。

第二條 前條ノ事項ハ其ノ經過ヲ記入シ校長ニ差出ス。

第三條 校長ハ必要ニ應ジ、時ニ全校ニ施スベキ訓育事項ヲ定メ、一般ニ屬行セシメ其ノ經過ヲ調査ス

査ス

第五條 各級訓育要錄ハ全職員ニ閱覽セシメ、其ノ周知ヲハカル。

要錄様式

檢印	月	日	訓育事項	月	日	經過ノ狀況	受持印

第四節 兒童操行錄規條

第一條 兒童平素ノ操行ヲ觀察シテ、訓育ニ資センガタメ兒童操行錄ヲ備フ。

第二條 兒童操行觀察ノ要項……一、身体 二、心性 三、動作 四、言語 五、學業 六、嗜好偏癖

第三條 個性觀察簿ヲ参照シテ、記入スルコト

第四條 概評ハ甲乙丙ノ評語ヲ用フ

第五條 兒童操行録ニハ教育上矯正スベキ意見モ記入スルコト

第六條 兒童操行録ハ每學期必ズ校長ノ檢閲ヲ受クルコト

第五節 個性觀察規程

第一條 兒童ノ個性觀察ハ八ケ年ヲ通ジテ調査ス

第二條 各受持教員ハ受持兒童ノ個性ヲ觀察シ其ノ都度之ヲ帳簿ニ記入ス

第三條 個性觀察ノ要項ヲ定ムルコト次ノ如シ

一、家庭……家族四圍ノ狀況、學習、兄弟ノ行狀等

二、學校……學習、作業、遊戲交際、言語習癖ノ狀況

三、特殊ノ行爲

四、觀察摘要……知識、感情、意志、身體、性格、才能

五、教養上ノ取扱……訓練上、養護上、教授上、經過

第四條 個性觀察簿ハ學期毎ニ、校長ノ檢閲ヲ受クルコト

第五條 個性觀察ノ結果ハ、操行査定簿ニ記入ス

第六節 家庭ト學校

學校ハ個別教育ヲ輕視スルニ非レドモ、概シテ共同教育ノ場所ニシテ、家庭ハ個別的教育ノ場所ナリ

兩者各々得失アルガ故ニ、學校ハ家庭ノ協力ヲ俟テ、充分其效果ヲ全フスルコトヲ圖ラザルベカラズ然シテ、家庭ノ協力ヲ得ルニハ、家庭心得、保護者懇談會、母姊會、家庭訪問、通信簿等ノ方便ニ倚ルノ外ナシ、故ニ當校ニテハ、家庭心得、保護者心得等ヲ配布シ、更ニ前記諸會トヨク連絡協調ノ途ヲ講ズ。

學校家庭連絡要覽……略記

第七節 職員

一、職員協力ノ間斷ナキ注意ト、永續的勞力トニヨリ訓育ノ徹底ヲ期スベシ。

一、道德的習慣ハ、教師ノ示範、實踐指導ニヨルベキモノナルヲ以テ、教師ハ絶エズ自己品性ノ修養

ニ努メ、常ニ善良ナル範ヲ垂レ、不知不識ノ間ニ、感化セシムルコトニ努ムベシ。

一、訓練ノ徹底ヲ顯著ナラシメンニハ、家庭トノ連絡ニ留意シ、常ニ學校教養ノ主義方針並ニ、其ノ

實際ヲ家庭ニ周知セシムベシ、「家庭ト學校」省略ス

第八節 實施事項

實行主義ニヨリ、實行ノ機會ヲ多クシ、自治的精神ヲ鞏固ナラシメ、實行意志ノ鍛鍊ニ努ム。

(一) 全校訓練

一、御影禮拜 毎朝登校ノ際、玄關前ニテ敬禮ス、下校歸宅ノ際全上。

二、校訓宣誓 登校着席ノ後、直チニ校訓ヲ謹讀シ、其ノ實行ヲ誓ヒ、下校ノ際其ノ反省ヲナス。

三、朝會 始業十分前ヨリ次ノ順序ニヨリ行フ。

- (1) 喇叭ノ合圖ニヨリ一同校庭玄關前ニ集合。
 - (2) 級長ノ號令ニヨリ、各學年兒童整頓ヲナス。
 - (3) 受持訓導列間ヲ巡視シ、容儀並ニ健康狀態等ヲ檢閲ス。
但シ職員一同ニテ全級ヲ巡閲スルコト月一回。
 - (4) 職員ト兒童トノ會禮
 - (5) 皇太神宮並ニ宮城遙拜(全体)
 - (6) 訓 話 イ、看護當番ノ訓話 ロ、學校長ノ訓話
 - (7) 呼吸運動
 - (8) 喇叭ノ合圖ニヨリ教室ニ入ル
- 四、全校合同体操 共同一致ノ精神ヲ養ヒ兼テ團體的動作ニ慣レシメ、且ツ國民的精神ヲ涵養スルヲ以テ目的トス。
- (1) 朝會ノ際……每週一
 - (2) 學校創立記念日……每月一回
 - (3) 臨時ニ
- 五、校庭訓話 (1) 每週月曜日始業前ニ (2) 學校創立記念日ニ (3) 臨時ニ
- 六、儀 式 (1) 三大節 (2) 各種記念日 (3) 入學式、終業式 卒業並ニ修業式
- 七、勅語、詔書奉讀會 (1) 勅語讀奉會(毎月三十日) (2) 詔書奉讀會(每學期始)
- (3) 國民精神作興詔書 毎月十日 以上兒童職員同時
- 八、兒童ノ會合 (1) 方面部長會 (2) 級長會 (3) 大字兒童會 (4) 其他諸係役員會

九、神社參拜

- (1) 兒童全体(毎年一回) (2) 入學兒童(高一、高二)四月入學ノ際
 - (3) 卒業兒童(三月二十五日)在學中御庇護ノ 謝及ビ卒業報告ノ爲、鎮守社參拜ヲナシ、記念
ノタメ植樹シテ紀念札ヲ建ツ。
 - (4) 新年祭(一月二日)高等科生及ビ尋常科六學年生參拜ヲナス。
- 十、神社境内ノ掃除 十一、每朝大神宮並ニ佛前拜禮 十二、毎月ノ墓地掃除

(二) 學級訓練

- 一、宣 誓 毎朝各學級教室ニテ其ノ訓練要項ニ對シ實踐躬行ノ宣誓ヲナス。
- 二、檢 閱 (1) 容姿 (2) 身体 (3) 机内並ニ學用品 (4) 其ノ他一般
- 三、善行録 各學級ニ備付ケ、兒童職員共同記入ヲナス。
- 四、實行會 各學級ニ於ケル自治委員ニヨリ、教室ノ出入、清潔整頓、其他各學級ニテ、實行スベキ事項ヲ協議シ、相互ニ善行ニツトム。

(三) 個別訓練

- 一、担任訓導ノ指導 個性觀察ヲナシ、個別指導ヲナス。
- 二、校長ノ指導 尋常科並ニ高等科卒業生ニ對シ、各個人ノヲ招致シ、主トシテ、其ノ兒童ノ將來ニ立脚セル指導ヲナス。

(四) 兒童作業

兒童ヲシテ、勤勞ヲ勵ミ、自律的ノ生活ヲナシ自治ノ習慣ヲ体得セシムル爲ニ、次ノ如キ役員事務

並ニ諸作業ニ從事セシム。

- 一、級長其他學級諸世話係
- 二、部長組長一部落兒童ノ世話並ニ、家庭ト學校トノ聯絡機關トナル
- タメニ、上級兒童ヲ任命ス
- 三、交通巡查(上級男生交替ニテ之ニ當リ、隔日ニ定期間ニ毎朝縣道ノ要所ニ立チテ左側通行ノ勵行ヲナス)
- 四、天氣豫報周知員(養蠶期一般村民ニ天氣ヲ豫報スル爲メ、高等科上級生ニ歸校ノ際報知旗ヲ持チ歸ラシメ、之ヲ所定ノ豫報竿ニ掲揚ス)
- 五、掃除當番
- 六、兒童弔慰(疾病災害死亡ノ場合ニ見舞會葬ヲナサシム)
- 七、慈善(慈善箱ヲ備ヒツケ慈善スヘキ事ニ際會シタル時隨時喜捨セシム)
- 八、家事ノ補助
- 九、勤勞日作業(障子ノ切張、机腰掛廊下並ニ桓根ノ修理)
- 十、農業趣味養成方案(1) 養雞飼育……本村ノ副業獎勵ニ基キ高等科生ニ之ヲ課シ動物愛護ノ精神養成ト共ニ養雞飼養上ノ知識ヲ授ケ、其ノ利益ハ學級財産トシテ、圖書購入費ニ供ス
- (2) 養 兔……全前ノ目的ヲ以テ、尋ニ以上ニ飼育セシム
- (3) 實習地ノ管理……高等科兒童ヲシテ之ニ當ラシメ、農業上ノ趣味涵養ヲナス
- (4) 桐栽培……各學級ニ一本位ツ、校地ノ空地ニ植樹セシメ、養雞副産物タル鶏糞ヲ肥料トシテ施シ、其ノ賣上金ハ、運動具費ニ充ツ
- (5) 柿栽培……桓根利用トシテ三十本植樹シ、鶏糞ヲ肥料トシテ施ス。以下全前
- (7) 品評會……一坪農業收穫物ノ品評會ヲ開キ、賞ヲ與ヘテ之ヲ獎勵シ、且ツ農業ノ趣味ヲ振起シ、其ノ賣上金ハ積立ヲナシ、旅行費ノ補助ヲナス
- (7) 二蛾飼育……高等科生ニ實習セシメ收購ハ、之ヲ一手ニ賣却シ、全部ノ兒童ニ割リ返シ旅行費ニ積立テシム。品評會ヲ催スコト前ニ全ジ
- (8) 一坪農業尋常科

五年以上ニ之ヲ課シ、學校配布ノ、作物ヲ栽培セシム (9) 山羊飼育……副業獎勵、動物愛護精神涵養ノタメ、學校ニテニ匹飼養シ、高等科生ニ實習セシム)

(五) 獎 勵

- 一、個人獎勵 操行學術勤勉ノ優良兒童ヲ、每學期每學年末表彰ス。
- 二、團體獎勵 自治的訓練、學業成績、出席歩台、貯金歩台、身体保健等ノ優良學級ニ、表彰額ヲ與ヘテ表彰ス。
- 三、役員兒童ノ表彰 特ニ自治的ニ盡力シタル役員ヲ表彰ス。

(六) 取 締

- 舊來ノ所謂靜的教育ハ、漸次過去ノモノトシテ葬ラレントシツアルモ、未ダ事ニ當リ理非ノ判斷明確ナリトイフ能ハザル幼少ナル兒童ヲ取扱フノ吾人ハ、適當ナル指導誘掖ノ下ニ、自發的活動ヲナサシメザルベカラズ、本校主義ヲ此ニ置キ、左記施設ノ勵行ヲ期シ、其ノ徹底ヲハカリツツアリ。
- 一、校外視察(毎月一回以上各自受持區域ヲ巡視シ、禮儀姿勢容儀言葉遣運動遊戲等ノ調査ヲナシ字兒童ノ適當ナル指導誘掖ヲナス。
 - 二、看 護(始業前及ビ放課時間職員此ノ任ニアタル。
 - 三、補助看護(職員看護ノ補助員トシテ、高學年ノ兒童之ニアタル)
 - (七) 家庭トノ聯絡